

令和7年度
(2025年度)

学生の葉
シラバス (授業要綱)
1 年次

学籍番号

氏 名

福岡医療短期大学
歯科衛生学科

建学の精神

歯科衛生学に関する専門の学術を教授研究し、教養と良識を備えた有能な歯科衛生士を養成し、保健福祉に貢献すると共に、歯科衛生学の進展に寄与する

教育の理念

本学は、「教育基本法及び学校教育法の精神に基づき、歯科衛生士に必要な専門の知識と技術を教授研究し、教養と良識を備え、口腔医学に基づいた歯科医療を実践できる有能な人材を育成するとともに、もって医療、保健、福祉に寄与する」（学則第1条）ことを使命とする。

近年、医療・保健・福祉を取り巻く環境の変貌は著しく、それらの高度化・専門化が進行している。これに伴い、歯科医療チームの一員としての歯科衛生士の役割はますます重要視されるとともに、指導的役割を果たすことのできる優秀な人材の育成が強く求められている。これらの社会的要請に応えるために、幅広い知識と高度な技術を兼ね備えた歯科衛生士の養成を目指す。

入学者受入れの方針（アドミSSION・ポリシー）

本学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める人材を育成するために、次に掲げる「知識・理解・技能」や「思考力・判断力・表現力」及び「態度・主体性」を備えた人を求めます。

- 1 入学後の修学に必要な基礎学力としての知識・理解や実技を行う能力を有している。（知識・理解・技能）
- 2 物事を多面的かつ論理的に考えることができる。（思考力・判断力）
- 3 自分の考えを的確に表現し伝えることができる。（表現力）
- 4 対話を通して、相互理解に努めようとする態度を有している。（態度）
- 5 口腔保健に深い関心を持ち、社会に積極的に貢献する意欲がある。（主体性）

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本学科では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた目標を達成するために、医療人としての自覚と倫理観を持ち、生涯を通じた口腔の健康管理、要介護者および高齢者や障がい者への専門的口腔ケア（口腔介護）を実践できる歯科衛生士の養成を目的にカリキュラムを編成しています。1年次から3年次へと体系的・順序性を考慮して「基礎分野」、「専門基礎分野」、「専門分野」、「選択必修分野」、「自由科目」にわけて、カリキュラムを編成し、講義、実習を適切に組み合わせた授業を開講しています。カリキュラムの体系を示すために、科目間の関連、学修の段階や順序等を表した番号をふるナンバリングを行い、カリキュラムの構造をわかりやすくシラバスに明示しています。

（教育内容）

- 1 「基礎分野」（知識・理解、態度・主体性）
生命科学および情報処理の理解を深め、豊かな感性や教養を持った歯科衛生士の育成を目指します。
また、グローバルな対人コミュニケーション能力を身につけた人材を育成します。
- 2 「専門基礎分野」（知識・理解、態度）
高度化および専門化する口腔医学に対応するために、歯科衛生士として必要な基礎医学を系統立てて理解した人材を育成します。また、疾病の予防と回復過程の知識を身につけ、歯や口腔の健康と予防に関する人間と社会の仕組みを理解し、地域における関係諸機関等との連携ができる能力を持つ人材を育成します。
- 3 「専門分野」（知識・理解・技能、思考力・判断力・表現力、態度・主体性）
生涯を通じた継続的な口腔保健管理を理解し、疾病やライフステージ別の予防法や予防システムの構築を学ぶとともに、生活環境や全身状態が多様な個人および集団に対して、専門的立場から歯科保健指導を実践する能力を身につけた歯科衛生士を育成します。また、「歯科医療チームの一員として歯科医師の診療の補助ができる歯科衛生士」、「福岡歯科大学医科歯科総合病院での臨床実習を通して、医療人としての自覚と倫理観を備え、専門性を発揮できる歯科衛生士」、「キャンパス内外の介護保険施設等での臨地実習では多職種と連携し、要介護高齢者や障がい者の口腔介護を実践できる歯科衛生士」、「口腔および全身介護の実践で必要となる生活介護や身体介護を修得し、超高齢社会に対応した知識・技能を身につけた歯科衛生士」の育成を目指します。
- 4 「選択必修分野」（知識・理解、表現力、態度・主体性）
すべてのライフステージにおける口腔保健管理のサポートに必要な豊かな人間性と職業倫理観や、生涯にわたって学修を継続する意欲を持ち、また、アジアに視点をのこした幅広いコミュニケーション能力を身につけ、国際的にも活躍できる歯科衛生士の育成を目指します。
- 5 「自由科目」（知識・理解・技能、表現力）
口腔介護の実践で必要となる生活介護や身体介護を修得し、超高齢社会に対応した知識・技能を身につけた歯科衛生士を育成します。

(教育方法)

- 1 主体的に学ぶ力を高めるために、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を実践します。(思考力・判断力、態度・主体性)
- 2 教育効果を上げるために、シラバスに学修内容や準備学修の項目を設け、ホームワークやレポートは整合性や連続性を図ると共に、形成的評価のための学期中のフィードバックを行います。(知識・理解)
- 3 目標・記録・評価の総合的ツールであるポートフォリオを3年間かけて作成し、自己の学生生活を自分自身で管理し、「ふりかえり」を行います。(態度・主体性)
- 4 国家試験に必要な専門的知識の修得確認のために外部テスト（歯科衛生士模擬試験）を導入し、結果のモニタリングを行い、自己学修の推進を図ります。また、模擬試験や国家試験対策のための時間を設定し、2年次から段階を追った学修プログラムを実施します。(知識・理解)
- 5 臨床・臨地実習は、指導教員および実習指導者から助言を受けながら知識や技能を深め、また、小グループでのグループ学修により他者の意見も聞き、考えを広げ、専門知識を活用した問題発見や問題解決の方法の修得を図ります。(知識・理解・技能、思考力・判断力・表現力、態度・主体性)

(教育評価)

- 1 履修した各講義や実習科目においては、シラバスに明記された評価方法に従い、学期末毎の学修到達度の評価を行います。不合格の者には再試験を課し、その合格を求めます。
- 2 各年次において、修得すべき全単位を取得した場合を進級とします。
- 3 3年次臨床・臨地実習の期間に、身に付けるべき能力の修得について評価します。臨床・臨地実習試験の不合格の者には再試験を課し、その合格を求めます。
- 4 3年次期末に、それまでの専門基礎分野および専門分野の修得を確認する「卒業試験」を行います。不合格の者には再試験を課し、その合格を求めます。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本学科では、建学の精神を基本理念とし、下記（Ⅰ）の目指すべき人物像に向けて、本学の学位プログラムの課程を修め、すべての単位取得を充たした上で、医療・保健・福祉を取り巻く環境の変化に対応した専門知識・技術を修得し、下記（Ⅱ）の能力を身につけた者に卒業認定を行います。

Ⅰ 目指すべき人物像

豊かな教養と人間性を持ち、口腔保健の専門性を発揮するとともに、多職種と協働、連携し、歯科衛生士のリーダーとして活躍できる人物。

Ⅱ 修得すべき能力

(知識・理解)

- 1 歯科衛生士として豊かな教養と人間性を持ち、基本的な医療・保健・福祉の知識を体系的に理解し、多様な対象者を支援することができる。

(思考力・判断力)

- 2 多様な情報や知識を論理的に分析、考察することができる。
- 3 科学的思考力を持ち、口腔保健活動における問題を発見・解決することができる。

(態度・主体性)

- 4 医療人としての自覚と倫理観を備えている。
- 5 口腔の健康管理に関心を持ち、生涯にわたって学修を継続することができる。
- 6 自己管理能力や主体性を発揮し、社会や他者のために責任ある行動をとることができる。
- 7 国際交流にも視点をおいた多様な対象者に対して幅広いコミュニケーションを図ることができる。

(技能、表現力)

- 8 根拠や理論に基づいた口腔保健管理のための知識や技能を活用し、対象者の生活の質（QOL）の向上を図ることができる。

別 表 I 歯科衛生学科（1年）

科 目		科目番号	時間数	単位	1 年前期	1 年後期	2 年前期	2 年後期	3 年前期	3 年後期	
基礎分野	科学的思考の基盤	生物概論Ⅰ	DH011001	30	1	30					
		情報処理概論Ⅰ	DH011002	18	1		18				
		情報処理概論Ⅱ	DH021003	18	1			18			
		情報処理実習Ⅰ	DH011004	42	1		42				
		情報処理実習Ⅱ	DH021005	42	1			42			
	人間と社会生活の理解	経済学	DH021011	30	1			30			
		英語Ⅰ	DH011012	60	2	30	30				
		英語Ⅱ	DH021013	30	1			30			
		キャリアデザイン	DH021014	20	1				20		
		健康生理学Ⅰ	DH011015	30	1	30					
		健康生理学Ⅱ	DH011016	30	1		30				
		解剖学	DH011101	30	2	30					
専門基礎分野	人体の構造と機能	全身疾患の病態・生理	DH021102	30	2			30			
		口腔解剖学・組織発生学Ⅰ	DH011111	30	2	30					
	歯・口腔の構造と機能	口腔解剖学・組織発生学Ⅱ	DH011112	30	1		30				
		口腔生理学	DH011113	30	2	30					
	7	口腔生化学	DH011114	30	2		30				
		口腔病理学	DH011121	30	2		30				
	疾病の成り立ちと回復の促進	口腔微生物学	DH011122	30	2	30					
		口腔薬理学	DH011123	30	2		30				
	歯・口腔の健康と予防に関する	口腔衛生学Ⅰ	DH011131	30	2	30					
		口腔衛生学Ⅱ	DH011132	30	2		30				
	26	人間と社会の仕組み	歯科衛生統計	DH031133	18	1				18	
			衛生学・公衆衛生学	DH021134	30	2		30			
衛生行政論		DH031135	18	1						18	
社会福祉論		DH031136	18	1						18	
歯科衛生士概論		歯科衛生士概論	DH011201	30	1	30					
		看護学総論	DH021202	30	1				30		
臨床歯科医学		歯科臨床概論	DH011211	30	1	30					
		歯科保存修復・歯内治療学	DH011212	30	1		30				
		歯周病治療学	DH021213	30	1			30			
		歯科補綴学	DH011214	30	1		30				
		口腔外科学	DH011215	30	1		30				
		小児歯科学	DH011216	30	1		30				
	矯正歯科学	DH011217	30	1		30					
	高齢者・障害者歯科学	DH021218	30	1			30				
9	歯科麻酔学・歯科放射線学	DH021219	30	1				30			
	歯科予防処置論（講義）Ⅰ	DH011221	20	1	20				18		
専門分野	歯科予防処置論	歯科予防処置論（講義）Ⅱ	DH021222	18	1						
		歯科予防処置実習Ⅰ	DH011223	40	1	40					
		歯科予防処置実習Ⅱ	DH011224	40	1		40				
		歯科予防処置実習Ⅲ	DH021225	40	1			40			
		歯科予防処置実習Ⅳ	DH021226	80	2			80			
		歯科予防処置実習Ⅴ	DH021227	40	1				40		
	8	歯科保健指導論（講義）Ⅰ	DH021231	20	1			20			
		歯科保健指導論（講義）Ⅱ	DH021232	18	1				18		
		栄養学	DH021233	30	1			30			
		食育	DH021234	24	1				24		
		歯科保健指導実習Ⅰ	DH011235	30	1	30					
		歯科保健指導実習Ⅱ	DH011236	30	1		30				
		歯科保健指導実習Ⅲ	DH021237	30	1			30			
		歯科保健指導実習Ⅳ	DH021238	30	1				30		
	8	歯科診療補助論（講義）Ⅰ	DH011241	20	1	20					
		歯科診療補助論（講義）Ⅱ	DH021242	24	1				24		
		歯科材料学	DH011243	30	1	30					
		歯科診療補助実習Ⅰ	DH011244	40	1	40					
		歯科診療補助実習Ⅱ	DH011245	40	1		40				
		歯科診療補助実習Ⅲ	DH021246	40	1			40			
		歯科診療補助実習Ⅳ	DH021247	40	1				40		
	7	口腔・全身介護演習Ⅱ	DH021251	80	2				80		
		臨床・臨床実習（含口腔介護施設実習）	DH031261	900	20					450	450
	20	総括	口腔保健テーマ別講義	DH031271	60	2					60
			卒業研究	DH031272	50	2				30	20
	60	必修合計			2908	98	480	530	480	354	498
選択必修分野	7	コミュニケーションスキル＊	DH022301	30	2				30		
		接遇＊	DH022302	30	2				30		
		中国語＊＊	DH022303	30	2				30		
		韓国語＊＊	DH022304	30	2				30		
		物理学＊＊＊	DH012305	18	1	18					
		化学＊＊＊	DH012306	18	1	18					
		心理学＊＊＊ ＊	DH022307	30	2			30			
		倫理学＊＊＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊	DH022308	30	2			30			
選択合計				108	7	18	0	30	60	0	
総計				3016	105	498	530	510	414	498	566
自由科目	介護研修 4	介護研修 ＊									

講義15時間～30時間を1単位、実習30時間～45時間を1単位とする。
 *コミュニケーションスキルまたは接遇を選択 **中国語または韓国語を選択
 物理学または化学を選択 *心理学または倫理学を選択
 *****介護研修は全学年選択可能（自由科目（卒業要件外科目））

福岡医療短期大学試験、 成績の評価及び進級に関する規則

(平27.4.1適用)

(試験)

- 第1条 試験は定期試験、追試験、再試験及び卒業試験とする。ただし、必要に応じ随時に試験を行うことがある。
- 2 定期試験は、学期末又は学年末に各授業科目について行う。
- 3 追試験は、病気その他やむを得ない事由により定期試験を受けることができなかった者に対し当該試験科目について行う。
- 4 再試験は、定期試験において不合格となった試験科目のある者（当該試験科目について）及び卒業試験に不合格となった者に対し、必要がある場合行う。
- 5 卒業試験は、学則第13条に定める別表Ⅰ、Ⅱの教育課程を履修した者に対して行う。

(試験方法)

- 第2条 試験は、筆記又は口頭による質疑応答又は実習、実技の審査によるほか、レポート、論文の審査又は平常の成績をもって替えることができる。

(受験資格)

- 第3条 次の各号の一に該当する者は試験を受けることができない。ただし、相当の事由がある場合は、仮に試験を受けさせることができる。
- (1) 各授業科目について、出席日数が授業時間数の3分の2に達しない者及び実習については5分の4に満たない者
- (2) 学則第33条の規定により現に懲戒（停学）処分中の者
- (3) 学生納付金及び追試験又は再試験の場合における受験料を未納の者
- (4) その他短大学長の指定した者

(受験者心得)

- 第4条 受験者は次の各号に定める事項を遵守しなければならない。
- (1) 試験開始後20分経過した後は試験場に入る（受験する）ことを認められないこと及び試験開始後30分までは退場を認められないこと。
- (2) 試験場においては、必ず学生証（追・再試験の場合は追・再試験受験票、以下本号において同じ）を机上に提示すること（当日学生証を忘れた者は、あらかじめ事務室で臨時学生証の交付を受けること。）。
- (3) 試験場においては、指定の場所に着席すること。
- (4) 試験場においては、指定ある場合を除きノート、教科書、参考書等を机に置かないこと。
- (5) 試験場においては、監督者の指示に従うこと。
- (6) 答案用紙は白紙でも学籍番号、氏名を明記し、提出すること。
- (7) 試験に関する掲示に注意すること。
- (8) 追・再試験を受けようとする者は、短大学長の許可を受け、受験料を納付し追・再試験受験票の交付を受けること。

(試験中の不正行為)

第5条 試験中不正行為を認めたときは、監督員は直ちに答案を没収し、退場を命ずるとともに試験終了後速やかに短大学長に報告しなければならない。

2 不正行為を行った者に対しては、当該学期の全受験科目の評価を無効とし、かつ、学則第33条の規定により懲戒処分を行うものとする。

(成績の評価)

第6条 試験の成績は、優・良・可・不可の評語をもって表わし、可以上を合格とする。ただし、再試験においては可又は不可とし、卒業試験においては合又は否とする。

(進級及び留級)

第7条 学則第16条の規定により、当該学年において修得すべき全授業科目に合格した場合は進級とし、不合格の科目がある場合は、短大学長が進級又は留級を決定する。

(留級者)

第8条 留級者は原則として当該学年において修得すべき全授業科目のうち特に免除された科目のほかの授業に出席し、試験を受けなければならない。

福岡医療短期大学試験、 成績の評価に関する細則

(平31.4.1適用)

試験、成績の評価等の取り扱いについて

1 試験の成績における評語の点数区分等

試験の成績における各評語の点数区分は次のとおりとする。

なお、「優、良、可、不可」はそれぞれ「A、B、C、D」で表すこともできる。

(1) 定期試験等

優	(A)	100点～80点
良	(B)	79点～70点
可	(C)	69点～60点
不可	(D)	59点～0点

(2) 卒業試験等

合	100点～70点
否	69点～0点

2 追・再試験の採点方法

(1) 追試験

点数は最高100点とする。

(2) 再試験

点数は最高60点とする。ただし、卒業試験の再試験は最高70点とする。

3 再試験欠席者の成績評価

(1) 再試験欠席者の成績(学年成績)の評価は、通常、定期試験の成績をもって代えるものとするが、これによることなく、担当教員が必要に応じてその他の方法により評価を行うことができる。

(2) 再試験の成績報告書において欠席の旨表示された者については、定期試験の成績をもってその学年成績とする。

福岡医療短期大学 G P A に関する実施要項

(令5.4.1適用)

(目的)

第1条 この要項は、福岡医療短期大学（以下「本学」という。）におけるグレード・ポイント・アベレージ（履修科目の成績の平均値。以下「G P A」という。）に関し必要な事項を定め、教育課程における学修到達度を客観的に評価することにより、大学教育の質を保証するとともに、学修支援等に資することを目的とする。

(評価等)

第2条 学生が履修した授業科目のグレード・ポイント（評価により与えられる数値。以下「G P」という。）は、次表のとおりとする。

区 分	グレード	1単位あたりのG P	成績評価基準	学修成果の達成度
合 格	S	4	100点～90点	基準を大きく超えて優秀である
	A	3	89点～80点	基準を超えて優秀である
	B	2	79点～70点	望ましい基準に達している
	C	1.5	69点～60点	単位を認める基準に達している
	C *	1	再試験合格60点	単位を認める最低限の基準には達している
不合格	D	0	59点～0点	基準を下回っている

(G P A の算定)

第3条 各学期の G P A（以下「学期 G P A」という。）及び累積の G P A（以下「累積 G P A」という。）は、次の式により計算するものとし、その数に小数点以下第一位未満の端数があるときは、小数点以下第三位の値を四捨五入するものとする。

学期 G P A =
$$\frac{(\text{当該学期の履修科目の G P} \times \text{当該科目の単位数}) \text{の総和}}{\text{当該学期の履修登録した科目の総単位数}}$$

累積 G P A =
$$\frac{(\text{全学期の履修科目の G P} \times \text{当該科目の単位数}) \text{の総和}}{\text{修得した科目の総単位数}}$$

(対象授業科目等)

第4条 本学で進級あるいは卒業により認定されたすべての授業科目を G P A の対象授業科目とする。

2 前項の規定にかかわらず、次の場合は、G P A の対象外科目とする。

- (1) 選択科目で必要単位数を超えて取得した科目
- (2) 編入学または転入学等の単位認定科目
- (3) 本学入学前に修得した単位認定科目
- (4) その他教授会で認めた G P A 算出除外科目

(G P A の公表)

第5条 G P A は、成績配付時に学生へ公表する。

(G P A の活用)

第6条 学期 G P A は、次のとおり活用するものとする。

- (1) 1つの学期（1セメスター）の G P A が 1.5 未満となった場合は、学生本人を呼び出し、学年担任による注意と指導を行う。
 - (2) G P A 1.5 未満が 2 学期（2セメスター）連続した場合は、学生本人及び保証人（父母又はこれに準ずる者）に対して学科長と学年担任による面談を実施し、学年担任と助言教員等が継続的な学修支援等を行う。
 - (3) G P A 1.5 未満が 3 学期（3セメスター）連続した場合は、学生本人及び保証人（父母又はこれに準ずる者）に対して学科長と学年担任による面談を実施し、退学するか、就学を継続するか意思確認を行う。就学意思がある場合には、学年担任及び助言教員等が継続的な学修支援・生活指導等を行う。なお、面談に応じない、または面談の結果、学修意欲の改善が著しく困難と判断された場合は、退学勧告を行うことができる。
- 2 累積 G P A は、次のとおり活用するものとする。

- (1) 学生の主体的な学修を促進するための指標
 - (2) 学生の学業成績を総合的に判断する指標
 - (3) 特別奨学生や奨学金等の算定基礎資料
 - (4) 学生の推薦や就職活動等にかかる資料
- (その他)

第7条 この要項に定めるもののほか、GPAの取扱いに関し必要な事項は、学務・FD委員会が別に定める。

福岡医療短期大学出欠の確認に関する細則

(平25.4.1適用)

- 1 福岡医療短期大学出欠の確認に関する細則は、次のとおりとする。
- 2 出席の確認は各授業開始時に行う。
- 3 出席確認時にあらかじめ決められた座席に着席していない者は欠席とする。
- 4 授業担当者が正当な理由がないと判断した授業途中の退室は欠席とする。
- 5 授業中の携帯電話の使用は禁止する。使用した者はその授業を欠席とし、退室を命じる。
- 6 法令、天災その他本人の責によらない場合には、速やかに届け出ること。

シラバス（授業要綱）

科目ナンバリングのコード配分規則（歯科衛生学科：科目群）

（例）DH011001 『8桁』の科目番号

DH 01 1 001 ⇒ 『生物学』

	学部	学年水準	履修区分	通し番号
（例）	DH （歯科衛生学科）	01 （第1年次）	1 （必修）	001 （先頭の科目）
詳細	別表1	別表2	別表3	別表4

別表1〔学科〕

識別文字	学科名等	英語標記
DH	歯科衛生学科	Dental Hygiene
HP	専攻科	Dental Hygiene Postgraduate Course

別表2〔学年水準〕

番号	付加情報	番号	付加情報
00	導入レベル	21	専攻1年
01	1年		
02	2年		
03	3年		
04	1～3年		

別表3〔履修区分〕

番号	付加情報
0	なし
1	必修
2	選択必修
3	自由

別表4-1〔通し番号〕歯科衛生学科

番号	科目分野	科目群
001～100	基礎分野	科学的思考の基盤 001～ 人間と社会生活の理解 011～
101～200	専門基礎分野	人体の構造と機能 101～ 歯・口腔の構造と機能 111～
		疾病の成り立ちと回復の促進 121～
201～300	専門分野	歯・口腔の健康と予防に関する人間と社会の仕組み 131～
		歯科衛生士概論 201～ 臨床歯科医学 211～
		歯科予防処置論 221～ 歯科保健指導論 231～
		歯科診療補助論 241～ 口腔・全身介護演習 251～
		臨床・臨地実習 261～ 総括 271～
301～400	選択必修分野	301～
401～500	自由科目	介護研修 401～

別表4-2〔通し番号〕専攻科口腔保健衛生学専攻

番号	科目分野
001～100	専攻外科目
101～200	関連科目
201～300	専門科目

歯科衛生学科

Department of Dental Hygiene

■学習・教育目標

近年、医療・保健・福祉を取り巻く環境の変貌は著しく、それらの高度化・専門化が進行している。これに伴い、歯科医療チームの一員としての歯科衛生士の役割はますます重要視されるとともに、指導的役割を果たすことのできる優秀な人材の育成と高齢社会に対応した歯科衛生士が強く求められている。また本学は、キャンパス内に福岡歯科大学および同大学医科歯科総合病院、福岡看護大学、介護老人保健施設、介護老人福祉施設を擁する福岡学園のグループ校であり、医療・保健・福祉教育に絶好の環境にある。これらの施設での臨床・臨地実習を通じて、医療人としての自覚と倫理観を持ち、地域歯科保健のリーダーとなり、また「口腔・全身介護」を実践できる歯科衛生士の養成を目標とする。

科目領域の学習・教育目標

歯科衛生学科

基礎分野

生命科学および情報処理の理解を深め、豊かな感性や教養を持った歯科衛生士を目指す。また、国際交流にも視点をおいた対人コミュニケーションを身につける。「選択必修：物理学/化学」

専門基礎分野

高度化・専門化する口腔医学に対応するために、歯科衛生士として必要な基礎医学を系統立てて理解する。また、疾病の予防と回復過程の知識を身につけ、口腔のセルフケア能力を高めるための教育的役割や、地域における関係諸機関等との調整能力を養う。

専門分野

生涯を通じた継続的な口腔保健管理を理解し、疾患やライフステージ別の予防法や予防システムの構築を学ぶとともに、多様な生活環境や全身状態にある個人および集団に対して、専門的立場から歯科保健指導ができる能力を身につける。また、歯科医療チームの一員として歯科医師の診療の補助ができる歯科衛生士を目指す。さらに、口腔および全身介護の実践で必要となる生活介護や身体介護を、根拠に基づいた技術により修得し、超高齢社会に対応した多様な情報・知識を身につける。臨床・臨地実習は福岡歯科大学医科歯科総合病院での臨床実習を通して、医療人としての自覚と倫理観を備え、多職種と連携して専門性を発揮できる歯科衛生士を目指す。また、キャンパス内の介護保険施設での臨地実習を通して、高齢者や障害者の「口腔および全身介護」を実践できる歯科衛生士を目標とする。

選択必修分野

すべてのライフステージにおける口腔保健のサポートに必要な豊かな人間性と職業倫理観を身につける。また、国際交流にも視点をおいた幅広いコミュニケーション能力を身に付け、研究者として国際的にも活躍できる歯科衛生士を目指す。

自由科目

口腔介護の実践で必要となる生活介護を、根拠に基づいた技術により習得し、超高齢社会に対応した多様な情報・知識を身につける。

人間と社会生活の理解

科学的思考の基盤

人体の構造と機能

歯・口腔の構造と機能

疾病の成り立ちと回復の促進

歯・口腔の健康と予防に関する人間と社会の仕組み

歯科衛生士概論

臨床歯科医学

歯科予防処置論

歯科保健指導論

歯科診療補助論

口腔・全身介護演習

臨床・臨地実習

総括

1 年 次

前期

後期

DH011012 英語 I	②	
DH011015 健康生理学 I	①	DH011016 健康生理学 II ①
DH011001 生物学 ①		DH011002 情報処理概論 I ①
DH012305 物理学 ①		DH011004 情報処理実習 I ①
DH012306 化学 ①		
DH011101 解剖学 ②		
DH011111 口腔解剖学・組織発生学 I ②		DH011112 口腔解剖学・組織発生学 II ①
DH011113 口腔生理学 ②		DH011114 口腔生化学 ②
DH011122 口腔微生物学 ②		DH011121 口腔病理学 ②
		DH011123 歯科薬理学 ②
DH011131 口腔衛生学 I ②		DH011132 口腔衛生学 II ②
DH011201 歯科衛生士概論 ①		
		DH011212 歯科保存修復・歯内治療学 ①
		DH011214 歯科補綴学 ①
		DH011215 口腔外科学 ①
		DH011216 小児歯科学 ①
		DH011217 矯正歯科学 ①
DH011221 歯科予防処置論(講義) I ①		
DH011223 歯科予防処置実習 I ①		DH011224 歯科予防処置実習 II ①
DH011235 歯科保健指導実習 I ①		DH011236 歯科保健指導実習 II ①
DH011241 歯科診療補助論(講義) I ①		
DH011243 歯科材料科学 ①		
DH011244 歯科診療補助実習 I ①		DH011245 歯科診療補助実習 II ①

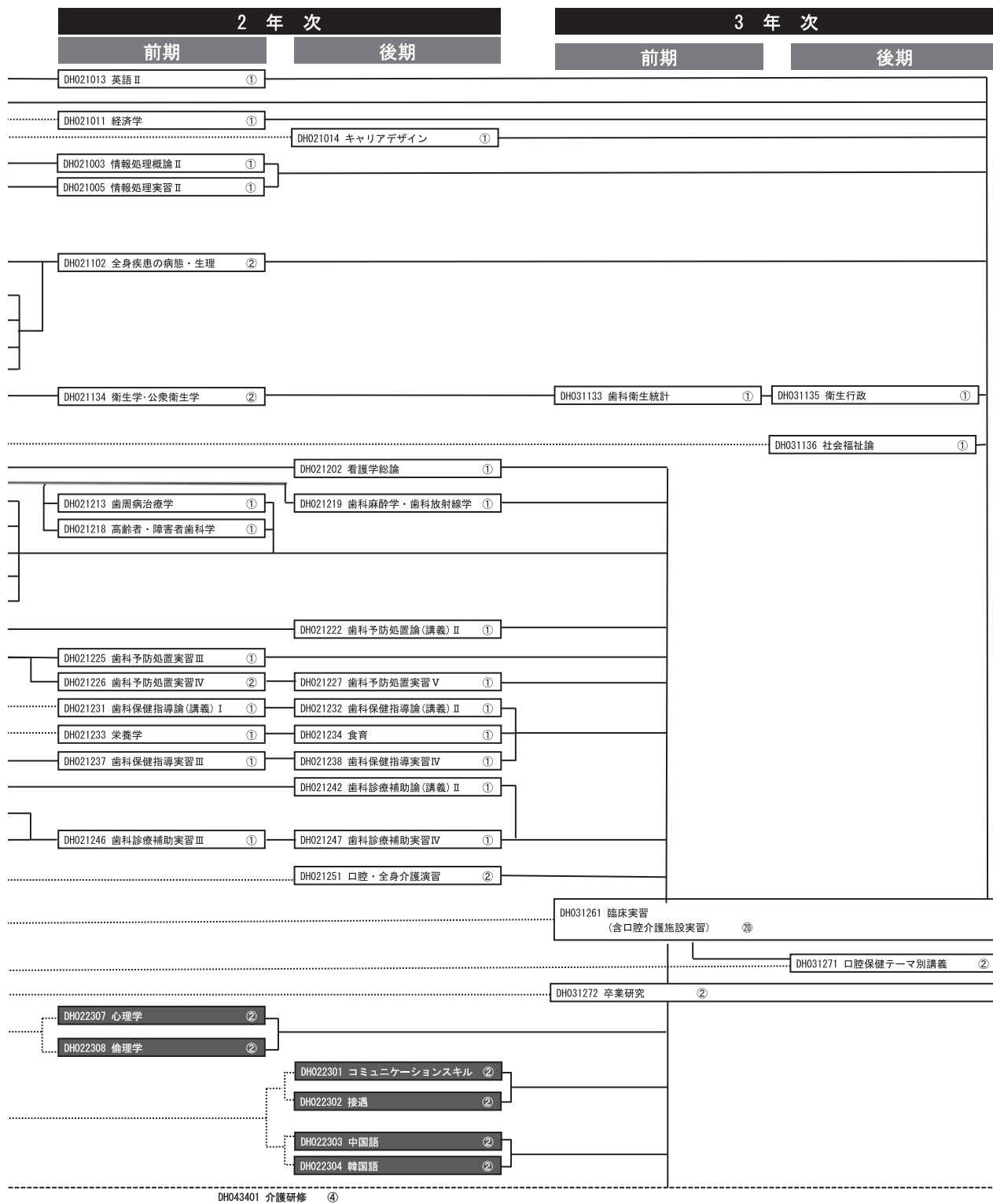
必修科目

選択科目

自由科目

○の中の数字は単位数

■キーワード
 歯科予防処置
 歯科診療補助
 歯科保健指導
 口腔介護



1 年 次

基礎分野科目

生 物 学	〔DH011001〕	71
情 報 処 理 概 論 I	〔DH011002〕	73
情 報 処 理 実 習 I	〔DH011004〕	75
英 語 I	〔DH011012〕	78
健 康 生 理 学 I	〔DH011015〕	82
健 康 生 理 学 II	〔DH011016〕	84

専門基礎分野科目

解 剖 学	〔DH011101〕	87
口腔解剖学・組織発生学 I	〔DH011111〕	89
口腔解剖学・組織発生学 II	〔DH011112〕	91
口 腔 生 理 学	〔DH011113〕	94
口 腔 生 化 学	〔DH011114〕	96
口 腔 病 理 学	〔DH011121〕	98
口 腔 微 生 物 学	〔DH011122〕	101
歯 科 薬 理 学	〔DH011123〕	104
口 腔 衛 生 学 I	〔DH011131〕	107
口 腔 衛 生 学 II	〔DH011132〕	110

専門分野科目

歯 科 衛 生 士 概 論	〔DH011201〕	112
歯 科 臨 床 概 論	〔DH011211〕	115
歯科保存修復・歯内治療学	〔DH011212〕	118
歯 科 補 綴 学	〔DH011214〕	121
口 腔 外 科 学	〔DH011215〕	123
小 児 歯 科 学	〔DH011216〕	126
矯 正 歯 科 学	〔DH011217〕	129
歯科予防処置論（講義） I	〔DH011221〕	131
歯科予防処置実習 I	〔DH011223〕	133
歯科予防処置実習 II	〔DH011224〕	135

齒科保健指導實習Ⅰ	〔DH011235〕		138
齒科保健指導實習Ⅱ	〔DH011236〕		141
齒科診療補助論（講義）Ⅰ	〔DH011241〕		143
齒科材料学	〔DH011243〕		145
齒科診療補助實習Ⅰ	〔DH011244〕		147
齒科診療補助實習Ⅱ	〔DH011245〕		150

選択必修分野科目

物理学	〔DH012305〕		153
化学	〔DH012306〕		155

自由科目

介護研修	〔DH043401〕		157
------	------------	-------	-----

生 物 学

開講時期： 1 年次前期
 授業時間数： 15 コマ；30 時間 1 単位
 受験資格要件： 2/3（10 コマ）以上の出席
 科目番号： DH011001
 評価責任者： 古野 みはる
 授業担当者： 藤兼 亮輔

1. 一般目標

ヒトの体がどのように構成され、生きていくためにどのような働きを営んでいるかを理解するため、生体が示す生命現象の基本的なしくみについて学習するとともに、医療や健康に関する事柄を科学的思考で考察できるようにする。本講義を通じて、口腔微生物学、口腔生理学、歯科薬理学等専門科目の理解に不可欠な基礎知識を修得する。

2. 教育方法

講義
 問題演習

3. 教育教材（授業で使用する教材・機材を記載する）

教科書、PC、プリント

4. 学修方法

授業は予習していることを前提に開始する。講義には指定の教科書を持参する。講義中にノートを取る。講義終了後に、講義毎に配布される演習問題を教科書とノートを参考にして解き、理解を深める。本講義は後期の「口腔生化学」の理解に必要である。
 [単位修得に必要な授業外学修時間：15 時間]

5. 評価方法

[形成的評価] 演習問題（小テスト）
 [フィードバック] 講義毎の演習問題（小テスト）の解答と解説を講義中に行う。
 [総括的評価] 記述試験（90%）授業態度等（10%）
 [フィードバック] 試験結果は試験終了後に通知し、質問等によりフィードバックする。

6. 教科書・テキスト

1. 和田 勝 著 基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 第4版 羊土社 2020 年

7. 参考書

1. 歯科衛生学シリーズ 生物学 医歯薬出版 2023 年

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号 項目名 [授業方法]	学修目標(GIO)	行動目標 (SB0s)	予習・復習項目と 必要時間	教育目標 領域
1	4/8 (火) 4 限	藤兼	ユニット1 細胞のプロフィール [講義]	(1)細胞を構成する物質を理解する	(1)原子、水の性質、モノマーとポリマー、タンパク質、核酸、糖、脂質を説明できる	教科書の精読と演習問題の解答 p54-65 (1 時間)	認知 (想起)
2	4/15 (火) 4 限	藤兼	ユニット1 細胞のプロフィール [講義]	(1)細胞小器官の構造と機能を理解する	(1)核、小胞体とリボソーム、ゴルジ装置、ミトコンドリア、葉緑体を説明できる	教科書の精読と演習問題の解答 P49-54, 66-70, 72 (1 時間)	認知 (想起)
3	4/22 (火) 4 限	藤兼	ユニット2 細胞の形と機能を定めるもの [講義]	(1)遺伝情報の流れを理解する	(1)DNA の発見、DNA の構造、セントラルドグマ、転写とその制御を説明できる	教科書の精読と演習問題の解答 p78-86 (1 時間)	認知 (想起)
4	5/13 (火) 4 限	藤兼	ユニット2 細胞の形と機能を定めるもの [講義]	(1)タンパク質合成を理解する	(1)遺伝暗号、翻訳、タンパク質を説明できる	教科書の精読と演習問題の解答 p87-99 (1 時間)	認知 (想起)
5	5/20 (火) 4 限	藤兼	ユニット2 細胞の形と機能を定めるもの [講義]	(1)細胞骨格の構造と機能を理解する	(1)アクチンフィラメント、微小管、中間径フィラメントを説明できる	教科書の精読と演習問題の解答 P70-71, 131-138 (1 時間)	認知 (想起)
6	5/27 (火) 4 限	藤兼	ユニット3 細胞の活動とエネルギー [講義]	(1)解糖と脂肪酸代謝を理解する	(1)細胞のエネルギー源と、解糖、クエン酸回路、脂肪酸β酸化を説明できる	教科書の精読と演習問題の解答 p103-111 (1 時間)	認知 (想起)

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号 項目名 [授業方法]	学修目標 (GIO)	行動目標 (SBOs)	予習・復習項目と 必要時間	教育目標 領域
7	6/3 (火) 4 限	藤兼	ユニット3 細胞の活動とエネルギー [講義]	(1)動物のエネルギー代謝(細胞呼吸)を理解する	(1)ミトコンドリアの電子伝達系、酸化的リン酸化、ATPを説明できる	教科書の精読と演習問題の解答 p111-113 (1時間)	認知 (想起)
8	6/10 (火) 4 限	藤兼	ユニット3 細胞の活動とエネルギー [講義]	(1)植物のエネルギー代謝を理解する	(1)葉緑体の光合成、炭酸同化反応、代謝経路ネットワークを説明できる	教科書の精読と演習問題の解答 p113-122 (1時間)	認知 (想起)
9	6/17 (火) 4 限	藤兼	ユニット4 細胞を増やすしくみ [講義]	(1)細胞増殖の制御を理解する	(1)細胞周期を説明できる	教科書の精読と演習問題の解答 p177-178 (1時間)	認知 (想起)
10	6/24 (火) 4 限	藤兼	ユニット4 細胞を増やすしくみ [講義]	(1)遺伝情報の複製を理解する	(1)DNA複製を説明できる	教科書の精読と演習問題の解答 p169-174 (1時間)	認知 (想起)
11	7/1 (火) 4 限	藤兼	ユニット4 細胞を増やすしくみ [講義]	(1)遺伝情報の恒常性を理解する	(1)テロメア、DNA修復を説明できる	教科書の精読と演習問題の解答 p178-183 (1時間)	認知 (想起)
12	7/8 (火) 4 限	藤兼	ユニット4 細胞を増やすしくみ [講義]	(1)細胞分裂の仕組みを理解する	(1)体細胞分裂、有糸分裂、減数分裂を説明できる	教科書の精読と演習問題の解答 p175-177, 186-190 (1時間)	認知 (想起)
13	7/15 (火) 3 限	藤兼	ユニット4 細胞を増やすしくみ [講義]	(1)遺伝の法則を理解する	(1)メンデルの遺伝の法則、ヒトにおける遺伝学を説明できる	教科書の精読と演習問題の解答 p34-39 (1時間)	認知 (想起)
14	7/15 (火) 4 限	藤兼	ユニット5 細胞間のコミュニケーション [講義]	(1)細胞同士の情報伝達を理解する	(1)細胞接着、シグナル分子、受容体、情報伝達を説明できる	教科書の精読と演習問題の解答 p146-167 (1時間)	認知 (想起)
15	7/22 (火) 4 限	藤兼	ユニット6 生きること、死ぬこと [講義]	(1)細胞の再生と死を理解する	(1)細胞再生、ネクローシスとアポトーシス、細胞の老化、寿命、がんを説明できる	教科書の精読と演習問題の解答 p256-273 (1時間)	認知 (想起)

情報処理概論 I

開講時期： 1 年次後期
 授業維持関数： 9 コマ；18 時間 1 単位
 受験資格要件： 2/3（6 コマ）以上の出席
 科目番号： DH011002
 評価責任者： 古野 みはる
 授業担当者： 内田 竜司

1. 一般目標

本講義において、学生は多様な情報や知識を論理的に分析・考察する能力を獲得するために、情報リテラシーに関する基礎知識とともに、パソコンの構造、オペレーティングシステムとしてのWindowsの基礎、アプリケーションソフトの基礎、各種アプリケーションソフトの利用法や連携について理解する。

2. 教育方法

スライドによる解説を中心に、内容に応じて双方向学修形式の講義を行う。

3. 教育教材

PC、プリント、PDFファイル、動画

4. 学修方法

講義中に配付資料の内容を理解し、要点や補足を追記すること。講義時間内に実施する確認テスト（Googleフォーム）により、講義内容の理解度を確認する。また、授業で提示する演習課題に取り組み、疑問点は随時、質問すること。授業後は、講義・実習内容の確認をその日のうちに行うこと。本講義は、「情報処理実習 I」の演習課題や、2学年開講の「情報処理概論 II」「情報処理実習 II」の理解に必要である。

【単位修得に必要な授業外学修：27時間】

5. 評価方法

〔形成的評価〕講義時間内で実施する確認テストにより講義内容の理解度を確認する。また、授業で提示する演習課題に取り組み、随時、指導する。

〔フィードバック〕講義時間内で実施する確認テストは、回答終了時に得点が表示され、理解度を自己確認できる。また、演習課題の模範解答例を講義・実習時に提示するので、自己評価し、修正する。

〔総括的評価〕講義時間内で実施する確認テストおよびメールに添付して提出する演習課題について、提出方法を含め評価し、集計後に通知する。

6. 教科書・テキスト

プリント、PDFファイル

7. 参考書

なし

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標 (GIO)	行動目標 (SB0s)	予習・復習項目と 必要時間	教育 目標 領域
1	9/17 (水) 3限	内田竜司	オリエンテーシ ョン ユニット1 学内情報システ ムの利用 〔講義〕	1 学内情報システ ムの概要を理解し、 その利用法を習得 する。	1 情報処理実習室の機器利用について説 明できる。 2 学内LAN上の学生メールシステムについ て説明できる。 3 パスワードの管理法を説明できる。	学生メールシステ ム パスワード管理 3時間	認知 (想起)
2	10/1 (水) 3限	内田竜司	ユニット2 ハードウェアと ソフトウェア 〔講義〕	1 パソコン本体と周 辺機器、ソフトウ ェアの概略を理解 し、アプリケーシ ョンソフトを利用 する。	1 ソフトウェアの役割を説明できる。 2 マウスを利用した図の描記方法につい て説明できる。 3 ファイルの保存について説明できる。 4 添付ファイルのある電子メールの送受 信について説明できる。	PC、周辺機器、ソ フトウェア ファイル保存 添付ファイル 3時間	認知 (想起)

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標 (GIO)	行動目標 (SBOs)	予習・復習項目と 必要時間	教育 目標 領域
3	10/8 (水) 3限	内田竜司	ユニット3 情報リテラシー に関する基礎知識 [講義]	1 情報リテラシーに関する基礎知識とともに、インターネットを介した各種サービスの概要を理解する。	1 情報倫理について説明できる。 2 インターネットと、ネットワークを介したサービスについて説明できる。 3 インターネットの危険性について説明できる。	インターネット ネットワーク SNS コンピュータウイルス 3時間	認知 (想起)
4	10/15 (水) 3限	内田竜司	ユニット4 情報の収集 [講義]	1 情報検索方法を理解するとともに、検索により収集した情報を活用するためのプレゼンテーションソフトの基本的操作方法を習得する。	1 情報検索方法について説明できる。 2 検索エンジンの機能について説明できる。	検索エンジン 3時間	認知 (想起)
5	10/29 (水) 3限	内田竜司	ユニット5 顔貌写真・口腔 内写真の加工と 編集 1 [講義]	1 顔貌写真・口腔内写真を使った患者資料の作成方法について習得する。	1 写真の加工方法について説明できる。 2 写真の配置に必要な解剖学的指標について説明できる。 3 写真の配置について説明できる。	顔貌・口腔内写真 撮影の基準となる 解剖学的指標 写真の加工方法 3時間	認知 (想起)
6	11/5 (水) 3限	内田竜司	ユニット5 顔貌写真・口腔 内写真の加工と 編集2 [講義]	1 顔貌写真・口腔内写真を使った患者資料の作成方法について習得する。	1 作成した患者資料の印刷方法について説明できる。 2 作成した患者資料の問題点について指摘できる。 3 患者資料の問題点の修正方法について説明できる。	画像加工 画像印刷 3時間	認知 (想起)
7	11/12 (水) 3限	内田竜司	ユニット6 情報の収集と加工 1 [講義]	1 著作権について理解するとともに、著作権に配慮した情報の活用方法を習得する。	1 著作権について説明できる。 2 著作権に配慮したインターネットを利用した情報収集について説明できる。	著作権 3時間	認知 (想起)
8	11/19 (水) 3限	内田竜司	ユニット6 情報の収集と加工 2 [講義]	1 引用について理解するとともに、引用のルールを遵守した情報の活用方法を習得する。	1 引用について説明できる。 2 インターネットを利用した引用方法について説明できる。	引用・転載 3時間	認知 (想起)
9	11/26 (水) 3限	内田竜司	ユニット7 情報の形態 1 [講義]	1 情報表現の基礎を理解し、情報の特性をについて考察する。	1 通信の歴史について説明できる。 2 2進法、16進法について説明できる。 3 文字情報について説明できる。	通信 N進法 文字データ 3時間	認知 (想起)

情報処理実習Ⅰ

開講時期： 1 年次後期
 授業時間数： 21 コマ；42 時間 1 単位
 受験資格要件： 4/5（17 コマ）以上の出席
 科目番号： DH011004
 評価責任者： 古野 みはる
 授業担当者： 内田 竜司

1. 一般目標

本実習において、学生は多様な情報や知識を論理的に分析・考察する能力を獲得するために、情報リテラシーを向上させるとともに、パソコンの基本的な操作、Windows11の基本操作、ワープロ・表計算・プレゼンテーションソフトの実践的利用法について修得する。

2. 教育方法

スライドによる解説講義を踏まえた演習課題への取り組みを中心に、内容に応じて双方向学修形式の授業を行う。

3. 教育教材

PC、プリント、PDFファイル、動画

4. 学修方法

講義中はデモ画面を注視すること。授業にはUSBメモリーを必ず持参し、授業で作成した提出課題のファイルを保存しておくこと（演習課題の模範解答例を講義・実習時に提示するので、自己評価し、修正する）。日頃、パソコンにできるだけふれること。本講義は2学年開講の「情報処理概論Ⅱ」「情報処理実習Ⅱ」の理解に必要である。

【単位修得に必要な授業外学修時間：21時間】

5. 評価方法

〔形成的評価〕講義時間内で実施する確認テストにより講義内容の理解度を確認する。また、授業で提示する演習課題に取り組み、随時、指導する。

〔フィードバック〕講義時間内で実施する確認テストは、回答終了時に得点が表示され、理解度を自己確認できる。また、演習課題の模範解答例を講義・実習時に提示するので、自己評価し、修正する。

〔総括的評価〕講義時間内で実施する確認テストおよびメールに添付して提出する演習課題について、提出方法を含め評価し、集計後に通知する。

6. 教科書・テキスト

プリント、PDFファイル

7. 参考書 なし

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標 (GIO)	行動目標 (SB0s)	予習・復習項目と 必要時間	教育 目標 領域
1	9/17 (水) 4限	内田竜司	オリエンテーション ユニット1 学内情報システムの利用 〔実習〕	1 起動から終了までの操作、アプリケーションソフトの起動と終了、ウインドウやフォルダの操作とともに、学内情報システムの概要を理解する。	1 Windows11の基本操作ができる。 2 学内LAN上の学生メールシステムを利用できる。 3 パスワードの管理法を実践できる。 4 インターネットへの接続、e-mailへのファイル添付ができる。	Windows11の基本操作 PCのメールシステム 1 時間	精神運動 (コントロール)
2	10/1 (水) 4限	内田竜司	ユニット2 ハードウェアとソフトウェア 〔実習〕	1 パソコン本体と周辺機器、ソフトウェアの概略を理解し、アプリケーションソフトを利用する。	1 ソフトウェアの起動・終了操作ができる。 2 マウスを利用して図を描記することができる。 3 アプリケーションソフトを使ってファイルを作成し、保存することができる。 4 添付ファイルのある電子メールを送受信できる。	PC、周辺機器、ソフトウェア ファイル保存 添付ファイル 1 時間	精神運動 (コントロール)
3	10/8 (水) 4限	内田竜司	ユニット3 情報リテラシーに関する 基礎知識 〔実習〕	1 情報を適切に判断し、情報を通じて決定を下す能力を涵養する。	1 情報倫理に配慮したインターネットと、それを介したサービスの活用ができる。 2 インターネットの危険性に配慮したPCの活用ができる。	インターネット ネットワーク SNS コンピュータウイルス 1 時間	精神運動 (コントロール)

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標 (GIO)	行動目標 (SBOs)	予習・復習項目と 必要時間	教育 目標 領域
4	10/15 (水) 4限	内田竜司	ユニット4 情報の収集 [実習]	1 情報検索方法を理解するとともに、プレゼンテーションソフトの基本的操作方法を習得する。	1 検索エンジンを使って情報収集ができる。 2 検索エンジンの機能を利用できる。 3 収集した情報をプレゼンテーションソフトを使ってまとめることができる。	検索エンジン 1時間	精神運動 (コントロール)
5	10/29 (水) 4限	内田竜司	ユニット5 顔貌写真・口腔内写真の加工と編集1 [実習]	1 顔貌写真・口腔内写真を使った患者資料の作成方法について習得する。	1 写真の加工ができる。 2 必要な解剖学的指標を遵守した写真の配置ができる。	顔貌・口腔内写真撮影時に基準となった解剖学的指標 1時間	精神運動 (コントロール)
6	11/5 (水) 4限	内田竜司	ユニット5 顔貌写真・口腔内写真の加工と編集2 [実習]	1 顔貌写真・口腔内写真を使った患者資料の作成方法について習得する。	1 作成した患者資料の印刷ができる。 2 作成した患者資料の問題点を修正できる。	写真の加工方法・印刷方法 1時間	精神運動 (コントロール)
7	11/12 (水) 4限	内田竜司	ユニット6 情報の収集と加工1 [実習]	1 著作権について理解するとともに、著作権に配慮した情報の活用方法を習得する。	1 インターネットを利用して収集した情報を著作権に配慮して活用することができる。 2 インターネットを利用して収集した情報をプレゼンテーションソフトを使って編集できる。	著作権 1時間	精神運動 (コントロール)
8	11/19 (水) 4限	内田竜司	ユニット6 情報の収集と加工2 [実習]	1 引用について理解するとともに、引用のルールを遵守した情報の活用方法を習得する。	1 文章や画像を引用できる。 2 インターネットを利用して収集した情報をワープロソフトやプレゼンテーションソフトを使って編集できる。	引用と転載 1時間	精神運動 (コントロール)
9	11/26 (水) 4限	内田竜司	ユニット7 情報の形態1 [実習]	1 情報表現の基礎を理解し、情報の特性をについて考察する。	1 2進法、16進法について調べた情報を編集できる。 2 文字情報について調べた情報を編集できる。	通信の歴史 N進法 文字データ 1時間	精神運動 (コントロール)
10	12/3 (水) 3限	内田竜司	ユニット7 情報の形態2 [講義]	1 情報表現の基礎を理解し、情報の特性をについて考察する。	1 音声情報について説明できる。	音声データ 1時間	認知 (想起)
11	12/3 (水) 4限	内田竜司	ユニット7 情報の形態2 [実習]	1 情報表現の基礎を理解し、情報の特性をについて考察する。	1 音声情報について調べた情報を編集できる。	音声データ 1時間	精神運動 (コントロール)
12	12/10 (水) 3限	内田竜司	ユニット7 情報の形態3 [講義]	1 情報表現の基礎を理解し、情報の特性をについて考察する。	1 3原色について説明できる。 2 画像データについて説明できる。 3 画像データの加工について説明できる。	画像データ 1時間	認知 (想起)
13	12/10 (水) 4限	内田竜司	ユニット7 情報の形態3 [実習]	1 情報表現の基礎を理解し、情報の特性をについて考察する。	1 3原色について調べた情報を編集できる。 2 画像データについて調べた情報を編集できる。 3 画像データを加工できる。	画像データ 1時間	精神運動 (コントロール)
14	12/17 (水) 3限	内田竜司	ユニット8 情報と問題解決 [講義]	1 情報を活用するための基礎的な発想法を学ぶとともに、情報解決法の基礎を知る。	1 フローチャートを説明できる。 2 モデル化について説明できる。 3 シミュレーションについて説明できる。	フローチャート モデル化 シミュレーション 1時間	認知 (想起)
15	12/17 (水) 4限	内田竜司	ユニット8 情報と問題解決 [実習]	1 情報を活用するための基礎的な発想法を学ぶとともに、情報解決法の基礎を知る。	1 フローチャートを作成できる。 2 モデル化とシミュレーションにコンピュータを活用できる。	フローチャート モデル化 シミュレーション 1時間	精神運動 (コントロール)
16	1/8 (木) 1限	内田竜司	ユニット9 文書作成1 [講義]	1 ワープロソフトによる様々な文書作成の基礎について理解する。	1 ビジネス文書の作成について説明できる。 2 患者提供文書の作成について説明できる。 3 電子メール文書の作成について説明できる。	ビジネス文書 患者提供文書 電子メール文書 1時間	認知 (想起)
17	1/8 (木) 2限	内田竜司	ユニット9 文書作成1 [実習]	1 ワープロソフトによる様々な文書作成の基礎について理解する。	1 ビジネス文書を作成できる。 2 患者提供文書を作成できる。 3 電子メール文書を作成できる。	ビジネス文書 患者提供文書 電子メール文書 1時間	精神運動 (コントロール)
18	1/14 (水) 3限	内田竜司	ユニット9 文書作成2 [講義]	1 ワープロソフトによる様々な文書作成の基礎について理解する。	1 履歴書の作成について説明できる。 2 送付状（添え状）の作成について説明できる。	履歴書 送付状（添え状） リコール文書 1時間	認知 (想起)
19	1/14 (水) 4限	内田竜司	ユニット9 文書作成2 [実習]	1 ワープロソフトによる様々な文書作成の基礎について理解する。	1 履歴書を作成できる。 2 送付状（添え状）を作成できる。	履歴書 送付状（添え状） リコール文書 1時間	精神運動 (コントロール)

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標 (GIO)	行動目標 (SBOs)	予習・復習項目と 必要時間	教育 目標 領域
20	1/23 (金) 3限	内田竜司	ユニット10 文書作成 3 〔講義〕	1 ワープロソフト による様々な文 書作成の基礎に ついて理解す る。	1 歯科衛生士が作成する業務記録について 説明できる。 2 リコール文書について説明できる。	業務記録 患者提供文書 リコール文書 1 時間	認知 (想起)
21	1/23 (金) 4限	内田竜司	ユニット10 文書作成 3 〔実習〕	1 ワープロソフト による様々な文 書作成の基礎に ついて理解す る。	1 業務記録を作成できる。 2 リコール文書を作成できる。	業務記録 患者提供文書 リコール文書 1 時間	精神運動 (コント ロール)

英語 I (English Conversation)

開講時期： 1 年次前期後期
 授業時間数： 30 コマ ; 60 時間 2 単位
 受験資格要件： 前後期 各 2/3 (10 コマ) 以上の出席
 科目番号： DH011012
 評価責任者： 古野 みはる
 担当教員： Oliver Anthony John
 山根モーゼス

1. General Aim

As a dental hygienist, Learners will obtain interpersonal communication skills and attitude, and improve their English competence for cultural enrichment.

2. Method of Instruction

Lecture・Group work.

3. Education Material・Device

Textbook、Handouts、DVD、PC+Projector.

4. Method of Learning

Learners must bring a textbook shown below in the class. Every time they should study the contents that they are going to study before the class. Also, they are expected to review the contents they learned on the same day.

【Necessary Studying Hours to Earn Enough Credits for Graduation : 30hours】

5. Evaluation

Written Examination (80%)

Class Participation (approx.20%)

The results of the exams are announced after the exams.

Detailed information will be explained on the first class.

6. Textbook

“My First PASSPORT 1 second edition English for International Communication”, Angela Buckingham & Lewis Lansford, Oxford University Press

Handouts

7. Reference Book

English Japanese Dictionary & Japanese English Dictionary (electronic dictionary is also available)

【前期】

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標(GIO)	行動目標(SBOs)	予習項目と 必要時間	教育目標 領域
1	4/8 (火) 2限	Oliver 山根	Orientation Unit 1 How long are you staying? Lecture & Group Work	1)To understand the contents of the unit 1. 2)To speak and listen using the expressions they learned in the class.	1) The students can translate the contents of the unit and speak & listen using the expressions they learned in the class.	Consult words in Unit 1 Preparation 1hour	Cognitive (Interpre- tation)・ Affective (Receivin- g)
2	4/15 (火) 2限	Oliver 山根	Unit 2 Nice to meet you! Lecture & Group Work	1)To understand the contents of the unit 2. 2)To speak and listen using the expressions they learned in the class.	1) The students can translate the contents of the unit and speak & listen using the expressions they learned in the class.	Consult words in Unit 2 Preparation 1hour	Cognitive (Interpre- tation)・ Affective (Receivin- g)
3	4/22 (火) 2限	Oliver 山根	Unit 3 Make yourself at home! Lecture & Group Work	1)To understand the contents of the unit 3. 2)To speak and listen using the expressions they learned in the class.	1) The students can translate the contents of the unit and speak & listen using the expressions they learned in the class.	Consult words in Unit 3 Preparation 1hour	Cognitive (Interpre- tation)・ Affective (Receivin- g)

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標(GIO)	行動目標(SBOs)	予習項目と 必要時間	教育目標 領域
4	5/13 (火) 2限	Oliver 山根	Unit 4 What time is dinner? Lecture & Group Work	1)To understand the contents of the unit 4. 2)To speak and listen using the expressions they learned in the class.	1) The students can translate the contents of the unit and speak & listen using the expressions they learned in the class.	Consult words in Unit 4 Preparation 1hour	Cognitive (Interpre tation)・ Affective (Receivin g)
5	5/20 (火) 2限	Oliver 山根	Unit 5 It's a kind of jacket Lecture & Group Work	1)To understand the contents of the unit 5. 2)To speak and listen using the expressions they learned in the class.	1) The students can translate the contents of the unit and speak & listen using the expressions they learned in the class.	Consult words in Unit 5 Preparation 1hour	Cognitive (Interpre tation)・ Affective (Receivin g)
6	5/27 (火) 2限	Oliver 山根	Unit 6 How was it? Lecture & Group Work	1)To understand the contents of the unit 6. 2)To speak and listen using the expressions they learned in the class.	1) The students can translate the contents of the unit and speak & listen using the expressions they learned in the class.	Consult words in Unit 6 Preparation 1hour	Cognitive (Interpre tation)・ Affective (Receivin g)
7	6/3 (火) 2限	Oliver 山根	Unit 7 Help yourself Lecture & Group Work	1)To understand the contents of the unit 7. 2)To speak and listen using the expressions they learned in the class.	1) The students can translate the contents of the unit and speak & listen using the expressions they learned in the class.	Consult words in Unit 7 Preparation 1hour	Cognitive (Interpre tation)・ Affective (Receivin g)
8	6/10 (火) 2限	Oliver 山根	Unit 8 I'd like fifteen tickets, please Lecture & Group Work	1)To understand the contents of the unit 8. 2)To speak and listen using the expressions they learned in the class.	1) The students can translate the contents of the unit and speak & listen using the expressions they learned in the class.	Consult words in unit 8 Preparation 1hour	Cognitive (Interpre tation)・ Affective (Receivin g)
9	6/17 (火) 2限	Oliver 山根	Unit 9 Can I have a towel please? Lecture & Group Work	1)To understand the contents of the unit 9. 2)To speak and listen using the expressions they learned in the class.	1) The students can translate the contents of the unit and speak & listen using the expressions they learned in the class.	Consult words in Unit 9 Preparation 1hour	Cognitive (Interpre tation)・ Affective (Receivin g)
10	6/24 (火) 2限	Oliver 山根	Unit 10 Are you into music? Lecture & Group Work	1)To understand the contents of the unit 10. 2)To speak and listen using the expressions they learned in the class.	1) The students can translate the contents of the unit and speak & listen using the expressions they learned in the class.	Consult words in Unit 10. Preparation 1hour	Cognitive (Interpre tation)・ Affective (Receivin g)
11	6/24 (火) 3限	Oliver 山根	Unit 11 Can I stay out until 11:00? Lecture & Group Work	1)To understand the contents of the unit 11. 2)To speak and listen using the expressions they learned in the class.	1) The students can translate the contents of the unit and speak & listen using the expressions they learned in the class.	Consult words in Unit 11 Preparation 1hour	Cognitive (Interpre tation)・ Affective (Receivin g)
12	7/1 (火) 2限	Oliver 山根	Unit 12Tell me about your family Lecture & Group Work	1)To understand the contents of the unit 12. 2)To speak and listen using the expressions they learned in the class.	1) The students can translate the contents of the unit and speak & listen using the expressions they learned in the class.	Consult words in Unit 12 Preparation 1hour	Cognitive (Interpre tation)・ Affective (Receivin g)
13	7/8 (火) 2限	Oliver 山根	Unit 13 I'm hungry! Lecture & Group Work	1)To understand the contents of the unit 13. 2)To speak and listen using the expressions they learned in the class.	1) The students can translate the contents of the unit and speak & listen using the expressions they learned in the class.	Consult words in Unit 13 Preparation 1hour	Cognitive (Interpre tation)・ Affective (Receivin g)
14	7/15 (火) 2限	Oliver 山根	Unit 14 What are you doing tomorrow? Lecture & Group Work	1)To understand the contents of the unit 14. 2)To speak and listen using the expressions they learned in the class.	1) The students can translate the contents of the unit and speak & listen using the expressions they learned in the class.	Consult words in Unit 14 Preparation 1hour	Cognitive (Interpre tation)・ Affective (Receivin g)
15	7/22 (火) 2限	Oliver 山根	Unit 15 How much is it? Lecture & Group Work	1)To understand the contents of the unit 15. 2)To speak and listen using the expressions they learned in the class.	1) The students can translate the contents of the unit and speak & listen using the expressions they learned in the class.	Consult words in Unit 15 Preparation 1hour	Cognitive (Interpre tation)・ Affective (Receivin g)

【後期】

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標(GIO)	行動目標(SBOs)	予習項目と 必要時間	教育目標 領域
1	9/16 (火) 1限	Oliver 山根	Orientation Unit 1 Country Strong Lecture & Group Work	1)To understand the contents of the unit 1. 2)To speak and listen using the expressions they learned in the class.	1) The students can translate the contents of the unit and speak & listen using the expressions they learned in the class.	Consult words in Unit 1 Preparation 1hour	Cognitive (Interpre tation)・ Affective (Receivin g)
2	9/30 (火) 1限	Oliver 山根	Unit 2 Tangled! Lecture & Group Work	1)To understand the contents of the unit 2. 2)To speak and listen using the expressions they learned in the class.	1) The students can translate the contents of the unit and speak & listen using the expressions they learned in the class.	Consult words in Unit 2 Preparation 1hour	Cognitive (Interpre tation)・ Affective (Receivin g)
3	10/7 (火) 1限	Oliver 山根	Unit 3 Life of Pie Lecture & Group Work	1)To understand the contents of the unit 3. 2)To speak and listen using the expressions they learned in the class.	1) The students can translate the contents of the unit and speak & listen using the expressions they learned in the class.	Consult words in Unit 3 Preparation 1hour	Cognitive (Interpre tation)・ Affective (Receivin g)
4	10/14 (火) 1限	Oliver 山根	Unit 4 Hugo Lecture & Group Work	1)To understand the contents of the unit 4. 2)To speak and listen using the expressions they learned in the class.	1) The students can translate the contents of the unit and speak & listen using the expressions they learned in the class.	Consult words in Unit 4 Preparation 1hour	Cognitive (Interpre tation)・ Affective (Receivin g)
5	10/21 (火) 1限	Oliver 山根	Unit 5 No Impact Man Lecture & Group Work	1)To understand the contents of the unit 5. 2)To speak and listen using the expressions they learned in the class.	1) The students can translate the contents of the unit and speak & listen using the expressions they learned in the class.	Consult words in Unit 5 Preparation 1hour	Cognitive (Interpre tation)・ Affective (Receivin g)
6	10/28 (火) 1限	Oliver 山根	Unit 6 The Karate Kid Lecture & Group Work	1)To understand the contents of the unit 6. 2)To speak and listen using the expressions they learned in the class.	1) The students can translate the contents of the unit and speak & listen using the expressions they learned in the class.	Consult words in Unit 6 Preparation 1hour	Cognitive (Interpre tation)・ Affective (Receivin g)
7	11/4 (火) 1限	Oliver 山根	Unit 7 The Amazing Spiderman Lecture & Group Work	1)To understand the contents of the unit 7. 2)To speak and listen using the expressions they learned in the class.	1) The students can translate the contents of the unit and speak & listen using the expressions they learned in the class.	Consult words in Unit 7 Preparation 1hour	Cognitive (Interpre tation)・ Affective (Receivin g)
8	11/11 (火) 1限	Oliver 山根	Unit 8 The King's Speech Lecture & Group Work	1)To understand the contents of the unit 8. 2)To speak and listen using the expressions they learned in the class.	1) The students can translate the contents of the unit and speak & listen using the expressions they learned in the class.	Consult words in unit 8 Preparation 1hour	Cognitive (Interpre tation)・ Affective (Receivin g)
9	11/18 (火) 1限	Oliver 山根	Unit 9 Money ball Lecture & Group Work	1)To understand the contents of the unit 9. 2)To speak and listen using the expressions they learned in the class.	1) The students can translate the contents of the unit and speak & listen using the expressions they learned in the class.	Consult words in Unit 9 Preparation 1hour	Cognitive (Interpre tation)・ Affective (Receivin g)
10	11/25 (火) 1限	Oliver 山根	Unit 10 The Social Network Lecture & Group Work	1)To understand the contents of the unit 10. 2)To speak and listen using the expressions they learned in the class.	1) The students can translate the contents of the unit and speak & listen using the expressions they learned in the class.	Consult words in Unit 10. Preparation 1hour	Cognitive (Interpre tation)・ Affective (Receivin g)
11	12/2 (火) 1限	Oliver 山根	Unit 11 the Experiment Lecture & Group Work	1)To understand the contents of the unit 11. 2)To speak and listen using the expressions they learned in the class.	1) The students can translate the contents of the unit and speak & listen using the expressions they learned in the class.	Consult words in Unit 11 Preparation 1hour	Cognitive (Interpre tation)・ Affective (Receivin g)
12	12/9 (火) 1限	Oliver 山根	Unit 12 Spy Kids 4D Lecture & Group Work	1)To understand the contents of the unit 12. 2)To speak and listen using the expressions they learned in the class.	1) The students can translate the contents of the unit and speak & listen using the expressions they learned in the class.	Consult words in Unit 12 Preparation 1hour	Cognitive (Interpre tation)・ Affective (Receivin g)

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標(GIO)	行動目標(SBOs)	予習項目と 必要時間	教育目標 領域
13	12/16 (火) 1限	Oliver 山根	Unit 13 Food Inc. Lecture & Group Work	1)To understand the contents of the unit 13. 2)To speak and listen using the expressions they learned in the class.	1) The students can translate the contents of the unit and speak & listen using the expressions they learned in the class.	Consult words in Unit 13 Preparation 1hour	Cognitive (Interpre- tation)・ Affective (Receivin g)
14	12/23 (火) 1限	Oliver 山根	Unit 14 Red Riding Hood Lecture & Group Work	1)To understand the contents of the unit 14. 2)To speak and listen using the expressions they learned in the class.	1) The students can translate the contents of the unit and speak & listen using the expressions they learned in the class.	Consult words in Unit 14 Preparation 1hour	Cognitive (Interpre- tation)・ Affective (Receivin g)
15	1/13 (火) 1限	Oliver 山根	Unit 15 Eat Pray Love Lecture & Group Work	1)To understand the contents of the unit 15. 2)To speak and listen using the expressions they learned in the class.	1) The students can translate the contents of the unit and speak & listen using the expressions they learned in the class.	Consult words in Unit 15 Preparation 1hour	Cognitive (Interpre- tation)・ Affective (Receivin g)

健康生理学Ⅰ

開講時期： 1 年次前期
 授業時間数： 15 コマ；30 時間 1 単位
 受験資格要件： 2 / 3 (10 コマ) 以上の出席
 科目番号： DH011015
 評価責任者： 古野 みはる
 担当者： 町田 由紀子

1. 一般目標

将来、歯科衛生士として口腔の健康を支える支援者となるために必要なことと身体に関する知識や自己管理能力、並びに他者とのコミュニケーション能力や協調・協働・支援する力を学ぶとともに、自らの健康管理ができる能力を身に付ける。また、健康を支えるために必要な社会参加活動の考え方や技法、支援を受ける人々の生活課題と社会参加活動の関わりについて理解する。

2. 教育方法

講義・演習、相互学習・グループワーク、ディベート等のアクティブ・ラーニングを行う。

3. 教育教材・機材

参考書、プリント、DVD、PC+プロジェクター、スポーツ用具、レクリエーション用具

4. 学修方法

授業には、配布プリントとノートを必ず持参すること。下記予習項目に記載の事前学修（予習）を怠らないこと。授業中はノートを取る。授業後は、配布プリント、ノートを用い講義内容の確認をその日のうちに行うこと。

授業を受講するに当たり、下記予習項目に記載の学修を行うこと。また、授業後は、配布プリント等で講義内容の確認をその日のうちに行うこと。事前・事後学修（予習・復習）を怠らず、また、授業中は真摯に臨み、理解できないことはその場で質問を行い解決すること。相互学習やグループワーク、症例検討等のアクティブラーニングについては、グループで協力して資料を作成し、発表に備えること。レポート課題を提示された場合には、期日までに仕上げる。スポーツレクリエーション実技については安全のため屋内シューズおよび運動を行うための服装を準備して臨むこと。

特に、本科目は2年次に開講される「口腔・全身介護演習」で実施される演習やグループワークのベースとなることから、十分に学修し理解を深めておくことが必要となるので本科目に興味を持ち意欲的に取り組んでくれることを期待する。

【単位修得に必要な授業外学修時間：15時間】

5. 評価

〔総括的評価〕：レポート（20%）提出物（30%）授業参加状況（発問・質疑・回答・実技及びグループワークでの活動や発言、授業中の態度、実技時の服装・協力等）（50%）

〔フィードバック〕不十分な部分についてはコメントを付して返却する。成績は評価後に通知する。

6. 教科書

適時プリント等を配布する。

7. 参考書・テキスト

- 「運動処方の指針 運動負荷試験と運動プログラム（原書第8版）」日本体力医学会体力科学編集委員会監訳、南江堂、2011年
 - 「実習で学ぶ健康・運動・スポーツの科学（改訂版第2刷）」九州大学健康・スポーツ科学研究会編、大修館書店、2017年
- その他適宜紹介する。

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標(GIO)	行動目標(SBOs)	予習項目・ 事後学習と 必要時間	教育目 標領域
1	4/8 (火) 1限	町田	オリエンテーション ユニット1 コミュニケーション ワーク 講義・演習	1) コミュニケーションを理解する。	(1) 言語、非言語によるコミュニケーションを理解することができる ・相手を知る、自分を知る ・出会いのゲーム	コミュニケーションについて調べる。 (予習1時間)	認知 (問題解決) 態度 (受入)

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標(GIO)	行動目標(SBOs)	予習項目・ 事後学習と 必要時間	教育目 標領域
2	4/15 (火) 1限	町田	ユニット1 コミュニケーションワーク 講義・演習	1) コミュニケーションを理解する。	(2)言語、非言語によるコミュニケーションを理解することができる ・相手を知る、自分を知る ・出会いのゲーム	コミュニケーションについて調べる。 (予習1時間)	認知 (問題解決) 態度 (受入)
3	4/22 (火) 1限	町田	ユニット 2 健康と運動 講義・演習	1) 健康度と運動機能について理解する。	(1) 自分の体力・健康度を知る ・運動機能測定・評価(新体力テスト) ① 握力・立ち幅跳び・反復横跳び・上体起こし 長座体前屈・ハンドボール投げ・50m走 ・健康を維持するための対応策	自分の運動機能評価結果から対応策を考える。 (復習1時間)	認知 (想起)
4	5/7 (水) 1限	町田	ユニット 2 健康と運動 講義・演習	1) 健康度と運動機能について理解する。	(2) 自分の体力・健康度を知る ・運動機能測定・評価(新体力テスト) ② 握力・立ち幅跳び・反復横跳び・上体起こし 長座体前屈・ハンドボール投げ・50m走 ・健康を維持するための対応策	自分の運動機能評価結果から対応策を考える。 (復習1時間)	認知 (想起)
5	5/7 (水) 2限	町田	ユニット 2 健康と運動 講義・演習	1) 健康度と運動機能について理解する。	(2) 自分の体力・健康度を知る ・運動機能測定・評価(新体力テスト) ② ・運動による健康づくり(目標心拍数)	自分の運動機能評価結果から対応策を考える。 (復習1時間)	認知 (想起)
6	5/13 (火) 1限	町田	ユニット 3 健康と運動 講義・演習	1) 健康と運動の関係について理解する。	(1)健康づくりについて理解することができる ・生活習慣病の予防と対策 ・運動による健康づくり(目標心拍数)	生活習慣病について調べる。 (予習1時間)	認知 (想起)
7	5/20 (火) 1限	町田	ユニット 3 健康と運動 講義・演習	1) 健康づくりのスポーツについて理解する(軽スポーツ)	(1) 健康とスポーツ実践について理解することができる。 ・ディスクスポーツ(フリスビー・ドッジビー)	スポーツのルールについて調べる。 (予習1時間)	認知 (問題解決) 態度 (受入)
8	6/3 (火) 1限	町田	ユニット 3 健康と運動 講義・演習	1) 健康づくりのスポーツについて理解する(軽スポーツ)	(1) 健康とスポーツ実践について理解することができる。 ・卓球 ①(基礎技術) シングルス	スポーツのルールについて調べる。 (予習1時間)	認知 (問題解決) 態度 (受入)
9	6/10 (火) 1限	町田	ユニット 3 健康と運動 講義・演習	1) 健康づくりのスポーツについて理解する(軽スポーツ)	(1) 健康とスポーツ実践について理解することができる。 ・卓球 ②(応用技術) ダブルス	スポーツのルールについて調べる。 (予習1時間)	認知 (問題解決) 態度 (受入)
10	6/17 (火) 1限	町田	ユニット 3 健康と運動 講義・演習	1) 健康づくりのスポーツについて理解する(軽スポーツ)	(1) 健康とスポーツ実践について理解することができる。 ・卓球 ①(基礎技術) チーム戦	スポーツのルールについて調べる。 (予習1時間)	認知 (問題解決) 態度 (受入)
11	6/24 (火) 1限	町田	ユニット 4 健康と体力 講義・演習	1) 体力・運動機能向上について理解する。	(1) 体力に応じた運動方法について説明できる。 ・無酸素性運動と有酸素性運動 (レジスタンストレーニングの実践) ・トレーニングの条件(FITT)	体力の種類について調べる。 (宿題) (復習1時間)	認知 (想起)
12	7/1 (火) 1限	町田	ユニット1 コミュニケーションワーク 講義・演習	1) コミュニケーションを理解する。	(1) 言語、非言語によるコミュニケーションを実践することができる ・レクリエーションゲーム(グループワーク)	コミュニケーションについて調べる。 (予習1時間)	認知 (問題解決) 態度 (受入)
13	7/8 (火) 1限	町田	ユニット1 コミュニケーションワーク 講義・演習	1) コミュニケーションを理解する。	(1) 言語、非言語によるコミュニケーションを実践することができる ・レクリエーションゲーム(グループワーク)	コミュニケーションについて調べる。 (予習1時間)	認知 (問題解決) 態度 (受入)
14	7/9 (水) 1限	町田	ユニット 5 運動の安全管理 講義・演習	1) 運動時の安全管理について理解する。	(1)運動時の安全管理について理解することができる。 ・熱中症 ・心肺蘇生法 他	自分の生活習慣についてまとめる。 (予習1時間)	認知 (想起)
15	7/9 (水) 2限	町田	ユニット 6 まとめ 講義・演習	1) 地域における健康づくりについて理解する。	(1) 健康づくりの意義を理解する。 ・健康を支える従事者としての健康管理と社会活動の必要性	地域で開催される健康づくりの活動を調べる。 (復習1時間)	認知 (問題解決) 態度 (反応)

健康生理学Ⅱ

開講時期： 1 年次後期
授業時間数： 15 コマ；30 時間 1 単位
受験資格要件： 2 / 3 （10 コマ）以上の出席
科目番号： DH011016
評価責任者： 古野 みはる
担当教員： 町田 由紀子

1. 一般目標

将来、歯科衛生士として口腔の健康を支える支援者となるために必要なことと身体に関する知識や自己管理能力、並びに他者とのコミュニケーション能力や協調・協働・支援する力を学ぶとともに、自らの健康管理ができる能力を身に付ける。また、健康を支えるために必要な社会参加活動の考え方や技法、支援を受ける人々の生活課題と社会参加活動の関わりについて理解し、特に高齢者等における実践的な生活支援や自立支援が提供できる能力を身に付ける。

2. 教育方法

講義・演習、相互学習・グループワーク等のアクティブ・ラーニングを行う。

3. 教育教材・機材

参考書、プリント、DVD、PC+プロジェクター、スポーツ用具、レクリエーション用具

4. 学修方法

授業には、配布プリントとノートを必ず持参すること。下記予習項目に記載の事前学修（予習）を怠らないこと。授業中はノートを取ることを。授業後は、配布プリント、ノートを用い講義内容の確認をその日のうちに行うこと。

授業を受講するに当たり、下記予習項目に記載の学修を行うこと。また、授業後は、配布プリント等で講義内容の確認をその日のうちに行うこと。事前・事後学修（予習・復習）を怠らず、また、授業中は真摯に臨み、理解できないことはその場で質問を行い解決すること。相互学習やグループワーク、症例検討等のアクティブラーニングについては、グループで協力して資料を作成し、発表に備えること。レポート課題を提示された場合には、期日までに仕上げることを。スポーツレクリエーション実技については安全のため屋内シューズおよび運動を行うための服装を準備して臨むこと。

特に、本科目は2年次に開講される「口腔・全身介護演習」で実施される演習やグループワークのベースとなることから、十分に学修し理解を深めておくことが必要となるので本科目に興味を持ち意欲的に取り組んでくれることを期待する。

【単位修得に必要な授業外学修時間：15時間】

5. 評価

〔総括的評価〕：レポート（20%）提出物（30%）授業参加状況（発問・質疑・回答・実技及びグループワークでの活動や発言、授業中の態度、実技時の服装・協力等）（50%）

〔フィードバック〕不十分な部分についてはコメントを付して返却する。成績は評価後に通知する。

6. 教科書・テキスト

適時プリント等を配布する。

7. 参考書

1. 「レクリエーション支援の基礎」日本レクリエーション協会、2018年
 2. 「運動処方指針 運動負荷試験と運動プログラム（原書第8版）」日本体力医学会体力科学編集委員会監訳、南江堂、2011年
 3. 「実習で学ぶ健康・運動・スポーツの科学（改訂版第2刷）」九州大学健康・スポーツ科学研究会編、大修館書店、2017年
- その他適宜紹介する。

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標 (G10)	行動目標 (SB0s)	予習項目と 必要時間	教育目標 領域
1	9/18 (木) 1限	町田	ユニット 1 オリエンテーシ ョン コミュニケーション 〔講義・演習〕	1) 多様なコミュニケーション 手法を理解する。	(1) 授業の概要について理解する。 (2) 様々な人とコミュニケーションを とる。	良いコミュニケー ションをとるため に何が必要かまと める (復習 1時間)	認知 (問題解決) 態度 (受入)
2	9/25 (木) 1限	町田	オリエンテーシ ョン ユニット 1 健康といのち 〔講義・演習〕	1) 健康であることの意味につ いて理解する。	(1) 自分の死生観について考える。 (2) 健康とウェルネスについて、理解 することができる。	自分の死生観につ いてまとめる。 (復習 1時間)	認知 (問題解決) 態度 (受入)
3	10/2 (木) 1限	町田	ユニット 3 自分を知る 〔講義・演習〕	1) 自分のからだについて理解 する。	(1) 自分のからだの動きや構造、身体 の癖について理解することができる。 ・姿勢・からだの使い方 ・リラクゼーション法	リラクゼーシ ョン法をおこなう (復習1時間)	認知 (解釈) 精神運動 (コントロール)
4	10/9 (木) 1限	町田	ユニット 1 健康といのち 〔講義・演習〕	1) 健康と生活習慣の係 について理解する。	(1) 自分の生活習慣・健康度を知る。 ・運動基準、運動指針 ・エクササイズガイド	自分の生活習慣 についてまとめ る。 (予習 1時間)	認知 (想起)
5	10/16 (木) 1限	町田	ユニット 3 自分を知る 〔講義・演習〕	1) 自分の食生活について理 解する	(1) 自分の食生活について理解するこ とができる。 (2) 食生活を改善する必要性を理解す ることができる。	日頃の自分の食生 活について調べて おく (予習 1時間)	認知 (問題解決) 精神運動 (自動化) 情意 (反応)
6	10/23 (木) 1限	町田	ユニット 4 レクリエーション 支援の実際 〔講義・演習〕	1) 多様なコミュニケーション 手法を理解する。	(1) 言語によるコミュニケーションの 手法のポイントを述べることができ る。 ・ペアワーク 「知り合う」	様々な人の考え 方があることを振り 返し受け入れる (復習 1時間)	認知 (問題解決) 精神運動 (自動化) 情意 (反応)
7	10/30 (木) 1限	町田	ユニット 4 レクリエーション 支援の実際 〔講義・演習〕	1) 多様なコミュニケーション 手法を理解する。	(1) 言語によるコミュニケーションの 手法のポイントを述べることができ る。 ・バーバルコミュニケーション 「伝える」	様々な人の考え 方があることを振り 返し受け入れる (復習 1時間)	認知 (問題解決) 精神運動 (自動化) 情意 (反応)
8	11/6 (木) 1限	町田	ユニット 4 レクリエーション 支援の実際 〔講義・演習〕	1) 多様なコミュニケーション 手法を理解する。	(1) 言語によるコミュニケーションの 手法のポイントを述べることができ る。 ・グループワークトレーニング 「課題解決—伝える」	様々な人の考え 方があることを振り 返し受け入れる (復習 1時間)	認知 (問題解決) 精神運動 (自動化) 情意 (反応)
9	11/13 (木) 1限	町田	ユニット 5 レクリエーション 支援の実際 〔講義・演習〕	1) 多様なコミュニケーション 手法を理解する。	(1) 言語、非言語によるコミュニケー ションの手法により、ホスピタリティ を発揮することができる。 ・ネイチャーレクリエーション	ネイチャーレクリ エーションについ て調べる (予習 1時間)	認知 (問題解決) 精神運動 (自動化) 情意 (反応)
10	11/20 (木) 1限	町田	ユニット 5 レクリエーション 支援の実際 〔演習 (A・L) 〕	1) 対象者に合わせた支援方法 を理解する。	(1) 対象や目的に応じたレクリエーシ ョン支援について理解することができ る。 ・作って遊ぶ 1	グループワークに ついて調べる (予習 1時間)	認知 (解釈) 精神運動 (コントロール)
11	11/27 (木) 1限	町田	ユニット 4 レクリエーション 支援の実際 〔講義・演習〕	1) 多様なコミュニケーション 手法を理解する。	(1) 多様性の理解について述べるこ とができる。 ・グループワークトレーニング 「思いを伝える」	様々な人の考え 方があることを振り 返し受け入れる (復習 1時間)	認知 (問題解決) 精神運動 (自動化) 情意 (反応)
12	12/4 (木) 1限	町田	ユニット 4 レクリエーション 支援の実際 〔講義・演習〕	1) 多様なコミュニケーション 手法を理解する。	(1) 多様性の理解について述べるこ とができる。 ・グループワークトレーニング 「思いを伝える—受け入れる」	様々な人の考え 方があることを振り 返し受け入れる (復習 1時間)	認知 (問題解決) 精神運動 (自動化) 情意 (反応)
13	12/11 (木) 1限	町田	ユニット 4 レクリエーション 支援の実際 〔講義・演習〕	1) 多様なコミュニケーション 手法を理解する。	(1) 多様性の理解について述べるこ とができる。 ・グループワークトレーニング 「課題解決—正解を探る」	様々な人の考え 方があることを振り 返し受け入れる (復習 1時間)	認知 (問題解決) 精神運動 (自動化) 情意 (反応)

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標 (GIO)	行動目標 (SB0s)	予習項目と 必要時間	教育目標 領域
14	12/18 (木) 1限	町田	ユニット 6 身近な健康問題 〔講義・演習〕	1) 身近な健康づくりについて理解し、生活の中に取り入れる態度を養う。	(1) 身近な健康問題と運動の関係（喫煙・睡眠・女性の健康について）	今後の健康づくりの取り組みについて考える (復習 1時間)	認知 (問題解決) 精神運動 (自動化) 情意 (反応)
15	1/15 (木) 1限	町田	ユニット 7 まとめ 〔講義・演習〕	1) 自己の健康管理や、周囲の他者とのコミュニケーションが健康なで安心な街づくりとなることを理解する。	(1) 健康づくりもしくは健康支援者としての在り方について理解する。 ・チームビルディング ・まとめ	今後の健康づくりの取り組みについて考える (復習 1時間)	認知 (問題解決) 精神運動 (自動化) 情意 (反応)

解剖学

開講時期： 1 年次前期
 授業時間数： 15コマ；30時間 2 単位
 受験資格要件： 2/3（10コマ）以上の出席
 科目番号： DH011101
 評価責任者： 古野 みはる
 授業担当者： 林 慶和

1. 一般目標

将来、歯科医療に携わる歯科衛生士となる学生として、基本的な医療、保健、福祉の知識を体系的に理解するために、これらの基礎となる人体の構造と機能を理解することで、豊かな教養と人間性を体得し、口腔保健活動における問題を発見、解決する主体性を身につけることを目標とする。また、この目標達成には学修を継続する重要性についても理解し、歯科衛生士としての基礎学力を修得する。

2. 教育方法

教科書を中心に配布資料、板書、パワーポイントを用いて講義する。

3. 教育教材

教科書、配布プリント、PC+プロジェクター

4. 学修方法

指定教科書2冊と事前事後配布プリント等を必ず持参し、授業中は必要に応じノートをとる。また、復習に務める。本講義は1年後期の「口腔解剖学・組織発生学Ⅱ」等の理解に必要である。【単位修得に必要な授業外学修時間：60 時間】

5. 評価方法

〔形成的評価〕確認テスト

〔フィードバック〕理解が不十分な場合、別日に再度確認を行う。

〔総括的評価〕定期試験：記述試験（90%）、授業参加状況（授業態度含む）（10%）

〔フィードバック〕試験結果、成績は試験終了後に通知する。

6. 教科書・テキスト

1. 「歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」医歯薬出版 2023 年
2. 「歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能 1 解剖学・組織発生学・生理学」医歯薬出版 2023 年

7. 参考書

1. 「歯科衛生士国試対策集 2025 年対応」 歯科衛生士国試対策研究会編、クインテッセンス出版 2024 年

回	授業日	授業担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標 (GIO)	行動目標 (SB0s)	予習・復習項目と 必要時間	教育目標 領域
1	4/14 (月) 1限	林	ユニット 1 解剖総論 〔講義〕	1)細胞 - 組織 - 器官 - 系統を知る。 2) 人体の外形と部位の区分を知る。 3) 人体の方向用語を知る。 4) 解剖学用語を知る。	(1)器官と系統について説明できる。 (2)身体部位を解剖学的な名称で表現できる。 (3)身体方向用語を正確に用いる事ができる。 (4)解剖学用語を正確に使用することができる。	教科書：人体の構造と機能1：P1-10を熟読する。 (4時間)	認知 (想起)
2	4/21 (月) 1限	林	ユニット 2 骨格系 〔講義〕	1)骨の形態分類を知る。 2)軟骨性・骨膜性の骨化を知る。 3)軟骨性の連結，線維性の連結，滑膜性の連結を知る。	(1)骨の基本構造と連結様式を説明できる。	教科書：人体の構造と機能1：P46-55を熟読する。 (4時間)	認知 (想起)
3	4/28 (月) 1限	林	ユニット 2 骨格系 〔講義〕	1)体幹骨を知る。 2)上肢骨・下肢骨を知る。	(1)骨の基本構造と連結様式を説明できる。	教科書：人体の構造と機能1：P58-63を熟読する。 (4時間)	認知 (想起)

回	授業日	授業 担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標 (GIO)	行動目標 (SBOs)	予習・復習項目と 必要時間	教育目標 領域
4	5/8 (木) 4限	林	ユニット 2 骨格系 [講義]	1) 頭蓋を構成する骨を知る。 2) 頭蓋骨を構成する骨の形態を知る。 3) 頭蓋骨に存在する表面形態を知る。 4) 縫合を理解する。	(1) 頭頸部の基本的な構造と機能を説明できる。	教科書：歯・口腔の構造と機能：P11-P26を熟読する。 (4時間)	認知 (想起)
5	5/12 (月) 1限	林	ユニット 3 筋系 [講義]	1) 筋の構造を知る。 2) 筋の起始・停止を知る。 3) 頭部の筋を知る。 4) 頸部の筋を知る。	(1) 筋の種類と特徴を説明できる。 (2) 頭頸部の筋とその作用を説明できる。	教科書：人体の構造と機能 1：P64-73を熟読する (4時間)	認知 (想起)
6	5/15 (木) 4限	林	ユニット 3 筋系 [講義]	1) 背部の筋を知る。 2) 胸部の筋を知る。 3) 腹部の筋を知る。	(1) 体幹の筋とその作用を説明できる。	教科書：人体の構造と機能1：P73-76を熟読する。 (4時間)	認知 (想起)
7	5/19 (月) 1限	林	ユニット 3 筋系 [講義]	1) 上肢・下肢の筋を知る。	(1) 上肢・下肢の筋とその作用を説明できる。	教科書：人体の構造と機能1：P76-80を熟読する。 (4時間)	認知 (想起)
8	5/26 (月) 1限	林	ユニット 4 脈管系 [講義]	1) 血管の構造について知る。 2) 心臓の構造を知る。 3) 全身の動・静脈を知る。	(1) 動脈、静脈および毛細血管の構造と役割を説明できる。 (2) 肺循環と体循環を説明できる。	教科書：人体の構造と機能 1：P109-148を熟読する。 (4時間)	認知 (想起)
9	6/2 (月) 1限	林	ユニット 4 脈管系 [講義]	1) リンパの循環とリンパ節の機能を説明できる。 2) 胎児の循環を知る。	(1) リンパの循環とリンパ節の機能を説明できる。 (2) 胎児の循環を説明できる。	教科書：人体の構造と機能 1：P148-155を熟読する。 (4時間)	認知 (想起)
10	6/9 (月) 2限	林	ユニット 5 神経系 [講義]	1) 神経系の概要と構成を説明する。 2) 神経系の基本構造を知る。 3) 中枢神経系の構造を知る。	(1) 神経系の概略を説明できる。 (2) 脳と脊髄の基本構造と機能を概説できる。	教科書：人体の構造と機能 1：P179-192を熟読する。 (4時間)	認知 (想起)
11	6/16 (月) 1限	林	ユニット 5 神経系 [講義]	1) 末梢神経系の分類を説明する。 2) 脳神経の走行と分布を知る。 3) 脊髄神経の走行と分布を知る。 4) 自律神経の構造を知る。 5) 脳脊髄膜を知る。 6) 脳の血管の構成を知る。	(1) 末梢神経系の機能と分類を概説できる。 (2) 脳脊髄膜を概説できる。	教科書：人体の構造と機能 1：P192-212を熟読する。 (4時間)	認知 (想起)
12	6/23 (月) 2限	林	ユニット 5 神経系 [講義]	1) 末梢神経系の分類を説明する。 2) 脳神経の走行と分布を知る。 3) 脊髄神経の走行と分布を知る。 4) 自律神経の構造を知る。 5) 脳脊髄膜を知る。 6) 脳の血管の構成を知る。	(1) 末梢神経系の機能と分類を概説できる。 (2) 脳脊髄膜を概説できる。	教科書：人体の構造と機能 1：P192-212を熟読する。 (4時間)	認知 (想起)
13	6/30 (月) 1限	林	ユニット 6 感覚系 [講義]	1) 皮膚の感覚装置の構造を知る。 2) 視覚器、聴覚器、平衡覚器、嗅覚器の構造を知る。	(1) 皮膚の感覚受容器の構造を概説できる。 (2) 特殊感覚器の構造を概説できる。	教科書：人体の構造と機能 1：P156-178を熟読する。 (4時間)	認知 (想起)
14	7/7 (月) 2限	林	ユニット 6 内臓系 [講義]	1) 消化器系に属する臓器とその構造を知る。 2) 呼吸系に属する臓器とその構造を知る。	(1) 消化器系の構造と機能を概説できる。 (2) 呼吸器系の構造と機能を概説できる。	教科書：人体の構造と機能 1：P84-108、213-233を熟読する。 (4時間)	認知 (想起)
15	7/14 (月) 1限	林	ユニット 6 内臓系 [講義]	1) 泌尿器系に属する臓器とその構造を知る。 2) 内分泌系に属する臓器とその構造を知る。 3) 生殖系に属する臓器とその構造を知る。	(1) 泌尿器系の構造と機能を概説できる。 (2) 内分泌系の構造と機能を概説できる。 (3) 生殖器系の構造と機能を概説できる。	教科書：人体の構造と機能 1：P234-268を熟読する。 (4時間)	認知 (想起)

口腔解剖学・組織発生学Ⅰ

開講時期： 1 年次前期
 授業時間数： 15コマ；30時間 2単位
 受験資格要件： 2/3（10コマ）以上の出席
 科目番号： DH011111
 評価責任者： 古野 みはる
 授業担当者： 大谷 崇仁
 二階堂 美咲

1. 一般目標

将来、学生が歯科衛生士として根拠や理論に基づいた口腔保健管理を実施するために必要な人体の構造とその発生を理解し、情報や知識を理論的に分析・考察するための科学的思考力を修得する。

2. 教育方法

教科書を中心に、配布資料、板書、パワーポイントを用いて講義する。

3. 教育教材

教科書、配布資料、PC+プロジェクター、歯牙模型

4. 学修方法

指定教科書2冊と配布資料等を持参し、講義内容およびメモを講義時間内にノートにまとめること。本講義は、今後3年生までに受講するすべての臨床科目、および「口腔解剖学・組織発生学Ⅱ」、「口腔病理学」等の理解に必要である。

【単位修得に必要な授業外学修時間：60 時間】

5. 評価方法

〔形成的評価〕 ミニテスト

〔フィードバック〕 理解が不十分な場合、別日のミニテストで再度確認を行う。

〔総括的評価〕 定期試験：記述試験（100%）

〔フィードバック〕 試験終了後、結果を各受験者に通知する。また、理解度確認資料を用いた学習指導等を行う。

6. 教科書・テキスト

1. 「歯科衛生学シリーズ歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」 医歯薬出版 2023年
2. 「歯科衛生学シリーズ人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学」 医歯薬出版 2023年

7. 参考書

1. 「歯科衛生士国試対策集2025年対応」 歯科衛生士国試対策研究会編、クインテッセンス出版 2024年

回	授業日	授業担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標(GIO)	行動目標(SBOs)	予習・復習項目と 必要時間	教育目標 領域
1	4/9 (水) 3限	二階堂	ユニット1 歯の解剖学総論 〔講義〕	1) 歯の定義と歯の解剖学用語を理解する。	1) 歯の定義を説明できる。 2) 歯の形態分類と歯種を説明できる。 3) 歯の記号を説明できる。 4) 歯の方向用語を説明する。 5) Muhlreiter の三徴を説明できる。	教科書2のP72-P82をまとめる。 (4時間)	認知 (想起)
2	4/16 (水) 3限	二階堂	ユニット2 永久歯前歯 〔講義〕	1) 上・下顎切歯を理解する。	1) 上・下顎切歯の形態および特徴を説明できる。	教科書2のP83-88をまとめる。 (4時間)	認知 (想起)
3	4/23 (水) 3限	二階堂	ユニット2 永久歯前歯 〔講義〕	1) 上・下顎犬歯を理解する。	1) 上・下顎犬歯の形態および特徴を説明できる。	教科書2のP88-91をまとめる。 (4時間)	認知 (想起)
4	4/30 (水) 3限	二階堂	ユニット3 永久歯小臼歯 〔講義〕	1) 上顎第一・第二小臼歯を理解する。 2) 下顎第一・第二小臼歯を理解する。	1) 上顎第一・第二小臼歯の特徴を説明できる。 2) 下顎第一・第二小臼歯の特徴を説明できる。 固有咬合面を説明できる。	教科書2のP91-99をまとめる。 (4時間)	認知 (想起)

回	授業日	授業 担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標 (G10)	行動目標 (SBOs)	予習・復習項目と 必要時間	教育目標 領域
5	5/7 (水) 3限	二階堂	ユニット4 永久歯大臼歯 〔講義〕	1) 上顎第一・第二大臼歯を理解する。 2) 下顎第一・第二大臼歯を理解する。	1) 上顎第一・第二大臼歯の特徴を説明できる。 2) 下顎第一・第二大臼歯の特徴を説明できる。 3) 大臼歯間の形態変化を説明できる。	教科書2のP99-109をまとめる。 (4時間)	認知 (想起)
6	5/14 (水) 3限	二階堂	ユニット5 乳歯 〔講義〕	1) 乳歯の特徴を理解する。	1) 乳歯と永久歯を比較説明できる。 2) 乳歯に共通の形態的特徴を説明できる。 3) 乳前歯、乳臼歯の形態的特徴を説明できる。	教科書2のP110-121をまとめる。 (4時間)	認知 (想起)
7	5/21 (水) 3限	二階堂	ユニット6 特色ある歯の形態 〔講義〕	1) 歯の異常について理解する。	1) 歯の異常について説明できる。	教科書2のP122-128をまとめる。 (4時間)	認知 (想起)
8	5/28 (水) 3限	二階堂	ユニット7 歯群、咬合 〔講義〕	1) 歯列と咬合について理解する。	1) 歯列弓について説明できる。 2) 咬合について説明できる。	教科書2のP128-134をまとめる。 (4時間)	認知 (想起)
9	6/4 (水) 3限	大谷 二階堂	ユニット8 歯と歯周組織 〔講義〕	1) エナメル質の組織構造について理解する。	1) エナメル質の物理的、化学的性質を説明できる。 2) エナメル質にみられる特徴的な構造を説明できる。 3) エナメル質の成長線を説明できる。	教科書2.のP135-142をまとめる。 (4時間)	認知 (想起)
10	6/11 (水) 3限	大谷 二階堂	ユニット8 歯と歯周組織 〔講義〕	1) 象牙質・歯髄の組織構造について理解する。	1) 象牙質の物理的、化学的性質を説明できる。 2) 象牙質にみられる特徴的な構造を説明できる。 3) 歯髄の組織構造を説明できる。 4) 象牙質・歯髄の加齢変化を説明できる。	教科書2.のP143-152をまとめる。 (4時間)	認知 (想起)
11	6/18 (水) 3限	大谷 二階堂	ユニット8 歯と歯周組織 〔講義〕	1) セメント質の組織構造について理解する。 2) 歯根膜の組織構造について理解する。	1) セメント質を分類することができる。 2) セメント質の構造を説明できる。 3) 歯根膜主線維、脈管神経隙およびマラッセの上皮遺残を説明することができる。	教科書2.のP153-160をまとめる。 (4時間)	認知 (想起)
12	6/25 (水) 3限	大谷 二階堂	ユニット8 歯と歯周組織 〔講義〕	1) 歯槽骨の組織構造について理解する。 2) 歯肉の組織構造について理解する。	1) 束状骨、層板骨、シャープ線維を説明できる。 2) 歯肉上皮(外縁上皮、内縁上皮)および歯肉の構造を説明できる。	教科書2.のP161-167をまとめる。 (4時間)	認知 (想起)
13	7/2 (水) 3限	大谷 二階堂	ユニット9 頭頸部の発生 〔講義〕	1) 受精と着床を理解する。 2) 胚葉の形成について理解する。 3) 胚子期および胎児期を理解する。	1) 受精から着床までを説明できる。 2) 二層性胚盤および三層性胚盤を説明できる。 3) 三胚葉に由来する構造をそれぞれ説明できる。	教科書1.のP31-44をまとめる。 (4時間)	認知 (想起)
14	7/9 (水) 3限	大谷 二階堂	ユニット9 頭頸部の発生 〔講義〕	1) 鰓弓を理解する。 2) 頭頸部の発生について理解する。	1) 鰓弓、鰓溝、咽頭嚢とそこから発生する器官を説明できる。 2) 舌の形成を説明できる。 3) 唾液腺、甲状腺の発生を説明できる。	教科書2.のP170-171, P176-179をまとめる。 (4時間)	認知 (想起)
15	7/16 (水) 3限	大谷 二階堂	ユニット9 頭頸部の発生 〔講義〕	1) 顔面と口唇の形成を理解する。 2) 口蓋と鼻腔の形成を理解する。	1) 顔面と口唇の形成を説明できる。 2) 口蓋と鼻腔の形成を説明できる。 3) 顔面・口腔の発生と奇形を関連づけて説明できる。	教科書2.のP173-176をまとめる。 (4時間)	認知 (想起)

口腔解剖学・組織発生学Ⅱ

開講時期： 1 年次後期
 授業時間数： 15 コマ ; 30 時間 1 単位
 受験資格要件： 2/3 (10 コマ) 以上の出席
 科目番号： DH011112
 評価責任者： 古野 みはる
 授業担当者： 大谷 崇仁、林 慶和、
 二階堂 美咲

1. 一般目標

将来、学生が歯科衛生士として根拠や理論に基づいた口腔保健管理を実施するために必要な人体の構造と機能を理解し、情報や知識を理論的に分析・考察するための科学的思考力を修得する。現在の口腔医学だけでなく、未来の新たな医療技術の理解の基盤となる思考力・判断力を養うことを目標とする。

2. 教育方法

教科書を中心に配布資料、板書、パワーポイントを用いて講義する。

3. 教育教材

教科書、プリント、PC+プロジェクター

4. 学修方法

指定教科書 2 冊と事前事後配布プリント等を必ず持参し、授業中は必要に応じノートをとる。本講義は、今後 3 年生までに受講するすべての臨床科目、および「口腔病理学」等の理解に必要である。

【単位修得に必要な授業外学修時間：15 時間】

5. 評価方法

〔形式的評価〕 確認テスト

〔フィードバック〕 理解が不十分な場合、別日に再度確認を行う。

〔総括的評価〕 定期試験：記述試験（90%）、授業参加状況（授業態度含む）（10%）

〔フィードバック〕 試験結果、成績は試験終了後に通知する。

6. 教科書・テキスト

1. 「歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」医歯薬出版 2023 年
2. 「歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能 1 解剖学・組織発生学・生理学」医歯薬出版 2023 年

7. 参考書

1. 「歯科衛生士国試対策集 2025 年対応」 歯科衛生士国試対策研究会編、クインテッセンス出版 2024 年

回	授業日	授業担当者	ユニット番号 ユニット項目 〔授業方法〕	学修目標 (GIO)	行動目標 (SB0s)	予習・復習項目 と必要時間	教育 目標 領域
1	9/17 (水) 1 限	大谷 二階堂	ユニット7 細胞・組織・ 器官 〔講義〕	1) 上皮組織について理解する。	(1) 上皮を形態的および機能的に分類することができる。 (2) 腺の構造について説明できる。	教科書 1 の P21-26 (1 時間)	認知 (想起)
2	9/24 (水) 1 限	大谷 二階堂	ユニット7 細胞・組織・器 官 〔講義〕	1) 支持組織について理解する。	(1) 結合組織について説明できる。 (2) 血液・リンパについて説明できる。	教科書 1 の P26-28, 29-30 (1 時間)	認知 (想起)
3	10/1 (水) 1 限	大谷 二階堂	ユニット7 細胞・組織・器 官 〔講義〕	1) 支持組織について理解する。	(1) 軟骨組織について説明できる。 (2) 骨組織について説明できる。	教科書 1 の P28-30 (1 時間)	認知 (想起)
4	10/8 (水) 1 限	大谷 二階堂	ユニット7 細胞・組織・器 官 〔講義〕	1) 筋組織について理解する。	(1) 骨格筋、内臓筋の構造について説明できる。	教科書 1 の P64-65 をまとめる。 (1 時間)	認知 (想起)

回	授業日	授業 担当者	ユニット番号 ユニット項目 〔授業方法〕	学修目標 (GIO)	行動目標 (SB0s)	予習・復習項目 と必要時間	教育 目標 領域
5	10/15 (水) 1限	大谷 二階堂	ユニット7 細胞・組織・ 器官〔講義〕	1) 神経組織について理解する。	(1) 神経組織の構造と構成する細胞の種類を述べることができる。	教科書1の P180-182をまと める。 (1時間)	認知 (想起)
6	10/22 (水) 1限	大谷 二階堂	ユニット6 歯と歯周組織 の発生 〔講義〕	1) 歯の発生について理解する。	(1) 歯堤、唇溝底、蕾状期歯胚、帽状期 歯胚、鐘状期歯胚を説明できる。 (2) エナメル器、歯乳頭を説明できる。 (3) エナメル質の形成、象牙質の形成、 歯髄の形成について説明できる。	教科書2のP180- 184をまとめ る。 (1時間)	認知 (問題解決)
7	10/29 (水) 1限	大谷 二階堂	ユニット6 歯と歯周組織 の発生 〔講義〕	1) 歯周組織の発生について理 解する。	(1) 歯小囊、ヘルトヴィッヒ上皮鞘、マ ラッセの上皮遺残を説明できる。 (2) 歯根膜およびセメント質の形成を説 明できる。	教科書2のP184を まとめる。 (1時間)	認知 (問題解決)
8	11/5 (水) 1限	林	ユニット1 解剖学各論骨 学各論 〔講義〕	1) 頭蓋を構成する骨を理解す る。 2) 内頭蓋底、外頭蓋底を理解 する。 3) 眼窩、鼻腔、口腔を構成す る骨を理解する。	(1) 頭蓋を構成する骨を説明できる。 (2) 内頭蓋底、外頭蓋底を説明できる。 (3) 眼窩、鼻腔、口腔を構成する骨を説 明できる。	教科書2のP11- 26を熟読する。 (1時間)	認知 (問題解決)
9	11/12 (水) 1限	林	ユニット1 解剖学各論骨 学各論 〔講義〕	1) 上顎骨を理解する。 2) 下顎骨を理解する。 3) 蝶形骨を理解する。 4) 側頭骨を理解する。 5) 舌骨を理解する。 6) 顎関節を理解する。	(1) 上顎骨を説明できる。 (2) 下顎骨を説明できる。 (3) 蝶形骨を説明できる。 (4) 側頭骨を説明できる。 (5) 舌骨を説明できる。 (6) 顎関節を説明できる。	教科書2のP11- 26、P35-37を熟 読する。 (1時間)	認知 (問題解決)
10	11/19 (水) 1限	林	ユニット2 解剖学各論筋 学各論 〔講義〕	1) 頭頸部の筋と作用を理解す る。 2) 表情筋を理解する。 3) 咀嚼筋を理解する。 4) 舌筋を説明する。 5) 口蓋筋を理解する。 6) 嚥下に関与する筋を理解す る。	(1) 頭頸部の筋と作用を説明できる。 (2) 表情筋を説明できる。 (3) 咀嚼筋を説明できる。 (4) 舌筋を説明できる。 (5) 口蓋筋を説明できる。 (6) 嚥下に関与する筋を説明できる。	教科書2のP26- 34、P67-71を熟 読する。 (1時間)	認知 (問題解決)
11	11/26 (水) 1限	林	ユニット3 解剖学各論脈 管学各論 〔講義〕	1) 頭頸部の脈管を理解する。 2) 総頸動脈の走行を理解す る。 3) 外頸動脈の走行と枝を理解 する。 4) 顎動脈の走行と枝を理解す る。 5) 顔面動脈の走行と枝を理解 する。 6) 舌動脈の走行と枝を理解す る。	(1) 頭頸部の脈管を説明できる。 (2) 総頸動脈の走行を説明できる。 (3) 外頸動脈の走行と枝を説明できる。 (4) 顎動脈の走行と枝を説明できる。 (5) 顔面動脈の走行と枝を説明できる。 (6) 舌動脈の走行と枝を説明できる。	教科書2のP38- 44を熟読する。 (1時間)	認知 (問題解決)
12	12/3 (水) 1限	林	ユニット3 解剖学各論脈 管学各論〔講 義〕	1) 頭頸部の動脈と静脈の違い を理解する。 2) 頭頸部の主な静脈を理解す る。 3) 頭頸部のリンパ節を理解す る。	(1) 頭頸部の動脈と静脈の違いを説明で きる。 (2) 頭頸部の主な静脈を説明できる。 (3) 頭頸部のリンパ節を説明できる。	教科書2のP44- 49を熟読する。 (1時間)	認知 (問題解決)
13	12/10 (水) 1限	林	ユニット4 解剖学各論 神経系各論 〔講義〕	1) 三叉神経を理解する。 2) 顔面神経を理解する。 3) 舌咽神経を理解する。 4) 迷走神経を理解する。 5) 舌下神経を理解する。	(1) 三叉神経の走行と分布を説明でき る。 (2) 顔面神経の走行と分布を説明でき る。 (3) 舌咽神経の走行と分布を説明でき る。 (4) 迷走神経の走行と分布を説明でき る。 (5) 舌下神経の走行と分布を説明でき る。	教科書2のP49- 59を熟読する。 (1時間)	認知 (問題解決)
14	12/17 (水) 1限	林	ユニット4 解剖学各論 神経系各論 〔講義〕	1) 頭頸部に分布する脊髄神経 を理解する。 2) 頭頸部に分布する交感・副 3) 交感神経を理解する。 4) 神経節を理解する。	(1) 頭頸部に分布する脊髄神経を説明で きる。 (2) 頭頸部に分布する交感・副交感神経 を説明できる。 (3) 神経節を説明できる。	教科書2のP59- 61を熟読する。 (1時間)	認知 (問題解決)

回	授業日	授業 担当者	ユニット番号 ユニット項目 〔授業方法〕	学修目標（GIO）	行動目標（SB0s）	予習・復習項目 と必要時間	教育 目標 領域
15	1/14 （水） 1限	林	ユニット 5 解剖学各論 内臓学各論 消化器系 〔講義〕	1) 口腔の基本構造と機能について理解する。	(1) 口腔について説明できる。 (2) 口腔の区分を説明できる。 (3) 舌の構造と機能を説明できる。 (4) 唾液腺の位置と構造を説明できる。	教科書 2 の P62-71 を熟読する。 (1 時間)	認知 （問題解決）

口腔生理学

開講時期： 1 年次前期
授業時間数： 15 コマ；30 時間 2 単位
受験資格要件： 2/3（10 コマ）以上の出席
科目番号： DH011113
評価責任者： 古野 みはる
授業担当者： 鍛冶屋 浩、進 正史

1. 一般目標

将来、歯科衛生士として必要な、正常な咀嚼、嚥下機能の形成及び維持を目標とする歯科臨床の基礎知識を養うことを目的とする。また、歯科臨床の場において、必要な思考力や判断力を養うために、口腔・顎顔面領域の構造を咀嚼や嚥下の器官系としてとらえ、それらの機能と機能調節機序について修得する。

2. 教育方法

板書と配布資料及びスライドプロジェクターによる示説を併用した講義

3. 教育教材

教科書、プリント資料、スライド、PC、プロジェクター

4. 学修方法

指定教科書と配布プリント等を必ず持参すること。授業は予習していることを前提に行うので、授業前に教科書に目を通し、初めて見る専門用語や語句にマーカーや付箋で印を付ける。授業後は配布資料、教科書をもとに講義の概要を要約し、理解が不十分な部分を教科書や参考書で自習すると共に教員への質疑を通じて補完する。本講義を理解するためには、生物学、解剖学などの知識が必要であり、歯科麻酔学、歯科補綴学、口腔外科学等を理解する上で不可欠である。

【単位修得に必要な授業外学修時間：60 時間】

5. 評価方法

〔総括的評価〕記述試験（定期試験：100%）

〔フィードバック〕試験結果は、試験終了後に通知する。尚、詳細は講義の初日に説明する。

6. 教科書・テキスト

1. 「歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能 1 解剖学・組織発生学・生理学」 医歯薬出版 2024 年
2. 「歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」 医歯薬出版 2024 年

7. 参考書

1. 「イラストでわかる歯科医学の基礎」永末書店 改訂第3版 2016
2. 「歯科衛生士のための歯科用語辞典（基礎編）」クインテッセンス出版
3. 「歯科衛生士国試対策集 2025 年対応」 歯科衛生士国試対策研究会編、クインテッセンス出版 2024 年

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標 (GIO)	行動目標 (SB0s)	予習・復習項目と 必要時間	教育 目標 領域
1	4/10 (木) 3限	鍛冶屋	オリエンテー ション ユニット 1 細胞 〔講義〕	1)細胞の構造と機能を理解する。 2)細胞内器官と機能を理解する。	(1) 細胞の機能と恒常性について述べる。 (2) 細胞内小器官の構造と機能について述べる。 (3) 遺伝子の構造と機能について述べる。 (4) 細胞膜による物質の出入と電位発生について述べる。	教科書 1. の P12-20 を精読する 配付資料の記入部位の再確認と練習問題の復習を行う (復習4時間)	認知 (想起)
2	4/17 (木) 3限	鍛冶屋	ユニット 2 血液 〔講義〕	血球の種類と機能を理解する。また、血漿の成分と機能を理解する。	(1) 血液の成分を分類し各々の機能を説明する。 (2) ヘモグロビンの構造と機能及び代謝について説明する。 (3) 止血に関わる因子と機序を説明する。 (4) ABO 式と Rh 式血液型の判定方法を説明する。	教科書 1. の P115-121 を精読する 配付資料の記入部位の再確認と練習問題の復習を行う (復習4時間)	認知 (解釈)
3	4/24 (木) 3限	鍛冶屋	ユニット 3 循環 〔講義〕	心臓の機能と調節機序について理解する。	(1) 心筋と骨格筋の収縮特性について述べる。 (2) 体循環と肺循環の経路について述べる。 (3) 心電図の誘導原理を理解し、心臓の興奮と心電図を関係について述べる。 (4) 血圧とその調節機序について述べる。	教科書 1. の P128-139 を精読する 配付資料の記入部位の再確認と練習問題の復習を行う (復習4時間)	認知 (想起)

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標 (GIO)	行動目標 (SB0s)	予習・復習項目と 必要時間	教育 目標 領域
4	5/1 (木) 3限	鍛冶屋	ユニット 4 呼吸 〔講義〕	肺の機能と調節機序について理解する。	(1) 呼吸器の構造と呼吸運の様式について説明する。 (2) 内呼吸と外呼吸を説明する。 (3) ヘモグロビンの酸素解離曲線について説明する。 (4) 肺気量の区分とそれら病的変動について説明する。	教科書 1. の P213-233を精読する 配付資料の記入部位の再確認と練習問題の復習を行う (復習4時間)	認知 (解釈)
5	5/8 (木) 3限	鍛冶屋	ユニット 5 神経 〔講義〕	神経における興奮の伝導と伝達機序を理解する。	(1) 中枢神経と末梢神経を説明する。 (2) 興奮伝導速度と神経線維の関係を説明する。 (3) シナプス伝達の特徴を説明する。 (4) 体性神経と自律神経を説明する。	教科書 1. の P179-212を精読する 配付資料の記入部位の再確認と練習問題の復習を行う (復習4時間)	認知 (解釈)
6	5/15 (木) 3限	鍛冶屋	ユニット 6 筋と運動 〔講義〕	骨格筋の構造と収縮機序を理解する。	(1) 骨格筋の構造を述べる。 (2) 興奮-収縮連関の機序を述べる。 (3) 筋収縮エネルギーの供給について述べる。 (4) 等張性収縮と等尺性収縮の違いを述べる。	教科書 1. の P64-83を精読する 配付資料の記入部位の再確認と練習問題の復習を行う (復習4時間)	認知 (想起)
7	5/22 (木) 3限	鍛冶屋	ユニット 7 消化吸収 〔講義〕	消化吸収の調節機序について理解する。	(1) 消化管の構成を説明する。 (2) 消化液の組成と機能を説明する。 (3) 消化管ホルモンの作用を説明する。 (4) 物質による吸収過程について述べる。	教科書 1. の P84-108を精読する 配付資料の記入部位の再確認と練習問題の復習を行う (復習4時間)	認知 (解釈)
8	6/5 (木) 2限	鍛冶屋	ユニット 8 腎機能と体温 〔講義〕	1) 腎臓と体液調節機序について理解する。 2) 体熱の産生と放熱機序及び体温の調節の機序を理解する。	(1) 腎臓の構成単位と尿生成機序を説明する。 (2) 水分代謝における腎の役割と体液量の調節機序を説明する。 (3) 排尿反射について述べる。 (4) 体温調節中枢を挙げ、産熱と放熱の機序を述べる。	教科書 1. の P234-245及びP269-278を精読する 配付資料の記入部位の再確認と練習問題の復習を行う (復習4時間)	認知 (想起)
9	6/12 (木) 3限	鍛冶屋	ユニット 9 内分泌 〔講義〕	1) 内分泌器官とホルモンの性質を理解する 2) ホルモンによる恒常性維持を理解する	(1) 内分泌と外分泌の違いを述べる。 (2) 内分泌器官を列挙し、分泌されるホルモンを述べる。 (3) 血中Ca調節ホルモンと血糖値調節ホルモンの分泌調節と作用を述べる。	教科書 1. の P246-258を精読する 配付資料の記入部位の再確認と練習問題の復習を行う (復習4時間)	認知 (想起)
10	6/19 (木) 3限	鍛冶屋	ユニット 10 感覚 〔講義〕	体性感覚および特殊感覚の種類と性質を理解する。	(1) 体性感覚を分類し、特徴を述べる。 (2) 視覚の受容機序及び伝導路を述べる。 (3) 感覚受容器の種類と受容器電位とインパルスの発生機序を述べる。 (4) 感覚の閾値と順応について述べる。	教科書 1. の P156-178を精読する 配付資料の記入部位の再確認と練習問題の復習を行う (復習4時間)	認知 (解釈)
11	6/26 (木) 3限	進	ユニット11 咬合と咀嚼 〔講義〕	咀嚼運動の意義とメカニズムを理解する。	(1) 咀嚼筋による顎運動について説明する。 (2) 下顎張反射、閉口反射、歯根膜咀嚼反射の反射弓を説明する。 (3) 顎運動の神経機構について説明する。 (4) 下顎の運動と下顎位について説明する。	教科書 2. の P213-232を精読する 配付資料の記入部位の再確認と練習問題の復習を行う (復習4時間)	認知 (解釈)
12	7/3 (木) 3限	進	ユニット12 嚥下と嘔吐 〔講義〕	嚥下と嘔吐運動の特徴と神経機構を理解する。	(1) 嚥下運動と食塊の動きについて述べる。 (2) 嚥下運動の特徴と機序について述べる。 (3) 嘔吐の誘発原因について述べる。 (4) 嘔吐の特徴と機序について述べる。	教科書 2. の P233-247を精読する 配付資料の記入部位の再確認と練習問題の復習を行う (復習4時間)	認知 (想起)
13	7/10 (木) 3限	進	ユニット13 唾液分泌 〔講義〕	唾液腺の種類と構造について理解する。	(1) 唾液腺の種類を列記し、各々の特徴を説明する。 (2) 唾液腺の神経支配について説明する。 (3) 自律神経による唾液分泌調節について説明する。 (4) 唾液の含有成分と各々の機能を説明する。	教科書 2. の P260-270を精読する 配付資料の記入部位の再確認と練習問題の復習を行う (復習4時間)	認知 (解釈)
14	7/17 (木) 3限	進	ユニット14 歯と口腔感覚 〔講義〕	口腔、顎顔面及び歯の感覚の特徴について理解する。	(1) 歯髄、象牙質及び歯根膜の感覚の特徴について説明する。 (2) 口腔粘膜の感覚の特徴について説明する。 (3) 歯痛の原因と発生機序を説明する。 (4) 関連痛の特徴を述べ、その発生機序を説明する。	教科書 2. の P192-199を精読する 配付資料の記入部位の再確認と練習問題の復習を行う (復習4時間)	認知 (解釈)
15	7/24 (木) 3限	進	ユニット15 味覚と嗅覚 〔講義〕	1) 味覚の種類と味覚受容機構及び味覚障害について理解する。 2) 嗅覚の特徴と受容機構を理解する。	(1) 四基本味と味覚受容機序を述べる。 (2) 味覚情報の伝達経路を述べる。 (3) 味覚障害の種類と原因について述べる。 (4) 嗅細胞によるにおいの受容機序を述べる。	教科書 2. の P200-212を精読する 配付資料の記入部位の再確認と練習問題の復習を行う (復習4時間)	認知 (想起)

口腔生化学

開講時期： 1 年次後期
 授業時間数： 15 コマ；30 時間 2 単位
 受験資格要件： 2/3 (10 コマ) 以上の出席
 科目番号： DH011114
 評価責任者： 古野 みはる
 授業担当者： 石橋 一成

1. 一般目標

将来、歯科衛生士として根拠や理論に基づいた口腔保健管理学を履修するために必要な基礎科学の一つとしての口腔生化学を修得する。生命現象を化学的・分子的レベルで理解すると共に、生体を構成する物質や栄養素の代謝を理解する。さらに、歯と口に関して歯周組織、歯、唾液、プラークを理解し、プラークのう蝕、歯周疾患との関係を考察する。

2. 教育方法

講義、教科書、スライドを用いる。

3. 教育教材

教科書、プリント、PC+プロジェクター

4. 学修方法

授業は定刻に始まるので、遅刻は欠席になる。授業には、指定教科書等を必ず持参すること。授業は予習していることを前提に開始する。授業中は当日配布したプリントを熟読し、ノートを取る。授業後は、教科書や配布プリント等で講義内容の確認をその日のうちに行うこと。本授業を理解するうえで、生物学、化学等の知識が必要であり、本授業は全身疾患の病態・生理の理解に不可欠である。

【単位修得に必要な授業外学修時間：60時間】

5. 評価

〔総括的評価〕：定期試験（95％）、授業参加状況（予習・復習等の実施状況）（5％）

〔フィードバック〕：試験結果は、試験終了後に通知する。

6. 教科書・テキスト

- 「歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能 2 『生化学・口腔生化学』」全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 第1版 2025年

7. 参考書

- 「スタンダード口腔生化学」 大塚吉兵衛 他編集、医歯薬出版 2008年

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号 項目名 [授業方法]	学修目標 (GIO)	行動目標 (SBOs)	予習・復習 項目と 必要時間	教育 目標 領域
1	9/22 (月) 4限	石橋	オリエンテーショ ン ユニット1 生 体 の 構 成 要 素 (1) [講義]	1) 細胞の役割について理 解する。	(1) 生体を構成する物質や栄養素の種類と代謝 について説明することができる。 (2) 生命現象の化学、細胞の構造、情報伝達、細 胞の分化について説明することができる。 (3) 生体反応に不可欠な水とその化学について 説明することができる。	教科書の P6-21を精読 する (4 時間)	認知 (想起)
2	9/29 (月) 4限	石橋	ユニット1 生 体 の 構 成 要 素 (2) [講義]	2) 生体構成物質と栄養素 について理解する。	(1) 人体の構成成分、糖質と脂質とタンパク質の 構造と種類、ビタミン、ミネラルについて説明す ることができる。	教科書の P23-25を精 読する (4 時間)	認知 (想起)
3	10/6 (月) 4限	石橋	ユニット2 生 体 の 化 学 反 応 [講義]	1) 消化と吸収について理 解する。	(1) 栄養素の消化吸収について説明することが できる。 (2) 栄養素の消化吸収酵素の運搬代謝と ATP、酵 素の役割について説明することができる。	教科書の P29-31を精 読する (4 時間)	認知 (想起)

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号 項目名 [授業方法]	学修目標 (GIO)	行動目標 (SB0s)	予習・復習 項目と 必要時間	教育 目標 領域
4	10/20 (月) 4限	石橋	ユニット3 三大栄養素の代謝 (1) [講義]	1) 糖質の代謝とエネルギーについて理解する。	(1) 糖質代謝の経路とエネルギー産生について説明することができる。 (2) エネルギー代謝の全体像、糖質の代謝とエネルギー、解糖系、クエン酸回路について説明することができる。	教科書のP32-35を精読する (4時間)	認知 (想起)
5	10/27 (月) 4限	石橋	ユニット3 三大栄養素の代謝 (1) [講義]	1) 糖質の代謝とエネルギーについて理解する。	(1) 糖質代謝の経路とエネルギー産生について説明することができる。 (2) クエン酸回路、電子伝達系、グリコーゲン代謝について説明することができる。	教科書のP32-35を精読する (4時間)	認知 (想起)
6	11/10 (月) 4限	石橋	ユニット3 三大栄養素の代謝 (2) [講義]	2) 脂質の代謝とエネルギーについて理解する。	(1) 脂質が加水分解され、脂肪酸が β 酸化によってエネルギーを供給することを説明することができる。 (2) 脂質の分解、脂肪酸の酸化 (β 酸化)、脂肪の合成について説明することができる。	教科書のP36-37を精読する (4時間)	認知 (想起)
7	11/17 (月) 4限	石橋	ユニット3 三大栄養素の代謝 (3) [講義]	3) タンパク質の代謝について理解する。	(1) タンパク質はアミノ酸となって吸収されることを説明することができる。 (2) アミノ酸の代謝分解、脱アミノ反応、脱炭酸反応、尿素回路、タンパク質の種類、タンパク質の構造について説明することができる。	教科書のP40-41を精読する (4時間)	認知 (想起)
8	12/1 (月) 4限	石橋	ユニット4 核 酸 [講義]	1) DNAと遺伝子について理解する。	(1) DNAとRNA働きとタンパク質合成について述べることができる。 (2) 核酸の構造と代謝、ヌクレオチド、塩基、DNAとRNA、タンパク質の合成、複製、修復について説明することができる。	教科書のP50-56を精読する (4時間)	認知 (想起)
9	12/8 (月) 4限	石橋	ユニット5 歯と歯周組織の生化学 (1) [講義]	1) 結合組織について理解する。	(1) 口腔組織を作っている結合組織の主成分の化学的性質と生理機能を具体的に述べることができる。 (2) 組成と機能、線維状タンパク質、プロテオグリカン、コラーゲン、細胞外マトリックスについて説明することができる。	教科書のP57-61を精読する (4時間)	認知 (想起)
10	12/15 (月) 4限	石橋	ユニット5 歯と歯周組織の生化学 (2) [講義]	2) 歯の組成と構造について理解する。	(1) 歯の組成とその無機成分と石灰化に関与する有機成分について説明することができる。 (2) 歯の組成、歯の無機成分、有機成分と石灰化について説明することができる。	教科書のP65-69を精読する (4時間)	認知 (想起)
11	12/22 (月) 4限	石橋	ユニット6 硬組織の生化学 (1) [講義]	1) 石灰化の仕組みについて理解する。	(1) 骨と歯の石灰化の特徴を比較することができる。 (2) 血清中のカルシウムとリン酸、コラーゲン性石灰化、歯と骨の石灰化について説明することができる。	教科書のP70-76を精読する (4時間)	認知 (想起)
12	1/13 (火) 4限	石橋	ユニット6 硬組織の生化学 (2) [講義]	2) 骨の生成と吸収、歯の脱灰について理解する。	(1) 血清中のカルシウムとリン酸代謝に関するホルモンの働きについて述べることができる。 (2) 骨芽細胞、破骨細胞、血清カルシウムの調節、歯の脱灰と再石灰化について説明することができる。	教科書のP81-88を精読する (4時間)	認知 (想起)
13	1/16 (金) 1限	石橋	ユニット7 唾液の生化学 [講義]	1) 唾液の組成と機能について理解する。	(1) 唾液の組成と作用、成分の役割、唾液分泌と全身との関係を説明することができる。 (2) 唾液の働き、唾液の組成、無機質と有機質、抗菌物質、口腔乾燥、全身の疾患との関係について説明することができる。	教科書のP90-93を精読する (4時間)	認知 (想起)
14	1/19 (月) 4限	石橋	ユニット8 プラークの生化学 (1) [講義]	1) プラークの生物活性とう蝕について理解する。	(1) プラークの種類、形成、酸生成の仕組みについて説明することができる。 (2) 種類、形成、糖からの酸産生、う蝕発症と多因子性疾患について説明することができる。	教科書のP94-101を精読する (4時間)	認知 (想起)
15	1/23 (金) 1限	石橋	ユニット8 プラークの生化学 (2) [講義]	2) 口臭と歯周疾患について理解する。	(1) プラークと口腔疾患との関連性を学び、プラークコントロールの重要性を判断することができる。 (2) 口臭と歯周疾患の発症機構、細菌活性、炎症反応、リポ多糖について説明することができる。	教科書のP104-111を精読する (4時間)	認知 (想起)

口腔病理学

開講時期： 1 年次後期
 授業時間数： 15 コマ；30 時間 2 単位
 受験資格要件： 2/3（10 コマ）以上の出席
 科目番号： DH011121
 評価責任者： 古野 みはる
 授業担当者： 和田 裕子、吉本 尚平

1. 一般目標

将来、歯科衛生士として根拠や理論に基づいた口腔保健管理を実施するために必要な口腔疾患を含む全身的疾患に広く共通する基礎医学とくに疾病の原因、発生機構、経過および転帰などを病理学総論（Ⅰ編）で理論的に理解する。さらに、口腔病理学（Ⅱ編）では、病理学総論に基づいて口腔領域の疾患について病理学総論的な理解および病理組織所見などを理論的に理解し、臨床歯科医学における診断、治療、予防との関わりを知る。

2. 教育方法

講義を行う。

3. 教育教材

教科書、配布プリント、PC+プロジェクター

4. 学修方法

授業には、指定教科書と配布プリント等を必ず持参すること。下記予習項目に記載された教科書の該当箇所を読むなど、事前学修（予習）を怠らないこと。授業中はノートを取る。授業後は、教科書や配布プリント等で講義内容の確認をその日のうちに行うこと。

本授業を理解する上で、口腔解剖学・組織発生学Ⅰの知識が基盤となり、また本授業は口腔外科学の理解に不可欠であり、その他にも小児歯科学、歯科保存修復・歯内治療学の理解に関連する内容を含んでいる。

【単位修得に必要な授業外学修（予習・復習）時間：60時間】

5. 評価

定期試験：記述試験（90%）

平常評価：授業態度（発問・質疑・グループワークでの発言や協力等）（10%）

試験結果（成績）は、試験終了後に通知する。尚、詳細は講義の初日および必要な時期に説明する。

6. 教科書・テキスト

「歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進1 病理学・口腔病理学」 医歯薬出版 2023年

7. 参考書

『新・歯科衛生士教育マニュアル 病理学』クインテッセンス出版株式会社 田中昭男 他編集 2011年 第1版

『新口腔病理学』医歯薬出版 下野正基、高田隆 他 編集 2018年 第2版

『病理・口腔病理学サイドリーダー』学建書院出版 草間 薫、大野 純 編集 2007年 第2版

回	授業日	授業担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学習目標(GIO)	行動目標(SBOs)	予習・復習 項目と 必要時間	教育 目標 領域
1	9/18 (木) 2限	和田	ユニット1 Ⅰ編 1章 病理学序論と病因論 2章 遺伝性疾患と奇形 講義	1) 疾患の内因、外因、遺伝、遺伝性疾患、奇形を理解する。	(1) 生理的素因、個人的素因、遺伝的素因、内分泌異常の概念と内容を述べることができる。 (2) 物理学的因子、化学的因子、生物学的因子、栄養障害、環境汚染、医原病、機械的因子、温度的因子、気圧的因子、電気的因子、放射線因子などについて述べるができる。 (3) 先天異常、遺伝病、染色体異常、奇形の発生と病因について述べるができる。	教科書1.のP2-13を精読する (4時間)	認知 (想起)

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学習目標 (GIO)	行動目標 (SB0s)	予習・復習 項目と 必要時間	教育 目標 領域
2	9/25 (木) 2限	吉本	ユニット 2 3章 循環障害 4章 代謝障害 と退行性病変 講義	1) 循環障害について理解する。 2) 細胞傷害 (変性と物質代謝障害、萎縮、細胞死) について理解する。	(1) 循環血液量の異常 (虚血、充血とうっ血、出血、浮腫 (水腫)、ショック)、閉塞性の循環障害 (血栓症、塞栓症と梗塞、動脈硬化症)、側副循環 (傍側循環) について述べるができる。 (2) 細胞傷害因子、細胞傷害の程度、細胞内小器官の異常、タンパク質の変性と代謝障害 (タンパク質変性、タンパク質代謝障害)、脂肪の変性と代謝障害、糖質の変性と代謝障害、石灰変性とカルシウム代謝障害、結晶体変性と核酸代謝障害について述べるができる。 (3) 壊死 (凝固壊死、融解壊死、壊死組織の転帰)、アポトーシスについて述べるができる。	教科書 1. のP14-33を 精読する (4時間)	認知 (想起)
3	10/2 (木) 2限	吉本	ユニット 3 5章 増殖と 修復 講義	1) 肥大と増生 (過形成)、化生、再生と修復、創傷治癒、異物処理について理解する。	(1) 生理的肥大、病的肥大、特発性肥大について述べるができる。 (2) 上皮の化生 (扁平上皮化生、腸上皮化生)、間葉組織の化生、細胞の増殖と分化 (不安定細胞 (動的細胞)、安定細胞 (静止細胞)、永久細胞 (非分裂細胞)) について述べるができる。 (3) 肉芽組織、創傷の治癒形式 (一時治癒、二次治癒)、吸収と排除、器質化、被包について述べるができる。	教科書 1. のP34-42を 精読する (4時間)	認知 (想起)
4	10/9 (木) 2限	吉本	ユニット 4 6章 炎症と免疫 応答異常 講義	1) 炎症について理解する。	(1) 炎症とは、炎症の原因、炎症に関与する細胞とケミカルメディエーター (炎症に関与する細胞、ケミカルメディエーター)、炎症の経過 (変性・壊死 (退行性変化)、循環障害と滲出、増殖性病変 (進行性変化))、炎症の転帰、 (2) 炎症の分類 (部位による分類、経過時間 (時期) による分類、組織変化による分類)、炎症の臨床症状、感染症について述べるができる。	教科書 1. のP43-52を 精読する (4時間)	認知 (想起)
5	10/16 (木) 2限	吉本	ユニット 4 6章 炎症と免疫 応答異常 講義	2) 免疫応答異常について理解する。	(3) 免疫応答 (免疫応答とは、免疫応答のメカニズム)、アレルギー (I 型 (即時型、アナフィラクシー型) アレルギー、II 型 (細胞傷害型) アレルギー、III 型 (免疫複合体型) アレルギー、IV 型 (遅延型、ツベルクリン型) アレルギー) について述べるができる。 (4) 自己免疫疾患、免疫不全症、移植免疫 (移植 (片) 拒絶反応、移植片対宿主反応) について述べるができる。	教科書 1. のP52-59を 精読する (4時間)	認知 (想起)
6	10/23 (木) 2限	和田	ユニット 5 I 編 病理学 7章 腫瘍 (II 編 口腔 病理学 7章 口腔領域 の嚢胞と腫瘍) 講義	1) 口腔領域の嚢胞について理解する。 2) 腫瘍の発生、腫瘍の種類と性質、腫瘍の診断について理解する。	(1) 歯原性嚢胞 (含歯性嚢胞、歯根嚢胞、萌出嚢胞、幼児の歯肉嚢胞)、顎骨の非歯原性嚢胞 (鼻口蓋管 (切歯間) 嚢胞、術後性上顎嚢胞)、軟組織の非歯原性嚢胞について述べるができる。 (2) 腫瘍の定義、腫瘍の発生機序と原因 (腫瘍の発生機序、腫瘍の原因、腫瘍の組織と形態) について述べるができる。 (3) 発生母組織と腫瘍の各型、悪性度による分類、前がん病変、画像・内視鏡検査、細胞診と生検による病理組織診断、について述べるができる。	教科書 1. の P133-137を 精読する P60-68を精 読する (4時間)	認知 (想起)
7	10/30 (木) 2限	吉本	ユニット 6 II 編 口腔病 理学 1章 歯の発育 異常 2章 歯の損傷 と着色・付着 物 講義	1) 歯の大きさの異常、歯数の異常、歯の形の異常、歯の構造の異常 (形成不全)、歯の萌出時期の異常、歯の位置の異常、咬合の異常について理解する。 2) 物理的損傷、化学的損傷、歯の着色、プラークと歯石について理解する。	(1) 矮小歯、巨大歯、歯の先天性欠如 (無歯症)、過剰歯、双生歯、癒合歯 (融合歯)、癒着歯、陥入歯 (歯内歯、重積歯)、エナメル滴、その他の歯の異常について述べるができる。 (2) 局所的な原因による歯の異常 (外傷によるもの、炎症によるもの、放射線障害によるもの)、全身的な原因による歯の異常 (栄養障害と全身的疾患、先天性梅毒、歯のフッ素症、遺伝性疾患) について述べるができる。 (3) 咬耗症、摩耗症、咬耗症や摩耗症の影響、外傷歯について述べるができる。	教科書 1. のP70-87を 精読する (4時間)	認知 (想起)
8	11/6 (木) 2限	吉本	ユニット 7 3章 う蝕 講義	1) う蝕の疫学と病因、う蝕の分類、う蝕の組織学的変化について理解する。	(1) う蝕の疫学、う蝕の発生機序、う蝕の原因菌とプラーク、歯の形態と構造、食物、唾液などについて述べるができる。 (2) う蝕の組織学的分類、部位による分類、広がりによる分類、経過による分類、進行度による分類、二次う蝕 (再発性う蝕) について述べるができる。 (3) エナメル質う蝕 (初期エナメル質う蝕、実質欠損をきたしたエナメル質う蝕)、象牙質う蝕、セメント質う蝕について述べるができる。	教科書 1. のP88-96を 精読する (4時間)	認知 (想起)

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学習目標 (GIO)	行動目標 (SB0s)	予習・復習 項目と 必要時間	教育 目標 領域
9	11/13 (木) 2限	吉本	ユニット8 4章 象牙質・ 歯髄複合体の 病態 講義	1) 歯髄炎、歯髄の退行性変化、象牙質の増生、象牙質知覚過敏症について理解する。	(1) 歯髄炎の臨床病態、病因と発生機序(細菌学的原因、物理的原因、化学的原因)、急性歯髄炎(急性単純性(漿液性)歯髄炎(一部性、全部性)、急性化膿性歯髄炎、急性壊疽性歯髄炎)、慢性歯髄炎(慢性潰瘍性歯髄炎、慢性増殖性歯髄炎、慢性閉鎖性歯髄炎)について述べることができる。 (2) 歯髄の萎縮、歯髄の変性、歯髄壊死と歯髄壊疽について述べることができる。 (3) 第二象牙質および第三象牙質、象牙(質)粒について述べることができる。	教科書1. のP97-104を 精読する (4時間)	認知 (想起)
10	11/20 (木) 2限	吉本	ユニット9 5章 歯周組織 の病態 講義	1) 根尖部歯周組織の病変について理解する。	(1) 根尖性歯周炎の病因と発生機序、分類、急性根尖性歯周炎(急性単純性(漿液性)根尖性歯周炎、急性化膿性根尖性歯周炎(急性歯槽膿瘍)、慢性根尖性歯周炎(慢性単純性(漿液性)根尖性歯周炎、慢性化膿性根尖性歯周炎(慢性歯槽膿瘍)、歯根肉芽腫、歯根嚢胞)について述べることができる。 (2) 歯性上顎洞炎について述べることができる。	教科書1. のP105-109 を精読する (4時間)	認知 (想起)
11	11/27 (木) 2限	吉本	ユニット9 5章 歯周組織 の病態 講義	2) 辺縁部歯周組織の病変、セメント質増生、セメント(質)粒について理解する。	(1) 歯周組織の構造、病因と発生機序(歯周病の病因(原因)、歯周病の発生病態)、ブラーク性歯肉炎、慢性歯周炎、その他の辺縁部歯周組織の病変(非ブラーク性歯肉肉芽腫、歯肉増殖症、侵襲性歯周炎、遺伝性疾患に伴う歯周炎、壊死性歯周疾患、歯肉の退縮、咬合性外傷)、インプラント周囲炎について述べることができる。 (2) エプーリス、セメント質増生、セメント(質)粒について述べることができる。	教科書1. のP110-121 を精読する (4時間)	認知 (想起)
12	12/4 (木) 2限	和田	ユニット10 6章 口腔粘膜 の病変 講義	1) 多彩な口腔粘膜疾患について理解する。	(1) 口腔粘膜の特徴、メラニン色素沈着症、ヘルペスウイルス感染、手足口病、口腔カンジダ症、再発性アフタ、口腔扁平苔癬、天疱瘡、類天疱瘡、その他の口腔粘膜疾患について述べることができる。	教科書1. のP122-132 を精読する (4時間)	認知 (想起)
13	12/11 (木) 2限	和田	ユニット11 7章 口腔領域 の嚢胞と腫瘍 8章 口腔癌 講義	1) 口腔領域の腫瘍——歯源性腫瘍、非歯源性腫瘍について理解する。 2) 口腔潜在的悪性疾患、上皮性異形成と上皮内癌、扁平上皮癌について理解する。	(1) 歯源性腫瘍(良性腫瘍、悪性腫瘍)、非歯源性腫瘍(良性上皮性腫瘍【扁平上皮乳頭腫】、良性非上皮性腫瘍【線維腫、血管腫とリンパ管腫】、悪性上皮性腫瘍【癌腫】、悪性非上皮性腫瘍【肉腫】、その他の悪性腫瘍)について述べることができる。 (2) 口腔潜在的悪性疾患を列挙できる。 (3) 口腔上皮性異形成について説明できる。 (4) 上皮内癌と扁平上皮癌(浸潤癌)の違いを説明できる。	教科書1. のP137-151 を精読する (4時間)	認知 (想起)
14	12/18 (木) 2限	吉本	ユニット12 9章 顎骨の病 変 第10章 唾液 腺の病変 講義	1) 顎骨骨髄炎、腫瘍様病変、顎関節の病変について理解する。 2) 唾液腺の病変について理解する。	(1) 急性化膿性骨髄炎、慢性化膿性骨髄炎、慢性硬化性骨髄炎、増殖性骨膜炎を伴う慢性骨髄炎、顎放線菌症、放射線骨壊死、ビスフォスフォネート関連顎骨壊死、線維性異形成症、骨性異形成症、骨腫(下顎隆起、口蓋隆起、外骨症)について述べることができる。 (2) 流行性耳下腺炎、シェーグレン症候群、唾石症、粘液嚢胞、唾液腺腫瘍(良性腫瘍【多形腺腫、ワルチン腫瘍】、悪性腫瘍【粘表皮癌、腺様嚢胞癌】)について述べることができる。	教科書1. のP152-167 を精読する (4時間)	認知 (想起)
15	1/15 (木) 2限	吉本	ユニット13 第11章 口腔 領域の奇形 第12章 口腔 組織の加齢変 化 講義	1) 顔面と口腔の披裂、口腔の発育異常、口腔顎顔面に異常を来す奇形症候群について理解する。 2) 歯の硬組織の変化、歯髄の変化、歯周組織の変化について理解する。	(1) 口腔顎顔面の発生、口唇裂、口蓋裂、唇顎口蓋裂、顔面披裂、小帯異常、その他の口腔の発育異常、トリッチャー・コリンズ症候群(下顎顔面異骨症)、ビエール・ロバン症候群、鰐弓症候群、尖頭合指趾症(アペルト症候群)、ダウン症候群について述べることができる。 (2) エナメル質の変化、象牙質の変化、セメント質の変化、歯髄の萎縮や変性、歯肉の変化、歯根膜の変化について述べることができる。	教科書1. のP168-180 を精読する (4時間)	認知 (想起)

口腔微生物学

開講時期： 1 年次前期
 授業時間数： 15 コマ；30 時間 2 単位
 受験資格要件： 2/3（10 コマ）以上の出席
 科目番号： DH011122
 評価責任者： 古野 みはる
 授業担当者： 永尾 潤一、岸川 咲吏、
 豊永 憲司

1. 一般目標

本講義では、口腔の健康管理に関心を持ち、医療人としての自覚と倫理観を備えた歯科衛生士として根拠や理論に基づく口腔保健管理の実践に必要な基本的知識を修得するために、微生物が原因となる口腔領域の疾患（主にう蝕および歯周病）において、感染症をひき起こす病原微生物の一般性状、病原因子、感染と発症のメカニズム、生体防御としての免疫機構、感染予防における滅菌や消毒の意義について理解する。

2. 教育方法

講義

3. 教育教材

教科書、プリント資料、PC+プロジェクター

4. 学修方法

授業には指定の教科書、配布プリント資料を必ず持参すること。予習項目に記載された教科書の該当箇所を精読し講義に望むこと。授業後は、教科書や配布プリント資料や確認テストの復習を当日中に行うこと。講義内容および演習問題について理解できない項目については、教員あるいはティーチングアシスタントに質問し積極的に解決を図ること。

本講義は口腔衛生学、歯科保存修復・歯内治療学、歯周病治療学、歯科予防処置論などの理解に不可欠である。

[単位修得に必要な授業外学修時間：60 時間]

5. 評価方法

[形成的評価] 確認テスト

[フィードバック] 講義中に確認テストの解説を行い、弱点項目を把握できるようにする。

[総括的評価] 記述試験（95%）・授業参加状況（授業態度等）（5%）

[フィードバック] 試験結果（成績）は、試験終了後に通知する。

6. 教科書・テキスト

1. 「新・歯科衛生士教育マニュアル 微生物学」 上西秀則 クインテッセンス出版 2012 年

7. 参考書

1. 「歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ちおよび回復過程の促進 2 微生物学 第2版」 医歯薬出版 2023 年

2. 「歯科衛生士国試対策集 2025 年対応」 歯科衛生士国試対策研究会 クインテッセンス出版 2024 年

回	授業日	授業担当者	ユニット番号 ユニット項目 [授業方法]	学修目標（GIO）	行動目標（SBOs）	予習・復習項目 と必要時間	教育 目標 領域
1	4/14 (月) 3 限	永尾	オリエンテーシ ョン ユニット 1 感染論概論 [講義]	1) 感染症とそれに関わる微生物について理解する。	(1) 感染の概念を説明できる。 (2) 微生物の種類を説明できる。	教科書 p12-15 を精読。 (4 時間)	認知 (想起)
2	4/21 (月) 3 限	永尾	ユニット 2 微生物概論(1) :細菌の一般性状 [講義]	1) 細菌の一般性状を理解する	(1) 細菌の形態、構造、増殖を説明することができる。 (2) 細菌の培養と観察法を説明できる。 (3) 主な細菌感染症を説明できる。	教科書 p16-25、p77-94 を精読。細菌の構造を図示し、各部位の名称と特徴をまとめる。(4 時間)	認知 (想起)

回	授業日	授業 担当者	ユニット番号 ユニット項目 [授業方法]	学修目標 (GIO)	行動目標 (SB0s)	予習・復習項目 と必要時間	教育 目標 領域
3	4/28 (月) 3 限	豊永	ユニット 2 微生物概論(2) : ウイルスと真 菌の一般性状 [講義]	1) ウイルスと真菌の 一般性状を理解す る。	(1) ウイルスと真菌の形態、構造、増 殖を説明できる。 (2) ウイルスと真菌の培養と観察法を 説明できる。 (3) ウイルスと真菌による主な感染症 を説明できる。	教科書p25-33, p74-77, p94- 100を精読。ウイルスと真菌 の構造を図示し、各部位の名 称と特徴をまとめる。 (4時間)	認知 (想起)
4	5/12 (月) 3 限	豊永	ユニット 5 感染と発症(1) : 感染機構 [講義]	1) 微生物による感染 メカニズムを理解 する。	(1) 感染源や感染経路を説明できる。 (2) 感染の種類を説明できる。	教科書p34-38を精読。病原体 とその伝播様式をまとめる。 (4時間)	認知 (想起)
5	5/19 (月) 3 限	豊永	ユニット 5 感染と発症(2) : 感染症 [講義]	1) 感染に関わる微生 物側と宿主側の要 因を理解する。	(1) 微生物の病原性および病原因子を 説明できる。 (2) 宿主の感染防御因子を説明でき る。	教科書p38-41を精読。感染と 発症に関わる微生物の病原 因子、宿主の防御因子を列挙 し特徴をまとめる。(4時間)	認知 (想起)
6	5/26 (月) 3 限	豊永	ユニット 6 免疫(1) : 自然免疫 [講義]	1) 感染に対する自然 免疫を理解する。	(1) 自然免疫の特徴を説明できる。 (2) 自然免疫に関わる細胞や体液性因 子を説明できる。	教科書p42-45を精読。自然免 疫に関わる因子や細胞を列 挙し、特徴をまとめる。 (4時間)	認知 (想起)
7	6/2 (月) 3 限	豊永	ユニット 6 免疫(2) : 獲得免疫 [講義]	1) 感染に対する獲得 免疫を理解する。	(1) 獲得免疫の特徴を説明できる。 (2) 獲得免疫に関わる細胞や体液性因 子を説明できる。	教科書p45-50を精読。獲得免 疫に関わる因子や細胞を列 挙し、特徴をまとめる。 (4時間)	認知 (想起)
8	6/9 (月) 3 限	豊永	ユニット 6 免疫(3) : 免疫病 [講義]	1) 免疫異常による疾 患を理解する。	(1) アレルギーの種類と機序を説明で きる。 (2) 自己免疫疾患と免疫不全について 説明できる。 (3) ワクチンの意義と種類を説明でき る。	教科書p51-54を精読。アレル ギー反応の分類と特徴をま とめる。ワクチンの種類と対 象疾患をまとめる。(4時間)	認知 (想起)
9	6/16 (月) 3 限	岸川	ユニット 3 消毒と滅菌 [講義]	1) 滅菌法と消毒法を 理解する。	(1) 滅菌と消毒の意義、原理と方法を 説明できる。	教科書p55-62, 160-161を精 読。滅菌法の原理と方法につ いて特徴をまとめる。 消毒薬の有効な微生物の範 囲および適用可能な対象物 についてまとめる。(4時間)	認知 (想起)
10	6/23 (月) 3 限	岸川	ユニット 4 化学療法 [講義]	1) 化学療法の特性を 理解する。	(1) 化学療法の目的と原理を説明でき る。 (2) 化学療法薬の作用機序と副作用を 説明できる。 (3) 薬剤耐性のメカニズムを説明でき る。	教科書p63-73を精読。細菌、 真菌、ウイルスに対する化学 療法薬について、作用機序ご とに分類してまとめる。 (4時間)	認知 (想起)
11	6/30 (月) 3 限	岸川	ユニット 7 口腔環境と常在 微生物 [講義]	1) 口腔環境における 常在細菌叢を理解 する。 2) デンタルプラーク 形成のメカニズム を理解する。	(1) 口腔環境の特性と常在細菌叢の成 り立ち、変遷を説明できる。 (2) デンタルプラークの形成機序とプ ラーク形成細菌を説明できる。 (3) バイオフィーム感染症について説 明できる。	教科書p115-138を精読。デン タルプラークの形成に関わ る代表的な細菌を列挙し、特 徴をまとめる。(4時間)	認知 (想起)
12	7/4 (金) 4 限	岸川	ユニット 8 口腔感染症(1) : う蝕 [講義]	1) う蝕病原細菌の種 類と病原性を理解 する。	(1) う蝕の主な原因菌と病原性につい て説明できる。	教科書p139-143を精読。ミュ ータンスレンサ球菌のう蝕 原性を列挙する。(4時間)	認知 (想起)
13	7/7 (月) 3 限	岸川	ユニット 8 口腔感染症(2) : 歯周病 [講義]	1) 歯周病原細菌の種 類と病原性を理解 する。	(1) 歯周病の主な原因菌と病原性につ いて説明できる。 (2) 歯周病における宿主免疫応答のメ カニズムを説明できる。	教科書p144-152を精読。代表 的な歯周病原細菌の特徴を まとめる。(4時間)	認知 (想起)

回	授業日	授業 担当者	ユニット番号 ユニット項目 [授業方法]	学修目標（GIO）	行動目標（SBOs）	予習・復習項目 と必要時間	教育 目標 領域
14	7/11 (金) 3 限	岸川	ユニット 8 口腔感染症(3) ：う蝕と歯周病 以外の口腔感 染症 [講義]	1) う蝕と歯周病以外 の口腔感染症を理 解する。	(1) 口腔内とその周辺部に症状が現れ る感染症の病態と原因微生物の病原 性について説明できる。	教科書p153-159を精読。口腔 とその周辺部に出現する感 染症について、原因微生物と 症状の特徴をまとめる。 (4時間)	認知 (想起)
15	7/14 (月) 3 限	永尾	ユニット 9 微生物各論 ：主な感染症と 病原体 [講義]	1) 主な感染症と病原 体について理解す る。	(1) 微生物感染による全身での感染症 の病態、感染経路と原因微生物の病原 性について説明できる。	教科書p74-114を精読。 感染型食中毒、毒素型食中毒 の原因菌、原因物質、潜伏期 間、症状の特徴をまとめる。 体液・血液を介して感染する 病原ウイルスの感染経路お よび感染予防法をまとめる。 (4時間)	認知 (想起)

歯科薬理学

開講時期： 1 年次後期
 授業時間数： 15 コマ;30 時間 2 単位
 受験資格要件： 2/3 (10 コマ) 以上の出席
 科目番号： DH011123
 評価責任者： 古野 みはる
 担当教員： 八田 光世、長岡 良礼、
 武石 幸容

1. 一般目標

将来、歯科衛生士として活躍するために必要な基本的な医療の知識を体系的に理解するために、薬理学的な思考法（薬物と生体との相互作用により薬理作用が発現するとの考え方）、さらに医科および歯科疾患の治療に繁用される薬物に関する知識を修得する。

2. 教育方法

教科書を中心に、配布プリント、板書、パワーポイントを用いて講義する。

3. 教育教材

教科書、配布プリント、PC+プロジェクター

4. 学修方法

〔受講態度〕 授業は定刻に始まるので、遅刻は欠席となる。授業中は説明をよく聞き、ノートを取る。

〔予習方法〕 授業前に教科書の該当箇所を読む。

〔復習方法〕 授業後に教科書・参考書、配布プリント、板書ノートなどを用いて講義内容を復習する。

本授業を理解する上で、解剖学、口腔生化学、口腔生理学、口腔微生物学、口腔病理学等の専門基礎科目の知識が必要であり、本授業は口腔外科学、歯科麻酔学、高齢者・障害者歯科学等の臨床歯科医学の理解に不可欠である。

〔単位修得に必要な授業外学修時間：60 時間〕

5. 評価方法

〔総括的評価〕 定期試験（100％）

〔フィードバック〕 試験結果のフィードバックは採点后、試験結果（成績）を通知する。

6. 教科書・テキスト

1. 「歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進 3 薬理学」 第2版 医歯薬出版 2024年

7. 参考書

1. 「歯科衛生士テキスト 最新薬理学-疾病の成り立ち及び回復過程の促進-」 第1版 学建書院 2024年

2. 「ポイントがよくわかるシンプル歯科薬理学」 第3版 永末書店 2023年

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号 項目名	学修目標 (GIO)	行動目標 (SB0s)	予習・復習項目と 必要時間	教育目標 領域
1	9/19 (金) 1限	八田	ユニット 1 薬物の作用 〔講義〕	1) 薬理学の定義と薬物の作用を知る。	(1) 薬物療法（原因療法、対症療法）の分類を説明できる。 (2) 薬理作用の基本形式・分類を説明できる。 (3) 薬物の用量と治療係数を説明できる。 (4) 薬理作用の機序について説明できる。	教科書 薬物療法の種類、薬理作用の基本形式、薬理作用の分類、用量-反応曲線、治療係数 P1-12 (4時間)	認知 (想起)
2	9/26 (金) 1限						
3	10/3 (金) 1限	八田	ユニット 2 薬物の適用方法と薬物動態 〔講義〕	1) 薬物の適用方法を知る。 2) 薬物動態を理解する。	(1) 薬物の生体膜通過様式を説明できる。 (2) 薬物の適用方法の種類とその特徴を説明できる。 (3) 薬物動態（吸収、分布、代謝、排泄）を説明できる。 (4) 薬物動態パラメーター（生物学的半減期、クリアランス、バイオアベイラビリティ、クリアランス）を説明できる。	教科書 薬物の適用方法、薬物動態、吸収、分布、代謝、排泄、生物学的半減期、バイオアベイラビリティ、クリアランス P13-29 (4時間)	認知 (解釈)
4	10/10 (金) 1限						

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号 項目名	学修目標(GIO)	行動目標(SBOs)	予習・復習項目と 必要時間	教育目標 領域
5	10/17 (金) 1限	八田	ユニット 3 薬物の併用、薬物相互作用 [講義]	1) 薬物の併用による薬物相互作用を理解する。	(1) 協力作用・拮抗作用を説明できる。 (2) 薬物相互作用の機序とその分類を説明できる。	教科書 協力作用、相加作用、相乗作用、拮抗作用、競合的拮抗、非競合的拮抗、薬物動態学的相互作用 P33-38 (4時間)	認知 (解釈)
6	10/24 (金) 1限	長岡	ユニット 4 末梢神経系に作用する薬物 [講義]	1) 自律神経系に作用する薬物を知る。 2) 筋弛緩薬を知る。	(1) 末梢神経系のはたらきと神経伝達物質を説明できる。 (2) 自律神経系作用薬を説明できる。 (3) 筋弛緩薬を説明できる。	教科書 神経伝達物質、自律神経系作用薬、筋弛緩薬 P79-87 (4時間)	認知 (想起)
7	10/31 (金) 1限	長岡	ユニット 5 麻酔に用いる薬物 [講義]	1) 局所麻酔薬を知る。 2) 局所麻酔薬と血管収縮薬の併用を理解する。 3) 全身麻酔薬を知る。	(1) 局所麻酔薬の作用機序を説明できる。 (2) 血管収縮薬の添加とその効果を説明できる。 (3) 局所麻酔薬の副作用を説明できる。 (4) 全身麻酔薬(吸入麻酔薬、静脈麻酔薬)を挙げるができる。	教科書 局所麻酔薬、ナトリウムチャンネル、血管収縮薬の添加、全身麻酔薬 P166-174 (4時間)	認知 (想起)
8	11/7 (金) 1限	長岡	ユニット 6 病原微生物に対して使用する薬物 [講義]	1) 抗微生物薬を知る。 2) 消毒薬を知る。	(1) 抗菌薬の分類とその作用機序、副作用などを説明できる。 (2) 抗真菌薬・抗ウイルス薬を挙げるができる。 (3) 消毒薬の分類とその作用機序を説明できる。	教科書 選択毒性、抗菌薬、抗真菌薬、抗ウイルス薬、消毒薬、フェノール係数 P175-196 (4時間)	認知 (想起)
9	11/14 (金) 1限						
10	11/21 (金) 1限	長岡	ユニット 7 抗炎症薬および鎮痛薬 [講義]	1) 抗炎症薬を知る。 2) 鎮痛薬を知る。	(1) 炎症とケミカルメディエーターについて説明できる。 (2) ステロイド性抗炎症薬・非ステロイド性抗炎症薬を説明できる。 (3) 痛みの発生と伝達経路を説明できる。 (4) オピオイド系鎮痛薬、神経障害性疼痛治療薬を説明できる。 (5) 解熱性鎮痛薬を説明できる。	教科書 ステロイド性抗炎症薬、非ステロイド性抗炎症薬、オピオイド系鎮痛薬、神経障害性疼痛治療薬、解熱性鎮痛薬 P149-164 (4時間)	認知 (想起)
11	11/28 (金) 1限	武石	ユニット 8 疾患治療に用いる薬物 [講義]	1) 疾患治療に用いる薬物を知る。	(1) 催眠薬・抗不安薬、抗てんかん薬、抗うつ薬、抗精神病薬、抗パーキンソン病薬、認知症治療薬を挙げるができる。 (2) 循環器系、呼吸器系および消化器系疾患の治療に使用する薬物を挙げるができる。 (3) 止血薬・抗血栓薬を説明できる。 (4) 免疫抑制薬や抗悪性腫瘍薬を挙げるができる。 (5) 代謝性疾患の治療に使用する薬物を挙げるができる。	教科書 催眠薬・抗不安薬、抗てんかん薬、抗うつ薬、抗精神病薬、抗パーキンソン病薬、認知症治療薬、呼吸器系・消化器系・循環器系作用薬、止血薬・抗血栓薬、免疫抑制薬、抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、骨粗鬆症治療薬 P88-148 (4時間)	認知 (想起)
12	12/5 (金) 1限						
13	12/12 (金) 1限	八田	ユニット 9 薬物の連用の影響、薬物の副作用・有害作用 [講義]	1) 薬物の連用の影響を知る。 2) 薬物の副作用、有害作用を知る。	(1) 薬物の連用による蓄積、耐性、依存について説明できる。 (2) 薬物の一般的副作用、有害作用を説明できる。 (3) 口唇・顎顔面領域に現れる副作用、有害作用を説明できる。	教科書 蓄積、耐性、依存 薬物アレルギー、一般的副作用、歯肉増殖症、口腔乾燥症、歯の着色 P32-33 P39-46 (4時間)	認知 (解釈)
14	12/19 (金) 1限	八田	ユニット 10 薬物と法律・薬物と医薬品 [講義]	1) 薬物・医薬品の法規制を知る。 2) 薬物・医薬品の取扱いを知る。 3) 医薬品の開発プロセスを知る。	(1) 医薬品医療機器等法、日本薬局方について説明できる。 (2) 毒薬・劇薬の表示と保管を説明できる。 (3) 麻薬、向精神薬の表示と保管を説明できる。 (4) 臨床試験(治験)について説明できる。	教科書 医薬品医療機器等法、日本薬局方、毒薬、劇薬、麻薬、向精神薬、ブラセボ効果、二重盲検法 P62-69 (4時間)	認知 (想起)

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号 項目名	学修目標(GIO)	行動目標(SBOs)	予習・復習項目と 必要時間	教育目標 領域
15	1/9 (金) 1限	八田	ユニット 11 医薬品を適用する際の注意 [講義]	1) ライフステージに応じた薬物治療の注意点を 知る。 2) 服薬指導について知る。 3) 処方箋、医療用医薬 品、OTC医薬品について知る。 4) 医薬品の剤形、保存方法を知る。	(1) 小児、高齢者、妊婦に対する薬 物治療の注意点を説明できる。 (2) 服薬指導について説明できる。 (3) 処方箋に記載する事項を挙げる ことができる。 (4) 医療用医薬品、OTC医薬品、ジェ ネリック医薬品について説明で きる。 (5) 医薬品の剤形、保存方法を説明で きる。	教科書 小児薬用量、薬物 の催奇形性、加齢 による薬物動態の 変化、ポリファーマシー、コンプラ イアンス、アドヒ アランス、処方 箋、医療用医薬 品、OTC医薬品、ジ ェネリック医薬 品、剤形、日本薬 局方、密閉容器、 気密容器、密封容 器 P47-61 (4時間)	認知 (想起)

口腔衛生学 I

開講時期： 1 年次前期
 授業時間数： 15 コマ；30 時間 2 単位
 受験資格要件：2/3（10 コマ）以上の出席
 科目番号： DH011131
 評価責任者： 古野みはる
 授業担当者： 松尾忠行

1. 一般目標

将来、歯科衛生士として歯・口腔の健康に関わる社会の仕組みを理解し、歯科疾患の予防能力を高めるための論理的な分析および考察ができる能力を修得する。

2. 教育方法

講義および一部グループ討議を行う。

3. 教育教材

教科書、プリント、DVD、PC + プロジェクター

4. 学修方法

授業には、指定教科書を必ず持参すること。下記予習項目に記載された教科書の該当箇所を読むなど、事前学修（予習）を怠らないこと。授業中はノートを取る。授業後は、教科書で講義内容の確認をその日のうちに行うこと。本授業を理解する上で微生物学の知識が必要である。また、本授業は歯科予防処置論と関連があり、理解に不可欠である。
 [単位修得に必要な授業外学修時間：60 時間]

5. 評価方法

〔形成的評価〕確認テスト

確認テストは、各ユニットで 3 ～ 5 回授業時間内にミニテストとして行う予定

〔フィードバック〕次の回の講義時に答案を返却し、模範解答を示す。

〔総括的評価〕定期試験：記述試験（80%）確認テスト：（20%）

〔フィードバック〕試験結果（成績）は、試験終了後に通知する。尚、詳細は講義の初日に説明する。

6. 教科書・テキスト

1. 「口腔衛生学-口腔保健統計を含む-第 4 版」 荒川浩久等、学建書院、2025 年

7. 参考書

1. 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 1 保健生態学 眞木吉信等、医歯薬出版、2024 年

2. 「新フッ化物ではじめる虫歯予防」 筒井昭仁等、医歯薬出版、2019 年

3. 「歯科衛生士国試対策集 2025 対応」 歯科衛生士国試対策研究会、クインテッセンス出版、2024 年

回	授業日	授業担当者	ユニット番号 ユニット項目 [授業方法]	学修目標（GIO）	行動目標（SBOs）	予習・復習項目 と必要時間	教育 目標 領域
1	4/9 (水) 4 限	松尾	ユニット 1-1 口腔と健康 1 [講義]	1) 口腔と健康の関連性を理解する。	(1) 口腔の健康の定義を述べることができる。 (2) 口腔と全身の健康の関係について述べることができる。	口腔の健康の定義、口腔と全身の健康の関係(教科書の P2-3)を記載すること (4 時間)	認知 (解釈)
2	4/16 (水) 4 限	松尾	ユニット 1-2 口腔と健康 2 [講義]	1) 歯科疾患の予防と歯・口腔の機能について理解する。	(1) 口腔の健康を保持・増進する手段について説明することができる。 (2) 歯・口腔の機能について説明することができる。	口腔の健康を保持・増進する手段、歯・口腔の機能(教科書の P4-8)を記載すること (4 時間)	認知 (解釈)

回	授業日	授業 担当者	ユニット番号 ユニット項目 [授業方法]	学修目標 (GIO)	行動目標 (SBOs)	予習・復習項目 と必要時間	教育 目標 領域
3	4/23 (水) 4 限	松尾	ユニット 2 歯・口腔の発育 と変化 [講義] [グループ討 議] 確認テスト 1	1) 歯の形成と 萌出、交換時 期、歯の喪失、 歯の形成期の栄 養、歯・口腔 の 形成異常を理解 する。	(1) 歯・口腔の形成および発 育・発達について説明すること ができる。 (2) 歯・口腔の形成異常につ いて説明することができる。	歯・口腔の形成お よび発育・発達、 歯・口腔の形成異 常(教科書の P8- 12)を記載するこ と (4 時間)	認知 (解釈)
4	4/30 (水) 4 限	松尾	ユニット 3 口腔環境 [講義]	1) 歯と口腔環 境について理解 する。	(1) 唾液腺の種類および唾液 の働きについて説明することが できる。	唾液腺の種類およ び唾液の働き(教 科書の P13-17)を 記載すること (4 時間)	認知 (解釈)
5	5/7 (水) 4 限	松尾	ユニット 4 歯・口腔の不潔 [講義] 確認テスト 2	1) 歯・口腔の 付着物・沈着物 を理解する。	(1) プラーク(歯垢)、食物 残渣、歯石、着色性沈着物舌苔 について説明することができ る。	プラーク、食物残 渣、歯石、着色性 沈着物、舌苔(教 科書 P17-25)を記 載すること (4 時間)	認知 (解釈)
6	5/14 (水) 4 限	松尾	ユニット 5 口腔清掃 [講義] [グループ討 議]	1) 歯磨剤と洗 口剤について理 解する。	(1) 歯磨剤と洗口剤の種類を 列挙することができる。 (2) 歯磨剤と洗口剤の組成に ついて説明することができる。	歯磨剤と洗口剤の 種類・組成(教科 書 P34-38)を記 載すること (4 時間)	認知 (解釈)
7	5/21 (水) 4 限	松尾	ユニット 6-1 う蝕の予防 1 [講義] 確認テスト 3	1) う蝕の発生 要因と機序を理 解する。	(1) う蝕の発生要因(宿主、 口腔細菌叢、食餌性基質につ いて説明することができる。 (2) う蝕発生のメカニズムに ついて説明することができる。	う蝕の発生要因・ う蝕発生のメカニ ズム(教科書 P43- 46)を記載するこ と (4 時間)	認知 (解釈)
8	5/28 (水) 4 限	松尾	ユニット 6-2 う蝕の予防 2 [講義]	1) う蝕の予防 方法を理解す る。	(1) う蝕の発生要因に対する 予防法を列挙することができ る。 (2) う蝕発生の第一次予防、 第二次予防および第三次予防に ついて説明することができる。	う蝕の発生要因に 対する予防法(教 科書 P52-54)を記 載すること (4 時間)	認知 (解釈)
9	6/4 (水) 4 限	松尾	ユニット 7-1 フッ化物による う蝕予防 1 [講 義] 確認テスト 4	1) 人間生態系 におけるフッ化 物の分布および フッ化物の摂取 と代謝について 理解する。	(1) フッ化物の分布について 説明することができる。 (2) 生体におけるフッ化物の 代謝について説明することがで きる。	フッ化物の分布、 フッ化物の代謝 (教科書 P55-59) を記載すること (4 時間)	認知 (解釈)
10	6/11 (水) 4 限	松尾	ユニット 7-2 フッ化物による う蝕予防 2 [講 義] 確認テスト 5	1) フッ化物の 毒性について理 解する。	(1) フッ化物の毒性を認識 し、正しい対処法を説明するこ とができる。 (2) フッ化物の急性中毒に関 する計算ができる。	フッ化物の毒性、 フッ化物の急性中 毒に関する計算 (教科書 P55-62) を記載すること (4 時間)	認知 (解釈)
11	6/18 (水) 4 限	松尾	ユニット 7-3 フッ化物による う蝕予防 3 [講 義] [グループ討 議]	1) フッ化物に よるう蝕予 防 機序およびフッ 化物によるう蝕 予防方法(全身 応用法)を理解 する。	(1) フッ化物のう蝕予防機序 を説明することができる。 (2) フッ化物の全身応用法に ついて説明することができる。	フッ化物のう蝕予 防機序、フッ化物 の全身応用法(教 科書 P62-66)を記 載すること (4 時間)	認知 (解釈)

回	授業日	授業 担当者	ユニット番号 ユニット項目 [授業方法]	学修目標 (GIO)	行動目標 (SB0s)	予習・復習項目 と必要時間	教育 目標 領域
12	6/25 (水) 4 限	松尾	ユニット 7-4 フッ化物による う蝕予防 4 [講義]	1) フッ化物によるう蝕予防方法(局所応用法) およびフッ化物のう蝕予防効果を理解する。	(1) フッ化物の局所応用法について説明することができる。 (2) フッ化物のう蝕予防効果について説明することができる。	フッ化物の局所応用法、フッ化物のう蝕予防効果(教科書 P67-72) を記載すること (4 時間)	認知 (解釈)
13	7/2 (水) 4 限	松尾	ユニット 8-1 歯周病の予防 1 [講義]	1) 歯周組織の概要、歯周病の有病状況、歯周病の分類について理解する。	(1) 健康な歯周組織の構造を概説することができる。 (2) 歯周病の分類について概説することができる。	健康な歯周組織の構造、歯周病の分類(教科書 P73-78) を記載すること (4 時間)	認知 (解釈)
14	7/9 (水) 4 限	松尾	ユニット 8-2 歯周病の予防 2 [講義]	1) 歯周病の発生要因、進行と症状、歯周病と全身との関連を理解する。	(1) 歯周病の原因を概説することができる。 (2) 歯周病の炎症の広がりと症状を概説することができる。 (3) 歯周病の全身に与える影響について概説することができる。	歯周病の原因、歯周病の全身に与える影響(教科書 P80-83) を記載すること (4 時間)	認知 (解釈)
15	7/16 (水) 4 限	松尾	ユニット 8-3 歯周病の予防 3 [講義] [グループ討議]	1) 歯周病の予防方法を理解する。	(1) 歯周病の予防法(第一次予防、第二次予防、第三次予防)を列挙できる。 (2) 歯周病における定期的予防処置の必要性(プロフェッショナルケア)を説明することができる。	歯周病の予防法(教科書 P84-86) を記載すること (4 時間)	認知 (解釈)

口腔衛生学Ⅱ

開講時期： 1 年次後期
 授業時間数： 15 コマ；30 時間 2 単位
 受験資格要件： 2/3 (10 コマ) 以上の出席
 科目番号： DH011132
 評価責任者： 古野みはる
 授業担当者： 島津篤、矢田部尚子

1. 一般目標

将来、歯科衛生士として地域社会における保健対策の基本を理解し、多職種との協働・連携して地域集団に対する疾病の予防能力を高めることのできる知識を修得する。

2. 教育方法

講義および一部グループ討議を行う。

3. 教育教材

教科書、プリント、DVD、PC + プロジェクター

4. 学修方法

授業には、指定教科書を必ず持参すること。下記予習項目に記載された教科書の該当箇所を読むなど、事前学修（予習）を怠らないこと。授業中はノートを取る。授業後は、教科書で講義内容の確認をその日のうちに行うこと。本授業を理解する上で口腔衛生学Ⅰの知識が必要である。また、本授業は歯科予防処置論と関連があり、理解に不可欠である。
 [単位修得に必要な授業外学修時間：60 時間]

5. 評価方法

[形成的評価] 確認テスト

確認テストは、各ユニットで 3 ～ 5 回授業時間内にミニテストとして行う予定

[フィードバック] 次の回の講義時に答案を返却し、模範解答を示す。

[総括的評価] 定期試験：記述試験（80%）確認テスト：（20%）

[フィードバック] 試験結果（成績）は、試験終了後に通知する。尚、詳細は講義の初日に説明する。

6. 教科書・テキスト

1. 「口腔衛生学-口腔保健統計を含む-第 4 版」 荒川浩久等、学建書院、2025 年

7. 参考書

1. 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 1 保健生態学 眞木吉信等、医歯薬出版、2024 年

2. 「新フッ化物ではじめる虫歯予防」 筒井昭仁等、医歯薬出版、2019

3. 「歯科衛生士国試対策集 2026 対応」 歯科衛生士国試対策研究会、クインテッセンス出版、2025

回	授業日	授業担当者	ユニット番号 ユニット項目 [授業方法]	学修目標（GIO）	行動目標（SBOs）	予習・復習項目 と必要時間	教育 目標 領域
1	9/22 (月) 2 限	島津	ユニット 1-1 歯科疾患の予防 [講義]	1) う蝕の予防について理解する。 2) 歯周病の予防について理解する。	(1) う蝕の有病状態を把握し、予防方法について説明できる。 (2) 歯周疾患の有病状態を把握し、予防について説明できる。	教科書の P1-38 を精読すること (3 時間)	認知 (解釈)
2	9/29 (月) 2 限	矢田部	ユニット 1-2 歯科疾患の予防 [講義]	1) う蝕の予防とリスク検査について理解する。	(1) う蝕の要因とリスク検査について説明できる。	教科書の P43-51 を精読すること (3 時間)	認知 (解釈)
3	10/6 (月) 2 限	島津	ユニット 2-1 フッ化物応用 [講義]	1) フッ化物応用について理解する。	(1) フッ化物応用について説明できる。	教科書の P52-61 を精読すること (3 時間)	認知 (解釈)

回	授業日	授業 担当者	ユニット番号 ユニット項目 〔授業方法〕	学修目標（GIO）	行動目標（SB0s）	予習・復習項目 と必要時間	教育 目標 領域
4	10/20 （月） 2 限	島津	ユニット 2-2 フッ化物応用 〔講義〕	1）フッ化物のう蝕 予防効果を理解す る。	（1）フッ化物のう蝕予防機 序について説明できる。	教科書の P62-72 を精読すること （3 時間）	認知 （解釈）
5	10/27 （月） 1 限	島津	ユニット 3 歯周疾患・口臭 〔講義〕	1）歯周疾患・口臭 について理解する。	（1）歯周疾患・口臭につい て説明できる。	教科書の P73-92 を精読すること （3 時間）	認知 （解釈）
6	11/17 （月） 1 限	矢田部	ユニット 4-1 歯周疾患・禁煙 指導 〔講義〕	1）歯周疾患と喫煙 の関連について理解 する。	1）歯周疾患と喫煙の関連につ いて説明できる。	教科書の P99-103 を精読すること （3 時間）	認知 （解釈）
7	11/17 （月） 2 限	島津	ユニット 5-1 地域歯科保健活動 〔講義〕	1）地域保健につい て理解する。	（1）地域保健について説明 できる。	教科書の P151-168 精読すること（3 時間）	認知 （解釈）
8	12/1 （月） 2 限	矢田部	ユニット 4-2 歯科疾患の疫学 〔講義〕	1）歯科疾患の指標 について理解する。	（1）歯科疾患に関する指標 について説明できる。	教科書の P104-132 を精読すること （3 時間）	認知 （解釈）
9	12/2 （火） 3 限	島津	ユニット 5-2 地域歯科保健活動 〔講義〕	1）母子保健につい て理解する。	（1）母子保健について説明 できる。	教科書の P169-178 精読すること（3 時間）	認知 （解釈）
10	12/9 （火） 3 限	島津	ユニット 5-3 地域歯科保健活動 〔講義〕	1）学校保健につい て理解する。	（1）学校保健について説明 できる。	教科書の P179-184 精読すること（3 時間）	認知 （解釈）
11	12/22 （月） 2 限	島津	ユニット 5-4 地域歯科保健活動 〔講義〕	1）学校保健につい て理解する。	（1）学校保健における健康 診査について説明できる。	教科書の P185-188 精読すること（3 時間）	認知 （解釈）
12	1/13 （火） 3 限	島津	ユニット 5-5 地域歯科保健活動 〔講義〕	1）成人保健につい て理解する。	（1）成人保健について説明 できる。	教科書の P200-203 精読すること（3 時間）	認知 （解釈）
13	1/15 （木） 3 限	島津	ユニット 5-6 地域歯科保健活動 〔講義〕	1）産業保健につい て理解する。	（1）産業保健について説明 できる。	教科書の P189-199 精読すること（3 時間）	認知 （解釈）
14	1/19 （月） 1 限	島津	ユニット 5-7 地域歯科保健活動 〔講義〕	1）高齢者保健につ いて理解する。	（1）高齢者保健について説 明できる。	教科書の P204-207 精読すること（3 時間）	認知 （解釈）
15	1/20 （火） 1 限	島津	ユニット 5-8 地域歯科保健活動 〔講義〕	1）国際保健につい て理解する。	（1）国際保健について説明 できる。	教科書の P211-216 精読すること（3 時間）	認知 （解釈）

歯科衛生士概論

開講時期： 1 年次前期
 授業時間数： 15 コマ;30 時間 1 単位
 受験資格要件： 2/3 (10 コマ) 以上の出席
 科目番号： DH011201
 評価責任者： 黒木まどか
 授業担当者： 後藤加寿子、石井 綾子
 南 レイラ、川尻 望
 常清 美佑、高木未沙稀
 井上 庸子、秋竹 純
 黒木まどか、森 沙耶香

1. 一般目標

将来、科学的な根拠を持って歯科衛生活動を展開し、人々の健康づくりを多職種と協働・連携を通して支援する歯科衛生士となるために、保健・医療・福祉に関わることの意義を見つけ、その基本的態度について理解する。また、医療専門職としての自覚を持ち、必要な知識・技術を修得する態度および論理的思考の基礎を修得する。なお、本科目では初年次教育（レポートの書き方、ノートの取り方など）を含めた講義を行い、速やかな学修体制への移行も目指す。

2. 教育方法

講義・演習・グループワークを行う。

大学病院、歯科医院、高齢者施設などにおいて、歯科衛生士として患者の口腔保健管理に携わった実務経験を生かした実践的教育を行う。

3. 教育教材

教科書、プリント、配布資料、PC+プロジェクター、DVD

4. 学修方法

授業は定刻に始まるので、遅刻は欠席になる。授業には、指定教科書と配布プリント等を必ず持参すること。また、予習していることを前提に開始する。レポート課題は締切期日を守る。本授業は臨床歯科医学、歯科予防処置、歯科診療補助、歯科保健指導の理解に不可欠である。[単位修得に必要な授業外学修時間：15 時間]

5. 評価方法

[形成的評価] ミニテスト、レポート

[フィードバック] 不十分な部分についてコメントを付して返却し、場合によっては再提出を求める。

[総括的評価] 記述試験(60%：ユニット1・2・4)、課題レポート(30%：ユニット3・5・6)、授業参加状況(発問・質疑・グループワークでの発言や協力等授業への貢献度)(10%)

[フィードバック] 以上を総合的に評価し、定期試験終了後に通知する。

6. 教科書・テキスト

1. 「歯科衛生学シリーズ 歯科衛生学総論」医歯薬出版 2023 年

7. 参考書

1. 「歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論」医歯薬出版 2024 年

2. 「歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論」医歯薬出版 2025 年

3. 「歯科衛生士のための歯科臨床概論」第2版 松井恭平 森崎市治郎 白鳥たかみ 船奥律子／編 医歯薬出版 2024 年

回	授業日	授業担当者	ユニット番号 ユニット項目 [授業方法]	学修目標 (GIO)	行動目標 (SB0s)	予習・復習項目 と必要時間	教育目標 領域
1	4/8 (火) 3 限	黒木	ユニット 1 総論 1: 歯科衛生学とは [講義・グループワーク]	1) 歯科衛生士の活動を理解する。 2) 歯科衛生活動に必要な学問を体系的に理解する。	(1) 歯科衛生学の定義を述べることができる。 (2) 歯科衛生と健康のかかわりを説明できる。 (3) 歯科衛生活動の対象を列挙できる。 (4) 歯科衛生活動の領域を説明できる。 (5) ノートの取り方について説明できる。	教科書 1 「歯科衛生学とは P1-6」を精読する。 (1 時間)	認知 (想起) 情意 (受入)

回	授業日	授業 担当者	ユニット番号 ユニット項目 [授業方法]	学修目標 (GIO)	行動目標 (SB0s)	予習・復習項目 と必要時間	教育 目標 領域
2	4/14 (月) 4 限	黒木	ユニット 1 総論 2: 歯科衛生の 歴史 [講義]	1) 歯科衛生士の 歴史的背景を理解 する。 2) 歯科衛生士に 求められる社会的 役割を理解する。	(1) 日本の歯科衛生士の誕生につ いて概要を説明できる。 (2) 歯科衛生士の誕生について概要 できる。 (3) 歯科衛生士養成教育の変遷を概 説できる。 (4) レポート, 論文, 作文, 感想文の 違いを理解する。 (5) 歯科衛生士の歴史的背景を踏ま え、社会的役割をレポートにま とめることができる。	教科書 1 の「歯科衛生士 の歴史 P8-19」を精読す る。受講後、「歯科衛生士 を目指す理由」をまとめ る。 (1.5 時間)	認知 (想起) 情意 (受入)
3	4/15 (火) 3 限	南	ユニット 2 歯科衛生士法と歯 科衛生業務 [講義]	1) 歯科衛生士法に 基づく業務範囲と 業務内容を理解す る。	(1) 歯科衛生士法に基づく歯科衛生 業務について概説できる。 (2) 歯科衛生士の業務独占、名称独 占について説明できる。 (3) 歯科衛生士の専門性について 概説できる。	教科書 1 の「歯科衛生士 と歯科衛生士法 P42-52」 を精読する。 受講後、「歯科衛生業務と 業務独占・名称独占」につ いてまとめる。 (1 時間)	認知 (想起) 情意 (受入)
4	4/22 (火) 3 限	常清 高木 川尻	ユニット 3 医療接遇 [講義]	1) 医療従事者とし ての心構えや倫理 観、身だしなみに ついて理解する。	(1) 医療従事者として相応の身だし なみについて理解できる。 (2) 医療従事者としての心構えや 倫理観を理解できる。	参考書 2 の「医療従事者 としての感染予防に対す る対応 P22-23」を精読す る。 (1 時間)	認知 (想起) 情意 (受入)
5	5/1 (木) 1 限	高木 常清	ユニット 3 医療接遇 [講義・グループ ワーク]	1) 医療従事者とし ての心構えや倫理 観、身だしなみに ついて理解する。	(1) 医療従事者として相応の身だし なみについて説明すること ができる。 (2) 自分の考える医療従事者とし ての心構えや倫理観を述 べることができる。 (3) 医療従事者として相 応の身だしなみについ てグループワークで討 議することができる。	「医療従事者」「接遇」 の意味を調べる。 (2 時間)	認知 (解釈) 情意 (反応) 精神運動 (模倣)
6	5/1 (木) 2 限	石井 南 川尻 森					
7	5/20 (火) 3 限	南	ユニット 4 歯科衛生活動 1 : 歯科衛生活動のた めの理論 [講義]	1) 科学的思考を 展開するための枠 組みを理解する。	(1) 予防の概念を理解できる。 (2) ICF、EBM、批判的思考を説明 できる。 (3) 保健行動の理論を説明できる (4) ヒューマンニーズ理論を説明 できる。	教科書 1 の「歯科衛生 士の考え方 P20-31」を精 読する。 受講後、4 つの分析モ デルをまとめる。 (1 時間)	認知 (想起) 情意 (受入)
8	5/27 (火) 3 限	石井	ユニット 4 歯科衛生活動 2 : 歯科衛生士と医療 倫理 [講義]	1) 倫理の定義を 理解する。 2) 歯科衛生士と 倫理の関係を理解 する。	(1) 倫理の必要性について説明でき る。 (2) 医の倫理について概説できる。 (3) インフォームド・コンセント、 インフォームド・チョイス、セ カンド・オピニオンにつ いて説明できる。	教科書 1 の「歯科衛生 士と医療倫理 P66-76」 を精読する。 (1 時間)	認知 (想起) 情意 (受入)
9	5/29 (木) 1 限	1 年担任 井上 川尻 秋竹 後藤 森 専攻科	ユニット 6 病院見学 [講義・演習・グ ループワーク]	1) 大学病院にお ける歯科衛生士業 務を理解する。 2) 自分の目指す 歯科衛生士像を示 す。	(1) 医療従事者として相 応の身だしなみを示す ことができる。 (2) 自分の目指す歯科 衛生士像を述べるこ とができる。 【授業評価アンケート実施】	「医療安全」の意味を 調べ、レポートにまと める。 (1 時間)	認知 (解釈) 情意 (受入)
10	5/29 (木) 2 限						
11	6/2 (月) 4 限	黒木	ユニット 4 歯科衛生活動 5 : 歯科衛生過程 [講義]	1) 歯科衛生士業 務における歯科衛 生過程の位置付け を理解する。	(1) 歯科衛生過程の 6 つのステップ を説明できる (2) POS、SOAP を概説できる	教科書 1 の「歯科衛生 過程 P32-41」参考書 1 の「歯科衛生過程の進 め方 P100-119」を精読 する。 (2 時間)	認知 (想起) 情意 (受入)
12	6/5 (木) 1 限	石井	ユニット 4 歯科衛生活動 5 : 歯科衛生士の活動 と組織 1 [講義]	1) 歯科衛生活動 の現状を理解する。 2) 歯科衛生士の活 動と組織 1	(1) 歯科衛生士の活動の領域と就業 の推移を説明できる (2) 歯科衛生活動の種 類と業務の概略を説 明できる	教科書 1 の「歯科衛生 活動の場 P84-88」を 精読する。 (1 時間)	認知 (想起) 情意 (受入)
13	6/4 (水) 1-2 限目 ・ 6/5 (木) 3-4 限目 3-4 限	黒木	ユニット 5 2 年次合同授業 : 歯科衛生活動の実 際 [ピアサポート実 習]	1) 歯科予防処置 法における歯科衛 生士業務を理解す る。	(1) 歯周病予防処置につ いて説明できる (2) 口腔内の観察・診 査、スクリーニングで 用いる器具の種類、操 作法、注意事項を述べ ることができる	教科書 1 の「手用スク レーパー」p186-201、 「ミラーテクニック」 p220-222、「口腔内 の観察」p133-145」 を精読する。(2 時間)	認知 (解釈) 情意 (反応)
14							

回	授業日	授業 担当者	ユニット番号 ユニット項目 [授業方法]	学修目標 (G10)	行動目標 (SBOs)	予習・復習項目 と必要時間	教育 目標 領域
15	6/12 (水) 2 限	石井	ユニット 4 歯科衛生活動 4 : 歯科衛生士の活動 と組織 2 [講義]	1) 口腔介護の視 点から歯科衛生活 動の現状を理解す る。	(1) チーム医療を説明できる (2) 医療保険制度の仕組みを概説で きる (3) 介護保険制度の仕組みを概説で きる	教科書 1 の「歯科衛生士 の活動と組織 P77-80」「歯 科衛生士と組織 P89-92 を精読する。 (1 時間)	認知 (想起) 情意 (受入)

歯科臨床概論

開講時期： 1 年次前期
 授業時間数： 15 コマ；30 時間 1 単位
 受験資格要件： 2/3 (10 コマ) 以上の出席
 科目番号： DH011211
 評価責任者： 井上庸子
 授業担当者： 阿南 壽、永井 淳
 馬場 篤子、後藤 加寿子
 泉 喜和子、井上 庸子
 秋竹 純、南 レイラ
 川尻 望、森 沙耶香

1. 一般目標

本授業は歯科衛生士として多様な対象者に根拠や理論に基づいた口腔保健管理を実施するのに必要な、歯科診療の流れや診断と治療の基本的知識を体系的に学ぶ。また、専門診療各科が取り扱う疾患と治療法の概要を修得することにより、口腔保健活動における問題発見能力ならびに医療人としての自覚と倫理観を涵養する。

2. 教育方法

講義を行う。

歯科医療機関（歯科大学医科歯科総合病院、歯科医院）や介護保険施設において、歯科医師として診療に携わった実務経験を活かした実践的教育を行う。

3. 教育教材

教科書、プリント、配布資料、PC+プロジェクター

4. 学修方法

指定教科書と配布プリントを必ず持参すること。下記予習項目に記載された教科書の該当箇所を精読するなど予習を怠らないこと。授業中はノートを取り、その日のうちに授業内容の確認を行うこと。レポート課題は締め切り期日を守ること。

本授業を理解する上で、生物学、口腔解剖学、口腔衛生学等の知識が必要であり、本授業は全ての臨床科目の理解に不可欠である。

[単位修得に必要な授業外学修時間：15 時間]

5. 評価方法

[形成的評価] ミニテスト、レポート

[フィードバック] 不十分な部分はコメントを付して返却し、場合によっては再提出を求める。

[総括的評価] 記述試験 (100%)

[フィードバック] 試験結果は採点后、通知する。

6. 教科書・テキスト

- 「歯科衛生士のための歯科臨床概論」第2版 松井恭平 森崎市治郎 白鳥たかみ 船奥律子／編 医歯薬出版 2024

7. 参考書

指定なし

回	授業日	授業担当者	ユニット番号 ユニット項目 [授業方法]	学修目標 (GIO)	行動目標 (SB0s)	予習・復習項目 と必要時間	教育 目標 領域
1	4/10 (木) 2 限	井上	ユニット1 歯科医療とは [講義]	1) 歯科臨床の場について理解する。 2) 歯科診療の場と関わる人々について理解する。 3) 歯科診療の対象者について理解する。	(1) 歯科臨床の場について説明できる。 (2) 歯科診療の場と関わる人々について説明できる。 (3) 歯科診療の対象者について説明できる。	教科書のP2-5を精読する (1 時間)	認知 (解釈) 情意 (受入)
2	4/14 (月) 2 限	井上	ユニット1 歯科診療所 [講義]	1) 歯科診療所のスタッフについて理解する。 2) 歯科診療所について理解する。 3) 歯科診療所における安全管理について理解できる。	1) 歯科診療所のスタッフについて説明できる。 2) 歯科診療所について説明できる。 3) 歯科診療所における安全管理について説明できる。	教科書のP6-13を精読する (1 時間)	認知 (解釈) 情意 (受入)

回	授業日	授業 担当者	ユニット番号 ユニット項目 〔授業方法〕	学修目標（GIO）	行動目標（SBOs）	予習・復習項目 と必要時間	教育 目標 領域
3	4/21 (月) 2 限	馬場	ユニット1 歯科診療所にお ける業務 〔講義〕	1) 歯科診療所全体に関わ る業務を理解できる。 2) 歯科診療と歯科衛生業 務について理解できる。 3) 歯科診療所の1日につ いて理解できる。 4) 保険医療機関（歯科診 療所）での業務について理 解できる。	1) 歯科診療所に関わる業務を 説明できる。 2) 歯科診療と歯科衛生業務に ついて説明できる。 3) 保険医療機関（歯科診療所） での業務について説明できる。	教科書のP14-25を 精読する (1 時間)	認知 (解釈) 情意 (受入)
4	5/12 (月) 2 限	井上	ユニット2 ライフステージ と歯科診療 主な診療の流れ 〔講義〕	1) ライフステージ毎の 歯科の特徴と問題点につ いて理解する。 2) 歯科診療の主な流れ を理解する	(1) ライフステージに対応 した歯科診療を理解する。 (2) 法律に基づく。歯科に関 する業務を理解する。 (3) 歯科診療所での歯科治療 手順を理解する。	教科書のP26-27を 精読する (1 時間)	認知 (解釈) 情意 (受入)
5	5/19 (月) 2 限	泉	ユニット2 診査・検査・前 処置 〔講義〕	1) 診査・検査・前処置に ついて理解する。	(1) バイタルサインについて 理解する。 (2) 口腔内の視診・触診、口 腔内写真撮影について理解す る。 (3) 画像検査時の補助業務に ついて理解する。 (4) 痛みのコントロールにつ いて理解する。	教科書のP28-35を 精読する (1 時間)	認知 (想起) 情意 (受入)
6	5/22 (木) 4 限	馬場	ユニット 2 歯科専門診療科 (小児歯科) 〔講義〕	1) 小児歯科治療の概要を 理解する。 2) 小児の発育、歯の発育、 小児の特徴と留意点、小児 患者への歯科的対応を理 解する。	(1) 小児歯科治療の概要を説 明できる。 (2) 小児の発育、歯の発育、 小児の特徴と留意点、小児患者 への歯科的対応を概説できる。	教科書の P36-43を 精読する (1 時間)	認知 (解釈) 情意 (受入)
7 8	5/29 (木) 3、4 限	後藤 井上 秋竹 南 川尻 森	ユニット 3 病院見学 〔演習〕	福岡歯科大学医科歯科総 合病院で病院見学を行い、 病院歯科診療について理 解する。	(1) 医療従事者としての対応 について説明できる。 (2) 医療従事者としてふさわ しい身だしなみを示すことが できる。	教科書の P2-24を 精読する HPで福岡歯科大学 医科歯科総合病院 について調べる (2時間)	認知 (解釈) 情意 (受入)
9	6/2 (月) 2 限	永井	ユニット 2 歯科専門診療科 (歯周治療) 〔講義〕	1) 歯周疾患と治療を理解 する。	(1) 歯周疾患と全身疾患に ついて説明できる。 (2) 歯周基本治療について 説明できる。 (3) 歯周外科治療について 説明できる。 (4) 歯周治療におけるメイ ンテナンスについて説明でき る。	教科書のP68-75を 精読する (1 時間)	認知 (解釈) 情意 (受入)
10	6/9 (月) 2 限	泉	ユニット 2 歯科専門診療科 (口腔外科) 〔講義〕	口腔外科が対象とする顎 口腔領域の疾患の概要と 治療の原則について理解 する。	口腔・顎顔面領域の疾患の種 類と特徴および口腔外科治療 の原則を大まかに説明でき る。	教科書の P48-57を 精読する (1 時間)	認知 (解釈) 情意 (受入)
11	6/16 (月) 4 限	阿南	ユニット 2 歯科専門診療科 (歯科保存) 〔講義〕	1) 歯の内部のう蝕および それに続く歯髄や根尖部 の歯周組織に波及した疾 患について理解する。 2) 歯のホワイトニング について理解する。	(1) う蝕の保存修復について 説明できる。 (2) 象牙質知覚過敏症につ いて説明できる。 (3) 歯冠部う蝕について説明 できる。 (4) 根面う蝕について説明で きる。 (5) 歯内治療について説明が できる。 (6) 歯のホワイトニングにつ いて説明できる。	教科書の P58-67を 精読する (1 時間)	認知 (解釈) 情意 (受入)
12	6/23 (月) 2 限	井上	ユニット 2 歯科専門診療科 (歯科矯正) 〔講義〕	1) 矯正歯科治療の概要を 理解する。 2) 不正咬合の分類と各種 の治療法を理解する。	(1) 矯正歯科治療について概 説できる。 2) 不正咬合の分類と各種の治 療法を概説できる。	教科書のP P44-47 を精読する (1 時間)	認知 (解釈) 情意 (受入)
13	6/30 (月) 2 限	後藤	ユニット 2 歯科専門診療科 (歯科補綴) 〔講義〕	歯科補綴治療の基礎知識、 ①補綴装置の種類、②器 材、③補綴治療の臨床ステ ップ、④義歯装着後の患者 指導を理解する。	(1) 歯科補綴治療の概要を 説明できる。 (2) 補綴装置の種類、器材、 補綴治療の臨床ステップ、義 歯装着後の患者指導を理解で きる。	教科書のP76-85を 精読する (1 時間)	認知 (解釈) 情意 (受入)

回	授業日	授業 担当者	ユニット番号 ユニット項目 [授業方法]	学修目標 (GIO)	行動目標 (SB0s)	予習・復習項目 と必要時間	教育 目標 領域
14	7/7 (月) 2 限	馬場	ユニット 2 歯科専門診療科 (障害者歯科・ 高齢者歯科) [講義]	1) 障害者歯科の診療について理解する。 2) 高齢者に対する診療について理解する。 3) 摂食嚥下リハビリを理解する。	(1) 障害者の特徴を理解し、障害者歯科の概要を説明できる。 (2) 高齢者の特徴を理解し、高齢者歯科の概要を説明できる。 (3) 摂食嚥下リハビリを概説できる。	教科書のP P86-91 を精読する (1 時間)	認知 (解釈) 情意 (受入)
15	7/14 (月) 3 限	泉	ユニット 2 歯科専門診療科 (障害者歯科・ 高齢者歯科) [講義]	1) 全身疾患の状態の把握法を理解する。 2) 周術期の対応について理解する。 3) 訪問歯科診療について理解する。	(1) 注意すべき薬剤と全身疾患について説明できる。 (2) 周術期口腔機能管理について説明できる。 (3) 外来診療と訪問診療との違いについて説明できる。	教科書の P92-99を 精読する (1 時間)	認知 (解釈) 情意 (受入)

歯科保存修復・歯内治療学

開講時期： 1 年次後期
 授業時間数： 15 コマ；30 時間 1 単位
 受験資格要件： 2/3 (10 コマ) 以上の出席
 科目番号： DH011212
 評価責任者： 古野 みはる
 授業担当者： 阿南 壽

1. 一般目標

将来、歯科衛生士として多様な対象者に、根拠や理論に基づいた口腔保健管理を実施するために必要な歯の硬組織疾患や、歯髄疾患に関する基本的知識を体系的に修得し、理論的に分析・考察するための科学的思考力を修得する。

2. 教育方法

講義

3. 教育教材

教科書、配布プリント、PC+プロジェクター

4. 学修方法

授業には指定教科書を必ず持参すること。下記予習項目に記載された教科書の当該箇所を読むなど、事前学修（予習）を怠らないこと。授業中は配布プリント中の指示された重要箇所にアンダーラインを引き、必要に応じてノートを取る。授業後は教科書やノート等で講義内容の確認をその日のうちに行うこと。

本授業を理解する上で、口腔解剖学・組織発生学、口腔病理学、歯科材料学等の知識が必要であり、本授業は小児歯科学、歯科診療補助論、臨床実習の理解に不可欠である。

[単位修得に必要な授業外学修時間：15 時間]

5. 評価方法

〔形式的評価〕ミニテスト

〔フィードバック〕試験結果はメールで連絡する。正解例は試験終了後掲示する。

〔総括的評価〕記述試験 (60%)・ミニテスト (40%)

〔フィードバック〕試験結果はメールで連絡する。正解例は試験終了後掲示する。

6. 教科書・テキスト

1. 「歯科衛生学シリーズ 保存修復学・歯内療法学」 医歯薬出版 2023 年

7. 参考書

1. 「歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論 第2版」 医歯薬出版 2025 年

2. 「歯科衛生士書き込み式学習ノート③臨床科目編＜上＞」 医歯薬出版 2024 年

回	授業日	授業担当者	ユニット番号 ユニット項目 〔授業方法〕	学修目標 (GIO)	行動目標 (SB0s)	予習・復習項目 と必要時間	教育 目標 領域
1	9/22 (月) 3 限	阿南	ユニット 1 歯の保存療法の種類 歯および歯周組織の 検査 〔講義〕	1) 歯の保存療法の対象となる疾患を理解する。 2) 歯および歯周組織の検査を理解する。	(1) 歯の保存療法の歯科臨床における位置づけを説明できる。 (2) 歯を保存する重要性を説明できる。 (3) 歯および歯周組織に発生する疾患名をあげて説明できる。歯の切削器具の種類を説明できる。	教科書 p 2-13 を精読する。 (1 時間)	認知 (想起)
2	9/29 (月) 3 限	阿南	ユニット 2 保存修復の概要 〔講義〕	1) 歯の硬組織疾患の種類と病態を理解する。 2) う蝕の分類と特徴を理解する。 3) 窩洞の分類や名称を理解する。	(1) 保存修復学で扱う疾患を説明できる。 (2) う蝕の発症要因と進行を説明できる。	教科書 P16-30 を精読する。 (1 時間)	認知 (想起)
3	10/6 (月) 3 限	阿南	ユニット 3 歯の切削と修復の準備法 〔講義〕	1) 歯の切削器具の種類と特徴を理解する。 2) 保存修復治療の準備を理解する。	(1) 歯の欠損の修復方法を説明できる。 (2) 歯の修復に用いる器材を説明できる。	教科書 P31-45 を精読する。 (1 時間)	認知 (想起)

回	授業日	授業 担当者	ユニット番号 ユニット項目 〔授業方法〕	学修目標（GIO）	行動目標（SB0s）	予習・復習項目 と必要時間	教育 目標 領域
4	10/20 （月） 3 限	阿南	ユニット 4 直接法修復（コンポ ジットレジン修復） 〔講義〕	1）コンポジットレジンの組成と種類を理解する。 2）コンポジットレジンの修復方法を理解する。	（1）組成および種類を説明できる。 （2）修復の特徴を説明できる。 （3）修復の手順を説明できる。	教科書P46-60を精読する。 （1時間）	認知 （想起）
5	10/27 （月） 3 限	阿南	ユニット 4 直接修復法（セメント修復） 〔講義〕	1）成形修復法を理解する。 2）修復時の前準備を理解する。	（1）グラスアイオノマーセメント修復の特徴を説明できる。 （2）グラスアイオノマーセメント適応症を説明できる。 （3）グラスアイオノマーセメント修復の手順を説明できる。	教科書P61-70を精読する。 （1時間）	認知 （想起）
6	11/10 （月） 3 限	阿南	ユニット 5 間接修復法 〔講義〕	1）インレーおよびアンレー修復を理解する。 2）鋳造修復法を理解する。	（1）インレー修復およびアンレー修復の特徴を説明できる。 （2）メタルインレー修復の特徴および修復の手順を説明できる。 （3）セラミックインレー修復の特徴および修復の手順を説明できる。	教科書P79-93を精読する。 （1時間）	認知 （想起）
7	11/13 （木） 3 限	阿南	ユニット 5 間接修復（ラミネートベニア修復） ユニット6 歯の漂白法 〔講義〕	1）ラミネートベニア修復を理解する。 2）合着材および接着剤の種類と特徴を理解する。 3）歯の漂白法を理解する。	（1）ラミネートベニア修復の特徴を説明できる。 （2）合着材および接着剤の特徴を説明できる。 （3）歯の漂白法について説明ができる。	教科書P94-105, 71-78を精読する。 （1時間）	認知 （想起）
8	11/17 （月） 3 限	阿南	ユニット7 補修修復 ユニット8 保存修復における歯科衛生士の役割 〔講義〕	1）ミニマルインターベンションデンティストリーの概念を理解する。 2）再研磨と補修修復の手順を理解する。 3）保存修復に使用する材料・薬剤を理解する。	（1）補修修復の意義を説明できる。 （2）再研磨・補修修復の適応症と手順を説明できる。 （3）保存修復に使用する材料・薬剤の管理について説明できる。 （4）保存修復治療における患者への指導について説明できる。	教科書P106-116を精読する。 （1時間）	認知 （想起）
9	12/1 （月） 3 限	阿南	ユニット 9 歯内治療の概要 象牙質知覚過敏症 歯髄疾患 〔講義〕	1）歯内治療の目的と意義を理解する。 2）象牙質知覚過敏症を理解する。 3）歯髄疾患の分類と症状を理解する。	（1）歯内治療の目的を説明できる。 （2）象牙質知覚過敏症の原因、症状と治療法を説明できる。 （3）歯髄疾患の原因、症状と処置方針を説明できる。 （4）根尖性歯周疾患の原因、症状と処置方針を説明できる。	教科書P118-137を精読する。 （1時間）	認知 （想起）
10	12/8 （月） 3 限	阿南	ユニット 10 歯髄保存療法 〔講義〕	1）歯髄鎮静消炎療法を理解する。 2）間接覆髄法を理解する。 3）直接覆髄法を理解する。 4）暫間的関節覆髄法を理解する。	（1）歯髄鎮静消炎療法の概略と歯髄鎮痛消炎薬を説明できる。 （2）間接覆髄法の概略と薬剤を説明できる。 （3）直接覆髄法の概略と薬剤を説明できる。 （4）暫間的関節覆髄法の概略を説明できる。	教科書P138-147を精読する。 （1 時間）	認知 （想起）
11	12/15 （月） 3 限	阿南	ユニット 11 歯髄除去療法 〔講義〕	1）生活断髄法（生活歯髄切断法）の術式を理解する。 2）麻酔抜髄法の術式と器材を理解する。	（1）生活断髄法の術式を説明できる。 （2）麻酔抜髄法の術式を説明できる。 （3）麻酔抜髄法の使用器材を説明できる。	教科書P148-155を精読する。 （1 時間）	認知 （想起）
12	12/22 （月） 3 限	阿南	ユニット 12 根管治療 〔講義〕	1）根管治療の術式を理解する。 2）根管清掃剤を理解する。 3）根管消毒薬を理解する。	（1）根管治療の術式を説明できる。 （2）根管治療に用いる器具の種類、特徴を説明できる。	教科書P156-177を精読する。 （1 時間）	認知 （想起）
13	1/15 （木） 4 限	阿南	ユニット 13 根管充填 〔講義〕	1）根管充填の目的を理解する。 2）根管充填の術式を理解する。 3）根末完成歯の治療法を理解する。	（1）根管充填の目的を説明できる。 （2）根管充填の術式を説明できる。 （3）根管充填の時期と根管充填材、根管充填用器具の種類、特徴を説明できる。 （4）根末完成歯の治療法を説明できる。	教科書P178-192を精読する。 （1 時間）	認知 （想起）
14	1/19 （月） 3 限	阿南	ユニット 14 外科的歯内療法 ユニット 15 歯の外傷 〔講義〕	1）外科的歯内療法を理解する。 2）根尖搔爬、根尖切除の術式を理解する。 3）歯根切断、歯根分離の適応症を理解する。 4）歯の外傷の分類を理解する。	（1）膿瘍切開を説明できる。 （2）外科的歯内療法の術式を説明できる。 （3）歯の外傷の分類を説明できる。 （4）完全脱臼した歯の保存方法を説明できる。	教科書P193-208を精読する。 （1時間）	認知 （想起）

回	授業日	授業 担当者	ユニット番号 ユニット項目 [授業方法]	学修目標（GIO）	行動目標（SBOs）	予習・復習項目 と必要時間	教育 目標 領域
15	1/22 (木) 3限	阿南	ユニット 16 歯内治療における安全対策 ユニット17歯内療法における歯科衛生士の役割 [講義]	1) 根管治療器具の根管破折に対する予防法と対処法を理解する。 2) 根管治療時のトラブルへの対処法および予防法を理解する。 3) 歯内療法に使用する材料・薬剤を理解する。	(1) 根管破折に対する予防と対処法を説明できる。 (2) 皮下気腫の予防と対処法を説明できる。 (3) 根管治療時の誤飲・誤嚥、薬剤付着時の対応法を説明できる。 (4) 保存修復治療における患者への指導について説明できる。	教科書P209-217を精読する。 (1時間)	認知 (想起)

歯科補綴学

開講時期： 1 年次後期
 授業時間数： 15 コマ；30 時間 1 単位
 受験資格要件： 2/3（10 コマ）以上の出席
 科目番号： DH011214
 評価責任者： 後藤 加寿子
 授業担当者： 後藤 加寿子

1. 一般目標

将来、歯科衛生士として多様な対象者に根拠や理論に基づいた口腔保健管理を実施するのに必要な、歯質欠損に対する歯冠修復と歯列の一部、あるいは全部欠損に対する咬合修復方法に関する基本的知識を体系的に修得する。また、歯科補綴の臨床例を通して、口腔保健活動における問題発見能力ならびに医療人としての自覚と倫理観を備える。

2. 教育方法

教科書、プリントを用いた講義を行う。
 実務家教員として歯科医療機関において、歯科医師として補綴治療に携わった実務経験を活かした実践的教育を行う。

3. 教育教材

教科書、プリント、配布資料、PC+プロジェクター

4. 学修方法

授業には、指定教科書と配布プリント等を必ず持参すること。下記予習項目に記載された教科書の該当箇所を読むなど、事前学修（予習）を怠らないこと。授業中はノートを取る。授業後は、教科書や配布プリント等で講義内容の確認をその日のうちに行うこと。理解できなかった項目については教員・ティーチングアシスタントに質問し、説明を受けて確実に理解すること。レポート課題は、締め切り期日を守ること。本授業を理解するうえで、歯科材料学、口腔解剖学の理解が必要となる。 [単位修得に必要な授業外学修時間：15 時間]

5. 評価方法

[形成的評価] 小テスト、レポートなど
 [フィードバック] 不十分な部分についてコメントを付して返却し、場合によっては再提出を求める。
 [総括的評価] 中間試験を含む記述試験（80%）・客観試験（小テスト）、課題レポート（20%）
 [フィードバック] 以上を総合的に評価し、定期試験終了後に通知する。

6. 教科書・テキスト

1. 歯科衛生学シリーズ 歯科補綴学 医歯薬出版 2023年

7. 参考書

1. 歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論 第2版 医歯薬出版 2025年
 2. 歯科衛生学シリーズ 歯科材料 医歯薬出版 2023 年
 3. 歯科衛生学シリーズ 歯科機器 医歯薬出版 2023 年

回	授業日	授業担当者	ユニット番号 ユニット項目 [授業方法]	学修目標 (GIO)	行動目標 (SBOs)	予習・復習項目 と必要時間	教育 目標 領域
1	9/19 (金) 2 限	後藤	オリエンテーション ユニット 1-1 補綴歯科治療の 基礎 (1) [講義]	1) 歯科補綴の概要 を理解する。	(1) 補綴とは何か説明できる。 (2) 補綴歯科治療の意義と目的 を説明できる。 (3) 歯の欠損に伴う生理的変化 を説明できる。	教科書 1 の P2- 12 を精読する。 (1 時間)	認知 (想起)
2	9/30 (火) 2 限	後藤	ユニット 1-2 補綴歯科治療の 基礎 (2) [講義]	1) 歯科補綴の概要 を理解する。	(1) 補綴歯科治療の方法と歯科 装置について説明できる。 (2) 補綴歯科治療における歯科 衛生士の役割を説明できる。	教科書 1 の P13-30 を精読 する。 (1 時間)	認知 (想起)
3	10/7 (火) 2 限	後藤	ユニット 1-3 補綴歯科治療の 基礎 (3) [講義]	1) 歯科補綴の概要 を理解する。	(1) 補綴歯科治療の方法と歯科 装置について説明できる。 (2) 補綴歯科治療における歯科 衛生士の役割を説明できる。	教科書 1 の P13-30 を精読 する。 (1 時間)	認知 (想起)

回	授業日	授業 担当者	ユニット番号 ユニット項目 [授業方法]	学修目標 (GIO)	行動目標 (SB0s)	予習・復習項目 と必要時間	教育 目標 領域
4	10/14 (火) 2 限	後藤	ユニット 2 補綴歯科治療の 基礎(4) [講義]	1) 補綴歯科治療の 基礎知識について 理解する。	(1) 歯列と咬合について説明で きる。 (2) 補綴学的基準平面について 説明できる。 (3) 口腔の機能について説明で きる。 (4) 顎関節の構造・機能と病態 について説明できる。	教科書 1 の P31-47を精読 する。 (1 時間)	認知 (想起)
5	10/21 (火) 2 限	後藤	ユニット 3-1 補綴歯科治療の実 際と歯科衛生士の 役割(1) [講義]	1) 補綴歯科治療に おける検査とい う理解する。	(1) 医療面接と診察について説 明できる。 (2) 口腔内の検査について説明 できる。 (3) 画像検査について説明でき る。 (4) 咬合と顎口腔機能の検査に ついて説明できる。	教科書 1 の P50-69を精読 する。 (1 時間)	認知 (想起)
6	10/28 (火) 2 限	後藤	ユニット 3-2 補綴歯科治療の実 際と歯科衛生士の 役割(2) [講義]	1) クラウン・ブリ ッジ治療について 理解する。	(1) クラウン・ブリッジ治療の 概要について説明できる。	教科書 1 の P70-78を精読 する (1 時間)	認知 (解釈)
7	11/4 (火) 2 限	後藤	ユニット 3-2 補綴歯科治療の実 際と歯科衛生士の 役割(3) [講義]	1) クラウン・ブリ ッジ治療について 理解する。	(1) クラウン・ブリッジ治療の 流れと診療の補助について説 明できる。	教科書 1 の P78-100を精読 する (1 時間)	認知 (解釈)
8	11/11 (火) 2 限	後藤	ユニット 3-2 補綴歯科治療の実 際と歯科衛生士の 役割(4) [講義]	1) クラウン・ブリ ッジ治療について 理解する。	(1) クラウン・ブリッジ治療に 伴うトラブルとその対応とい う説明できる。	教科書 1 の P100-109を精 読する (1 時間)	認知 (問題解決)
9	11/25 (火) 2 限	後藤	ユニット 3-3 補綴歯科治療の実 際と歯科衛生士の 役割(5) [講義]	1) 有床義歯治療の 概要について理解 する。	(1) 全部床義歯治療の概要につ いて説明できる。 (2) 全部床義歯治療の流れと診 療補助について説明できる。	教科書 1 の P110-143を精 読する (1 時間)	認知 (解釈)
10	12/2 (火) 2 限	後藤	ユニット 3-3 補綴歯科治療の実 際と歯科衛生士の 役割(6) [講義]	1) 有床義歯治療の 概要について理解 する。	(1) 全部床義歯治療に伴うトラ ブルとその対応について説明 できる。	教科書 1 の P144-150を精 読する (1 時間)	認知 (問題解決)
11	12/9 (火) 2 限	後藤	ユニット 3-4 補綴歯科治療の実 際と歯科衛生士の 役割(7) [講義]	1) 有床義歯治療の 概要について理解 する。	(1) 部分床義歯治療の概要につ いて説明できる。 (2) 部分床義歯治療の流れと診 療補助について説明できる。	教科書 1 の P150-178を精 読する (1 時間)	認知 (解釈)
12	12/15 (月) 2 限	後藤	ユニット 3-4 補綴歯科治療の実 際と歯科衛生士の 役割(8) [講義]	1) 有床義歯治療の 概要について理解 する。	(1) 部分床義歯治療に伴うトラ ブルとその対応について説明 できる。	教科書 1 の P178-181を精 読する (1 時間)	認知 (問題解決)
13	12/23 (火) 2 限	後藤	ユニット 3-5 補綴歯科治療の実 際と歯科衛生士の 役割(9) [講義]	1) インプラント治 療について理解す る。	(1) インプラント治療の概要につ いて説明できる (2) インプラント治療の流れと 診療補助について説明でき る。 (3) 上下無歯顎症例に対するイン プラント治療について説明 できる。 (4) インプラント治療に伴うト ラブルとその対応について説 明できる。	教科書 1 の P182-214を精 読する (1 時間)	認知 (解釈)
14	1/14 (水) 2 限	後藤	ユニット 3-6 補綴歯科治療の実 際と歯科衛生士の 役割(10) [講義]	1) 特殊な口腔内装 置を用いる治療に ついて理解する。	(1) 顎顔面補綴治療について説 明できる。 (2) 構音・嚥下機能の補助治療 について説明できる。 (3) 顎関節症と歯ぎしりの治療 について説明できる。 (4) スポーツ外傷の予防につい て説明できる。 (5) 睡眠時無呼吸症候群の歯科 的治療について説明できる。	教科書 1 の P215-225を精 読する (1 時間)	認知 (想起)
15	1/20 (火) 2 限	後藤	ユニット 3-7 補綴歯科治療の実 際と歯科衛生士の 役割(11) [講義]	1) 補綴歯科治療に おける器材の管理 について理解す る。	(1) 器具・器材別滅菌、消毒、 洗浄、保管について説明でき る。 (2) 歯科技工士との連携につい て説明できる。	教科書 1 の P226-233を精 読する (1 時間)	認知 (想起)

口腔外科学

開講時期： 1 年次後期
 授業時間数： 15 コマ：30 時間 1 単位
 受験資格要件： 2/3 (10 コマ) 以上の出席
 科目番号： DH011215
 評価責任者： 泉喜和子
 授業担当者： 泉喜和子・勝俣由里・佐々木三奈

1. 一般目標

歯科衛生士として多様な対象者に根拠や理論に基づいた口腔保健管理を実施するのに必要な、口腔・顎顔面領域の疾患の特徴と診断法および治療法に関する情報や知識を修得し、理論的に分析・考察するための科学的思考力を醸成する。また、口腔外科の臨床例を通して、口腔保健活動における問題発見能力ならびに医療人としての自覚と倫理観を涵養する。

2. 教育方法

講義

大学病院口腔外科での実務経験を生かした口腔外科学の基礎教育を行う。

3. 教育教材

教科書、プリント、PC、プロジェクター

4. 学修方法

本授業を理解する上で、解剖学や生理学などで学修した口腔・顎顔面領域の構造や機能についての知識が必須である。授業には指定教科書と配布資料を必ず持参すること。下記予習項目に記載された教科書の該当箇所を精読し、授業中はノートやメモを取ること。授業後は、教科書等で授業内容の確認をその日のうちに行うこと。また本授業は保存修復学、歯周病学、歯科補綴学、小児歯科学、矯正歯科学、口腔病理学、診療補助論と関連があり、理解に不可欠である。

【単位修得に必要な授業外学修（予習・復習）時間：26.5 時間】

5. 評価方法

〔総括的評価〕 中間試験（40％） 定期（記述）試験（60％）

〔フィードバック〕 評価の結果は試験終了後に通知する。

6. 教科書・テキスト

1. 古森孝秀 編著：歯科衛生士講座 口腔外科学 第2版 永末書店 2017年

7. 参考書

1. 歯科衛生士講座 口腔外科の治療と診療補助 永末書店 2023年
2. 野間, 福田, 栗田ら編集：イラストでみる口腔外科手術 第1～3巻 クインテッセンス出版 2010年

回	授業日	授業担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標 (GIO)	行動目標 (SB0s)	予習・復習項目と必要時間	教育目標領域
1	9/22 (月) 1限	泉	ユニット 1 口腔外科学総論 〔講義・スライド〕	1) 歯科における口腔外科の位置づけを理解する。 2) 口腔外科手術に必要な全身管理、臨床検査を理解する。	1) 口腔・顎顔面領域の機能と特徴、口腔外科の診療範囲と扱う疾患を説明できる。 2) 口腔外科手術に必要な全身管理、臨床検査の目的や結果について説明できる。	予習) 教科書P2-30を精読する。 (0.5時間) 復習) 講義内容を教科書で見直す。 (1.0時間)	認知 (解釈)
2	9/29 (月) 1限	泉	ユニット 2 先天異常・発育異常 〔講義・スライド〕	1) 顎顔面口腔領域の先天異常を理解する。 2) 顎顔面領域の発育異常を理解する。 3) 代表的な症候群を理解する。	1) 萌出時期・歯数の異常、萌出位置の異常、小帯の異常、舌の異常、口唇の異常、口腔粘膜の異常の病態と治療法を説明できる。唇顎口蓋裂の発生率や原因および唇顎口蓋裂に伴う障害と治療の流れについて説明、記述できる。 2) 顎変形症の症型分類、外科的矯正治療の流れ、代表的な顎矯正手術法を説明、記述できる。 3) 代表的な症候群を説明できる。	予習) 教科書 P44-75、P245-247、268-279を精読する。 (0.5時間) 復習) 講義内容を教科書で見直す。 (1.0時間)	認知 (解釈)

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標 (GIO)	行動目標 (SBOs)	予習・復習項目と必要時間	教育 目標 領域
3	10/6 (月) 1限	泉	ユニット 3 顎顔面の外傷 [講義・スライド]	1) 歯の損傷・歯槽骨骨折の原因と種類、治療法を理解する。 2) 顎骨骨折の原因と種類、症状および治療法を理解する。 3) 軟組織の損傷の原因と種類、症状および治療法を理解する。	1) 歯の破折と脱臼の症状と治療法を説明、記述できる。 2) 顎骨骨折を分類し、症状や治療法を説明、記述できる。 3) 軟組織損傷を分類し説明できる。	予習) 教科書のP76-86、P245-254、P281-282を精読する。(0.5時間) 復習) 講義内容を教科書で見直す。(1.0時間)	認知 (解釈)
4	10/20 (月) 1限	泉	ユニット 4 口腔粘膜疾患1 [講義・スライド]	1) 粘膜疾患の基本症状を理解する。 2) 水疱形成、紅斑・びらん、潰瘍、白斑を主徴とする疾患の特徴と治療法を理解する。	水疱形成、紅斑・びらん、潰瘍、白斑を主徴とする疾患の病態を把握し、症状と治療法について説明、記述できる。	予習) 教科書のP87-99を精読する。(0.5時間) 復習) 講義内容を教科書で見直す。(1.0時間)	認知 (解釈)
5	10/27 (月) 2限	泉	ユニット 5 口腔粘膜疾患2 [講義・スライド]	1) 色素沈着を主徴とする疾患の特徴と治療法を理解する。 2) そのほか舌に現れる疾患の特徴を理解する。	1) 色素沈着を主徴とする疾患の病態を把握し、症状と治療法について説明、記述できる。 2) 口腔粘膜に局限して見られる疾患と全身疾患と関連して見られる疾患を説明できる。	予習) 教科書のP87-104を精読する。(0.5時間) 復習) 講義内容を教科書で見直す。(1.0時間)	認知 (解釈)
6	11/4 (火) 3限	泉	ユニット 6 炎症 [講義・スライド]	1) 歯性炎症の原因と症状、進路経路を理解する。 2) 歯性炎症の治療法を理解する。 3) 薬剤関連顎骨壊死の特徴と治療法を理解する。 4) 特異性炎の病態と治療法を理解する。	1) 歯性炎症の原因と症状、進路経路について説明、記述できる。 2) 歯性炎症の治療法を説明できる。 3) 薬剤関連顎骨壊死の特徴と治療法について説明、記述できる。 4) 特異性炎の病態と治療法を説明できる。	予習) 教科書のP105-115、P212-214を精読する。(0.5時間) 復習) 講義内容を教科書で見直す。(1.0時間)	認知 (解釈)
7	11/10 (月) 1限	泉	ユニット 7 中間テスト	1) ユニット1～6の内容を理解できる	1) ユニット1～6の疾患について説明できる。	予習) 教科書のP2-115を復習する。(2時間) 復習) 正解できなかった問題を見直す(2時間)	認知 (解釈)
8	11/10 (月) 2限	泉	ユニット 8 嚢胞 [講義・スライド]	1) 嚢胞の定義と分類を理解する。 2) 顎骨嚢胞、軟組織嚢胞、偽嚢胞に分類し、分類された疾患の特徴と治療法を理解する。	1) 嚢胞の定義と分類を説明できる。 2) 顎骨嚢胞、軟組織嚢胞、偽嚢胞のそれぞれの疾患の特徴と治療法を説明、記述できる。	予習) 教科書のP116-125、P231-241、p284-285を精読する。(0.5時間) 復習) 講義内容を教科書で見直す。(1.0時間)	認知 (解釈)
9	12/1 (月) 1限	泉	ユニット 9 良性腫瘍および腫瘍類似疾患 [講義・スライド]	1) 腫瘍の性質と分類を理解する。 2) 良性腫瘍と悪性腫瘍の相違を理解する。 3) 口腔・顎顔面領域の良性腫瘍と腫瘍類似疾患の特徴と治療法を理解する。	1) 腫瘍の性質と分類を説明できる。 2) 良性腫瘍と悪性腫瘍の相違を説明できる。 3) 口腔・顎顔面領域の良性腫瘍と腫瘍類似疾患の特徴と治療法について説明、記述できる。	予習) 教科書のP126-142、P229-230、P242-244、P286を精読する。(0.5時間) 復習) 講義内容を教科書で見直す。(1.0時間)	認知 (解釈)
10	12/8 (月) 1限	佐々木	ユニット 10 悪性腫瘍(口腔癌) [講義・スライド]	1) 口腔癌の疫学を理解する。 2) 口腔癌の症状と診断分類、治療法を理解する。 3) 口腔癌の外科療法を理解する。	1) 口腔癌の口腔癌の症状と診断分類、治療法を説明、記述できる。 2) 口腔癌の外科療法を説明できる。	予習) 教科書のP143-153 P287-295を精読する。(0.5時間) 復習) 講義内容を教科書で見直す。(1.0時間)	認知 (解釈)
11	12/8 (月) 2限	泉	ユニット 11 顎関節疾患 [講義・スライド]	1) 顎関節の構造と機能を理解する。 2) 顎関節疾患の特徴と治療法を理解する。	1) 顎関節の構造と機能を説明できる。 2) 顎関節疾患の診断と治療法を説明、記述できる。	予習) 教科書のP154-165 P296-302を精読する。(0.5時間) 復習) 講義内容を教科書で見直す。(1.0時間)	認知 (解釈)

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標 (GIO)	行動目標 (SBOs)	予習・復習項目と必 要時間	教育 目標 領域
12	12/15 (月) 1限	勝俣	ユニット12 唾液腺疾患 [講義・スラ イド]	1) 口腔・顎顔面領域の唾 液腺の構造と機能を理解 する。 2) 唾液腺疾患の特徴と治 療法を理解する。	1) 唾液腺の機能と構造、唾液について説明でき る。 2) 唾液腺疾患の特徴と治療法を説明、記述でき る。	予習) 教科書の P166-179 P255- 257を精読する。 (0.5時間) 復習) 講義内容を 教科書で見直す。 (1.0時間)	認知 (解釈)
13	12/22 (月) 1限	泉	ユニット13 神経疾患 [講義・スラ イド]	1) 口腔・顎顔面領域を支 配する神経の構造と機能 を理解する。 2) 口腔・顎顔面領域の神 経疾患の特徴と治療法 の原則を理解する。	1) 口腔・顎顔面領域を支配する神経について説明で きる。 2) 神経疾患の特徴と治療法の原則を説明、記述でき る。	予習) 教科書の P180-185を精読す る。(0.5時間) 復習) 講義内容を 教科書で見直す。 (1.0時間)	認知 (解釈)
14	1/19 (月) 1限	泉	ユニット14 血液疾患 [講義・スラ イド]	1) 止血機構を理解する。 2) 血液疾患の臨床病態や 検査を理解する。	1) 代表的な血液疾患である貧血と白血病の臨床病態 (原因、症状、問題点)について説明、記述できる。 2) 出血傾向を示す疾患の臨床病態(原因、症状、問 題点)について説明、記述できる。	予習) 教科書の P186-192を精読す る。(0.5時間) 復習) 講義内容を 教科書で見直す。 (1.0時間)	認知 (解釈)
15	1/21 (水) 2限	泉	ユニット15 口腔外科手術 論 [講義・スラ イド]	1) 口腔外科手術(抜歯 術)の術式や必要な器具 を理解する。 2) 創傷治癒過程を理解す る。 3) 出血の分類と止血処置 を理解する。	1) 口腔外科手術の術式を理解し、必要な器材、手術 の偶発症について説明できる。 2) 創傷治癒過程について説明できる。 3) 出血の分類と止血処置について説明できる。	予習) 教科書の P194-211、P215- 225、P339-350を 精読する。 (0.5時間) 復習) 講義内容を 教科書で見直す。 (1.0時間)	認知 (解釈)

小児歯科学

開講時期： 1 年次後期
授業時間数： 15 コマ；30 時間 1 単位
受験資格要件： 2/3 (10 コマ) 以上の出席
科目番号： DH011216
評価責任者： 馬場篤子
講義担当： 馬場篤子

1. 一般目標

将来、歯科衛生士として根拠や理論に基づいた口腔保健管理を実施するために、胎生期から成人にいたる間の小児の口腔領域の正常な発育を促し、これを阻害する口腔疾患について、その種類と治療法を知ることによって、歯科衛生士が行う小児のう蝕予防、口腔管理法および小児歯科診療補助業務に関し多様な対象者を支援する力を修得する。

2. 教育方法

スライドを用いた講義を行う。講義資料は、福岡医療短期大学学生Web (<https://fgakuen.sharepoint.com/sites/fchsstdweb>) (Fukuoka Gakuen Moodle(遠隔授業)) より ダウンロードを行う。

大学病院において、歯科医師として小児歯科臨床に携わった実務経験を生かした実践的教育を行う。

3. 教育教材

教科書、スライド (PC+プロジェクター)

4. 学修方法

授業には、指定教科書を必ず持参すること。下記予習項目に記載された教科書の対応項目に目を通すなど、事前学修 (予習) を怠らないこと。授業中はノート等記録を取ること。授業後は、教科書等で講義内容の確認をその日のうちに行うこと。本授業を理解する上で、口腔解剖学、口腔病理学、口腔生理学、歯科材料学等の知識が必要である。また本授業は予防歯科学、矯正歯科学、保存修復学、歯内療法学、歯科補綴学、口腔外科学、歯周病学、歯科診療補助論と関連があり、臨床実習の理解に不可欠である。

【単位修得に必要な授業外学修時間：15時間】

5. 評価方法

試験：中間試験 (45%) 定期 (記述) 試験 (45%)
平常評価：授業態度 (出席・発問・質疑等) (10%)
フィードバック：試験結果 (成績) は、試験終了後に通知する。
尚、詳細は講義の初日に説明する。

6. 教科書・テキスト

1. 歯科衛生学シリーズ 小児歯科学 第1版 一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版株式会社 2023年

7. 参考書

1. 歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第1版 一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版株式会社 2024年
2. 歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論 第1版 一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版株式会社 2025年
3. 「歯科衛生士国試対策集2026年対応」 歯科衛生士国試対策研究会編 クインテッセンス出版 2025年

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標 (GIO)	行動目標 (SB0s)	予習・復習 項目と 必要時間	教育 目標 領域
1	9/17 (水) 2限	馬場	ユニット 1 小児歯科学概論 [講義]	1) 小児歯科学概論を説明できる	(1) 小児歯科の意義と目的を説明できる (2) 小児の発育段階と口腔の変化を説明できる	教科書 1. のP2-5を 読んでく こと (0.5時間) 授業後に 復習する こと (0.5時間)	認知 (想起)

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標 (GIO)	行動目標 (SBOs)	予習・復習 項目と 必要時間	教育 目標 領域
2	9/24 (水) 2限	馬場	ユニット 2 心身の発育 小児の生理的特徴 顔面頭蓋の発育 [講義]	1) 小児の心身の発育を説明できる	(1) 小児の発育の概念と分類を説明できる (2) 小児の発育状態の評価法を説明できる (3) 小児の生理的年齢を説明できる (4) 各器官の発育を説明できる (5) 小児の精神発達を説明できる (6) 小児の機能の発達を説明できる	教科書 1. のP6-19、参考書 1. のP320-330を読んでくること (0.5時間) 授業後に復習すること (0.5時間)	認知 (想起) (解釈)
3	10/1 (水) 2限	馬場	ユニット 3 小児の生理的特徴 顔面頭蓋の発育 歯の発育とその異常 [講義]	1) 小児の生理的特徴を説明できる 2) 小児の顔面頭蓋の発育を説明できる 3) 乳歯・幼若永久歯の特徴を説明できる	(1) 小児のバイタルサインと生理的特徴を説明できる (2) 小児の薬剤処方と薬物療法について説明できる (3) 脳頭蓋と顔面頭蓋の発育変化を説明できる (4) 脳頭蓋の発育の特徴を説明できる (5) 顔面頭蓋の発育の特徴を説明できる (6) 顎顔面頭蓋の発育の評価法を説明できる (7) 乳歯の特徴を説明できる (8) 幼若永久歯の特徴を説明できる	教科書 1. のP20-35、参考書 1. のP21-22を読んでくること (0.5時間) 授業後に復習すること (0.5時間)	認知 (想起) (解釈)
4	10/8 (水) 2限	馬場	ユニット 4 歯の発育とその異常 [講義]	1) 歯の発育とその異常を説明できる 2) 歯の形成について説明できる 3) 歯の発育時期と形成異常を説明できる 4) 歯の萌出を説明できる 5) 歯の萌出異常を説明できる	(1) 歯の発育の概要を説明できる (2) 歯の形成異常を説明できる (3) 歯の萌出時期と順序を説明できる (4) 歯の萌出異常を説明できる	教科書 1. のP35-42を読んでくること (0.5時間) 授業後に復習すること (0.5時間)	認知 (想起) (解釈)
5	10/15 (水) 2限	馬場	ユニット 5 歯列・咬合の発育と異常 [講義]	1) 歯列・咬合の発育とその異常について説明できる	(1) 歯列の発育分類を説明できる (2) 各歯列期の臨床的特徴を説明できる (3) ヘルマンの咬合発育段階を説明できる (4) 歯列および咬合の発育異常を説明できる (5) 口腔習癖に起因する不正咬合の特徴を説明できる (6) 歯性不正咬合を説明できる	教科書 1. のP43-52を読んでくること (0.5時間)	認知 (想起) (解釈)
6	10/22 (水) 2限	馬場	ユニット 6 中間試験 [講義]	1) ユニット 5までの内容を理解できる	(1) ユニット 5までの内容を説明できる	教科書 1. のP2-52を復習すること (1.5時間)	
7	10/29 (水) 2限	馬場	ユニット 7 小児の歯科疾患 小児虐待 [講義]	1) 小児にみられるう蝕を説明できる 2) 小児にみられる歯周疾患を説明できる 3) 小児にみられる口腔軟組織の異常と疾患を説明できる 4) 口唇裂・口蓋裂の問題点や患者支援について説明できる 5) 小児虐待について説明できる	(1) う蝕の病因と予防法を説明できる (2) 乳歯のう蝕の特徴、為害性、罹患型と年齢別の好発部位を説明できる (3) 幼若永久歯のう蝕の特徴を説明できる (4) 小児の歯周組織の特徴を説明できる (5) 小児の歯肉炎・歯周炎を説明できる (6) 全身疾患や薬物が影響する歯周疾患を説明できる (7) 小児の口腔粘膜や歯肉・口唇に現れる疾患を説明できる (8) 唇顎口蓋裂の問題点と小児歯科の関わりを説明できる虐待の種類・頻度・起こる背景を説明できる (9) 小児虐待の現状と種類を説明できる (10) 小児虐待の起こる背景を説明できる (11) 小児虐待を防止するための歯科衛生士の役割を説明できる	教科書 1. のP53-71、参考書 1. のP32-43、131を読んでくること (0.5時間) 授業後に復習すること (0.5時間)	認知 (想起) (解釈)
8	11/5 (水) 2限	馬場	ユニット 8 小児期の特徴と歯科的問題点 小児歯科における患者との対応法 [講義]	1) 小児期の各時期の特徴と留意点と歯科疾患について説明できる 2) 患児・保護者・歯科医師歯科衛生士との関係を説明できる 3) 歯科診療室における小児の態度と行動を説明できる 4) 年齢別にみた小児の行動と対応法を説明できる 5) 歯科治療時の対応法を説明できる 6) 小児歯科診療室および器材の管理を説明できる	(1) 小児期の特徴と歯科的問題点を説明できる (2) 小児と成人との歯科対応法の違いについて説明できる (3) 小児の発達段階の応じた年齢別対応法を説明できる (4) 歯科診療室における小児の態度や行動に影響を及ぼす因子について説明できる (5) 歯科治療における小児の行動療法の種類と概要を説明できる (6) 歯科衛生士の小児への対応法について説明できる (7) 緊急事態と偶発症の地往訪について説明できる (8) 小児歯科診療室で用いられる器材管理の工夫を説明できる (9) 歯科診療室の管理を説明できる	教科書 1. のP74-95、201-205、を読んでくること (0.5時間) 授業後に復習すること (0.5時間)	認知 (想起) (解釈)

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標 (GIO)	行動目標 (SBOs)	予習・復習 項目と 必要時間	教育 目標 領域
9	11/12 (水) 2限	馬場	ユニット 9 小児歯科における 診療体系① [講義]	1) 小児歯科診療とその特徴を説明できる 2) 小児歯科治療における原則を説明できる 3) 小児の口腔の診察・検査・診断を説明できる 4) 歯の健康教室について説明できる 5) 小児歯科における麻酔法を説明できる	(1) 小児歯科診療の特徴を説明できる (2) 小児歯科診療の流れと歯科衛生士の役割を説明できる (3) 小児の歯の健康教室の目的を説明できる (4) 局所麻酔を説明できる (5) 小児歯科診療における歯科衛生士の役割を説明できる	教科書 1. のP96-112、参考書 2. のP183-185を読んでくこと (0.5時間) 授業後に復習すること (0.5時間)	認知 (想起) (解釈)
10	11/19 (水) 2限	馬場	ユニット10 小児歯科における 診療体系② [講義]	1) 小児の歯冠修復を説明できる	(1) ラバーダム防湿を説明できる (2) 乳歯の歯冠修復処置を説明できる (3) 幼若永久歯の歯冠修復処置を説明できる (4) 診療に必要な器材と留意点を説明できる	教科書 1. のP112-123、参考書 2. のP99-105、186-188を読んでくこと (0.5時間) 授業後に復習すること (0.5時間)	認知 (想起) (解釈)
11	11/26 (水) 2限	馬場	ユニット11 小児歯科における 診療体系③ [講義]	1) 小児の歯内療法を説明できる 2) 小児の外科的処置を説明できる	(1) 乳歯歯髄疾患の種類とその処置を説明できる (2) 乳歯歯髄炎の診断を説明できる (3) 乳歯歯髄の処置を説明できる (4) 幼若永久歯の歯髄保存療法を説明できる (5) アペキシゲネシスを説明できる (6) アペキシフィケーションを説明できる (7) 乳歯の抜歯を説明できる (8) 抜歯後や服薬の注意事項について説明できる (9) 小手術を説明できる (10) 診療に必要な器材と留意点を説明できる	教科書 1. のP124-141、参考書 2. のP189を読んでくこと (0.5時間) 授業後に復習すること (0.5時間)	認知 (想起) (解釈)
12	12/3 (水) 2限	馬場	ユニット12 小児歯科における 診療体系④ [講義]	1) 小児の歯の外傷の特徴および処置を説明できる 2) 咬合誘導を説明できる	(1) 乳歯・幼若永久歯外傷の問題点と処置を説明できる (2) 外傷の予防を説明できる (3) 保険の目的・保険装置の種類を説明できる (4) 能動的咬合誘導装置を説明できる (5) 保険装置の管理を説明できる (6) 診療に必要な器材と留意点を説明できる	教科書 1. のP141-149、参考書 2. のP189-190を読んでくこと (0.5時間) 授業後に復習すること (0.5時間)	認知 (解釈) (問題解決)
13	12/10 (水) 2限	馬場	ユニット13 小児歯科における 診療体系⑤ う蝕予防 [講義]	1) フッ化ジアンミン銀塗布を説明できる 2) リコールシステムの意義、管理を理解する 3) リコールの来院時に行う項目、間隔、時期を理解する 4) 小児のう蝕予防を説明できる	(1) フッ化ジアンミン銀塗布を説明できる (2) リコール（定期健診）の意義を説明できる (3) リコールの来院時に行う項目、間隔、時期を説明できる。 (4) 小児歯科におけるブラークコントロールの意義を説明できる (5) 診療に必要な器材と留意点を説明できる	教科書 1. のP149-153、P169-174、参考書 1. のP330-344を読んでくこと (0.5時間) 授業後に復習すること (0.5時間)	認知 (解釈) (問題解決)
14	12/17 (水) 2限	馬場	ユニット14 う蝕予防 小児の口腔健康管理 [講義]	1) 小児のう蝕予防を説明できる 2) 口腔健康管理の目的・方法を理解し必要な検査と指導が説明できる	(1) 小児におけるフッ化物の応用について説明できる (2) 小窩裂溝填塞法を説明できる (3) 代用甘味料を説明できる (4) う蝕予防のための食生活指導を説明できる (5) 乳児期・幼児期・学童期・思春期における口腔健康管理の説明や指導ができる	教科書 1. のP175-200、参考書 1. のP233-264を読んでくこと (0.5時間) 授業後に復習すること (0.5時間)	認知 (解釈) (問題解決)
15	1/13 (火) 2限	馬場	ユニット15 障害児の歯科診療 [講義]	1) 障害児における歯科対応 2) 主な障害とその全身的・歯科的特徴を説明できる 3) 障害児への対応 4) 小児の摂食・嚥下障害の特徴	(1) 障害児の特徴と定型発達児との違いを説明できる (2) 知的能力障害について説明できる (3) 障害児の歯科保健について説明できる (4) 障害児の歯科治療に用いる器材を説明できる (5) 障害児に歯科治療を行ううえでの留意点を説明できる	教科書 1. のP154-168を読んでくこと (0.5時間) 授業後に復習すること (0.5時間)	認知 (想起) (問題解決)

矯正歯科学

開講時期： 1 年次後期
 授業時間数： 15コマ；30時間 1単位
 受験資格要件： 2/3(10コマ)以上の出席
 科目番号： DH011217
 評価責任者： 井上庸子
 授業担当者： 井上庸子、森下元賀

1. 一般目標

将来、歯科衛生士として歯列、咬合、口腔機能に基づいた口腔保健管理を実施するために正常咬合、不正咬合、矯正治療に関する知識を修得し、対象者の生活の質（QOL）の向上を図るための口腔の健康管理が出来る知識を修得する。

2. 教育方法

講義

大学病院等で、歯科医師として歯科矯正学に携わった実務経験を生かし実践的教育を行う。

3. 教育教材

教科書・プリント・PCとプロジェクター

4. 学修方法

授業には、指定された教科書を必ず持参する。必要に応じて補足資料プリントを配布する。下記の予習項目に記載された教科書の該当箇所を読み、事前予習を行うこと。講義中の要点をノートに記載すること。講義後は、教科書や配布プリント等で講義内容の復習をその日のうちに行うこと。

本講義を理解する上で、口腔解剖学、口腔病理学、口腔生理学等の知識が必要である。また本授業は小児歯科学、歯周病学、保存修復学、歯科補綴学、口腔外科学と関連があり、これらの科目の理解に不可欠である。

[単位修得に必要な授業外学修時間：15時間]

5. 評価方法

[総括的評価] 記述試験（40%）・客観試験（60%）

[フィードバック] 試験実施後、結果を通知する。

6. 教科書・テキスト

1) 歯科衛生学シリーズ 『歯科矯正学 第2版』医歯薬出版株式会社 2024年

7. 参考書

1. 『歯科衛生士書き込み式学習ノート④ 臨床科目編 下 2025年度 歯科補綴学／歯科矯正学／小児歯科学／高齢者歯科学／障害者歯科学』 医歯薬出版 2024年

2. 「歯科衛生士国試対策集 2026年対応」 歯科衛生士国試対策研究会編、クインテッセンス出版 2025年

回	授業日	授業担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標(GIO)	行動目標(SBOs)	予習・復習項目 と必要時間	教育 目標領域
1	9/16 (火) 2限	井上	ユニット 1 歯科矯正学概論 [講義]	1) 矯正歯科治療の目的、歴史、治療の流れ、種類と開始時期を理解する。	(1) 矯正歯科治療に関心を持ち、矯正歯科の概念と内容を述べることができる。 (2) 矯正歯科治療における歯科衛生士の役割の概要について述べることができる。	教科書のP2, 5-12, P109-136 を精読する (予習0.5時間、復習0.5時間)	認知 (想起)
2	9/26 (金) 2限	井上	ユニット 2 不正咬合による障害 [講義]	1) 生理的障害、心理的障害について理解する。	(1) 不正咬合であることに対するリスクについて説明することができる。 (2) 矯正治療のベネフィットとリスクを説明できる。	教科書のP2-4, P137-140 を精読する (予習0.5時間、復習0.5時間)	認知 (想起)
3	10/3 (金) 2限	井上	ユニット 3 成長発育 (1) [講義]	1) 成長発育の概要を理解する。 2) 顎顔面頭蓋の成長発育を理解する。	(1) 成長発育の定義、パターン、評価を記述することができる。 (2) 顎顔面頭蓋の成長発育を説明することができる。	教科書のP13-23 を精読する (予習0.5時間、復習0.5時間)	認知 (解釈)

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標 (GIO)	行動目標 (SBOs)	予習・復習項目 と必要時間	教育 目標領域
4	10/10 (金) 2限	井上	ユニット 4 成長発育 (2) [講義]	1) 歯・歯列の成長発育について理解する。	(1) 歯の発生、乳歯列、混合歯列、永久歯列を説明することができる。 歯長空隙、発育空隙、ターミナルプレーンについて説明することができる。	教科書のP23-31を精読する (予習0.5時間、復習0.5時間)	認知 (解釈)
5	10/17 (金) 2限	井上	ユニット 5 咬合 (1) [講義]	1) 咬合について理解する。 2) 正常咬合を理解する。	(1) 咬合と下顎位、顎運動を説明することができる。 (2) 正常咬合の定義と種類、上下の歯の接触関係、正常咬合の成立、および保持条件を説明することができる。	教科書のP32-36を精読する (予習0.5時間、復習0.5時間)	認知 (想起)
6	10/24 (金) 2限	井上	ユニット 6 咬合 (2) [講義]	1) 不正咬合について理解する。	(1) 歯・歯列・咬合の異常、歯列弓形態の異常、上下歯列弓関係の異常、不正咬合の分類について説明することができる。	教科書のP36-43を精読する (予習0.5時間、復習0.5時間)	認知 (解釈)
7	10/31 (金) 2限	井上	ユニット 7 不正咬合の原因 [講義]	1) 先天的原因を理解する。 2) 後天的原因を理解する。	(1) 全身的原因 (遺伝的・環境的要因)、局所的原因 (顔面形態、歯の形態・数の異常、舌の形態異常) を説明することができる。 (2) 全身的原因 (内分泌系疾患、栄養障害)、局所的原因 (歯の交換の錯誤、永久歯のう蝕・喪失、歯周疾患、不良習癖、鼻咽腔疾患、小帯の異常顎関節の異常、口腔腫瘍、外傷、不良修復物) を説明することができる。	教科書のP44-54を精読する (予習0.5時間、復習0.5時間)	認知 (想起)
8	11/7 (金) 2限	井上	ユニット 8 矯正診断 [講義]	1) 診断資料について理解する。	(1) 診断資料の種類、資料採得、資料の計測、分析診断法について説明することができる。	教科書のP55-75を精読する (予習0.5時間、復習0.5時間)	認知 (解釈)
9	11/14 (金) 2限	井上	ユニット 9 矯正力と組織反応 [講義]	1) 矯正力とその作用様式、組織反応を理解する。	(1) 適切な矯正力、歯の移動様式を説明することができる。 (2) 矯正力の作用様式 (大きさ、作用時間、作用、分布、作用方向) を説明することができる。 (3) 歯の移動に伴う組織反応を説明することができる。	教科書のP76-86を精読する (予習0.5時間、復習0.5時間)	認知 (想起)
10	11/21 (金) 2限	井上	ユニット 10 矯正用器材 [講義]	1) 矯正用材料・器機器材を理解する。	(1) 矯正治療に用いる材料の種類・特徴を説明することができる。 (2) 矯正治療に用いる器機・器具の種類と用途を説明することができる。	教科書のP142-173を精読する (予習0.5時間、復習0.5時間)	認知 (想起)
11	11/28 (金) 2限	井上	ユニット 11 矯正装置 (1) [講義]	1) 矯正装置の種類と構造を理解する。	(1) 固定式、半可徹式、可徹式矯正装置を説明することができる。	教科書のP87-108を精読する (予習0.5時間、復習0.5時間)	認知 (想起)
12	12/12 (金) 2限	井上	ユニット 12 矯正装置 (2) [講義]	1) 不正咬合と矯正装置の関係について理解する。	(1) 不正咬合別に用いる矯正装置を説明することができる。 (2) 機能的矯正装置、顎整形力を用いる装置、歯列弓拡大装置を説明することができる。	教科書のP36-43, P90-105を精読する (予習0.5時間、復習0.5時間)	認知 (解釈)
13	1/9 (金) 2限	井上	ユニット 13 保定 [講義]	1) 保定の意義と方法を理解する。	(1) 保定の必要性、種類を説明することができる。 (2) 保定装置 (器械的保定装置の種類と構造) を説明することができる。	教科書のP106-108, P199-201を精読する (予習0.5時間、復習0.5時間)	認知 (解釈)
14	1/16 (金) 2限	森下	ユニット 14 口腔機能と全身機能 [講義]	1) 口腔機能と全身機能の関連を理解する。	(1) 口腔機能 (摂食、嚥下) と姿勢、全身機能の関連を説明することができる。 (2) 全身機能を考慮した口腔衛生指導を説明することができる。	配布資料 (予習0.5時間、復習0.5時間)	認知 (想起)
15	1/23 (金) 2限	井上	ユニット 15 歯科衛生士の役割 [講義]	1) 矯正治療における診療補助と口腔衛生指導を理解する。	(1) 診療補助を説明することができる。 (2) 口腔衛生指導を説明することができる。	教科書のP8-12, P190-225を精読する (予習0.5時間、復習0.5時間)	認知 (解釈)

歯科予防処置論（講義）Ⅰ

開講時期： 1 年次前期
 授業時間数： 10 コマ；20 時間 1 単位
 受験資格要件： 2/3（7 コマ）以上の出席
 科目番号： DH011221
 評価責任者： 川尻 望
 授業担当者： 黒木まどか、井上庸子、森沙耶香
 川尻 望、高木未沙稀、常清美佑

1. 一般目標

将来、歯科衛生士として根拠や理論に基づいた口腔保健管理を実施するために必要な齲蝕予防法や歯周病予防法に関する情報や知識を理論的に分析・考察するための科学的思考力を修得する。

2. 教育方法

講義・演習・グループ討議を行う。大学病院および歯科医院において、歯科衛生士および歯科医師として患者の口腔保健管理に携わった実務経験を生かした実践的教育を行う。

3. 教育教材

教科書、プリント、DVD、PC+プロジェクター

4. 学修方法

授業は定刻に始まるので、遅刻は欠席になる。授業は予習していることを前提に開始する。レポート課題は締切期日を守ること。本授業を理解する上で、口腔衛生学Ⅰ、歯科予防処置実習Ⅰ等の知識が必要であり、本授業は口腔衛生学Ⅱ、歯周病治療学、歯科予防処置実習Ⅱの理解に不可欠である。

[単位修得に必要な授業外学修時間：25 時間]

5. 評価方法

[総括的評価] 定期試験：記述試験（80%）平常評価：レポート・観察記録・授業態度
 （発言・質疑・グループワークでの発言や協力等）（20%）

[フィードバック] 試験結果（成績）は、試験終了後に通知する。レポートは添削後返却を行い、場合によっては再提出を求める。

6. 教科書・テキスト

1. 「歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論」高坂利美等、医歯薬出版、2024 年
2. 「新フッ化物ではじめる虫歯予防」 筒井昭仁等、医歯薬出版、2019 年
3. 「歯科衛生学シリーズ 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」 井出吉信等、医歯薬出版、2023 年

7. 参考書

1. 「歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論」 合場千佳子等、医歯薬出版、2025 年
2. 「口腔衛生学-口腔保健統計を含む-第 4 版」 荒川浩久等、学建書院、2020 年
3. 「歯科衛生士国試対策集 2025 対応」 歯科衛生士国試対策研究会、クインテッセンス出版、2024 年

回	授業日	授業担当者	ユニット番号 ユニット項目 [授業方法]	学修目標（GIO）	行動目標（SB0s）	予習・復習項目 と必要時間	教育 目標 領域
1	4/9 (水) 1 限	黒木	ユニット 1 歯科予防処置総論 [講義]	1) 歯科衛生士法における歯科予防処置の範囲と業務内容を理解する。	(1) 口腔の健康管理に関心を持ち、歯科予防処置の概念と内容を述べるができる。 (2) 歯科予防処置の法的位置づけについて述べるができる。	教科書 1. の P2-5、P11-13 を精読する (2.5 時間)	認知 (想起)
2	4/10 (木) 1 限	黒木	ユニット 2 う蝕予防の基礎知識 1 (う蝕の原因と進行) [講義]	1) う蝕の原因と進行について理解する。	(1) う蝕の定義、分類、原因、プロセスについて説明することができる。	う蝕の分類、原因を記載すること (2.5 時間)	認知 (想起)

回	授業日	授業 担当者	ユニット番号 ユニット項目 [授業方法]	学修目標 (GIO)	行動目標 (SB0s)	予習・復習項目 と必要時間	教育 目標 領域
3	4/10 (木) 2 限	黒木	ユニット2 う蝕予防の基礎 知識2 (う蝕のリスク 評価と予防方 法) [講義]	1) う蝕のリスク評 価から対象者を把握 し、必要な予防法を 理解する。	(1) う蝕のリスクを判断 することができる。 (2) 対象者のリスクに合 わせた予防法の説明をする ことができる。	う蝕のリスク評価 を記載すること (2.5 時間)	認知 (想起)
4	4/11 (金) 2 限	森 常清	ユニット3 歯冠及び歯根の 形態理解 [講 義]	1) 正常な歯・歯周 組織と口腔の機能に ついて理解する。	(1) 正常な歯・歯周組織 と口腔の機能について図示 し、説明することができ る。 (2) 歯種の分類と名称を 理解し、記号に置き換える ことができる。 (2) 口腔内を観察し、ス ケッチやチャートに記載す ることができる。	教科書1「口腔の 基礎知識 P16-27」 を精読し、教科書 3「歯の形態 P72- 109」をまとめる (2.5 時間)	認知 (解釈) 情意 (受入) 精神運動 (模倣)
5 6	4/17 (木) 1.2 限	森 常清 黒木 井上 高木	ユニット3 歯冠及び歯根の 形態理解 [演 習]	1) 正常な歯・歯周 組織と口腔の機能に ついて理解する。	(1) 正常な歯・歯周組織 と口腔の機能について図示 し、説明することができ る。 (2) 歯種の分類と名称を 理解し、記号に置き換える ことができる。 (2) 口腔内を観察し、ス ケッチやチャートに記載す ることができる。	教科書1「口腔の 基礎知識 P16-27」 を精読し、教科書 3「歯の形態 P72- 109」をまとめる (5 時間)	認知 (解釈) 情意 (受入) 精神運動 (模倣)
7	4/21 (月) 1 限	川尻	ユニット4 歯周病予防の基 礎知識1 (歯周病の原因 と進行) [講義]	1) 歯周病の原因と 進行について理解す る。	(1) 歯周病の定義、分 類、原因、プロセスについ て説明することができる。	教科書1. の P28- 32を精読し、まと める (2.5 時間)	認知 (想起)
8	4/24 (木) 4 限	川尻	ユニット4 歯周病予防の基 礎知識2(歯周 病のリスク評価 と予防方法) [講義・AL]	1) 歯周病のリスク 評価から対象者を把 握し、必要な予防法 を理解する。	(1) 歯周病のリスクを判 断することができる。 (2) 対象者のリスクに合 わせた予防法を説明するこ とができる。	教科書1. の P37- 43を精読し、まと める (2.5 時間)	認知 (想起)
9	4/28 (月) 4 限	川尻	ユニット5 歯科用器材・器 具の取り扱い [講義]	1) 歯科用器材・器 具の取り扱いを理解 する。	(1) 適切な歯科用器材 (ミラー・探針・ピンセッ ト)の操作を説明できる。 (2) 歯科用器材(ミラ ー・探針・ピンセセット)の 管理を説明できる。	教科書1. の P139 ～144、P220～222 を精読する (2.5 時間)	認知 (想起)
10	5/15 (木) 1 限	川尻	ユニット6 手用スケーラー の種類と操作法 [講義]	1) 手用スケーラー の種類と操作法を理 解する。	(1) 手用スケーラーの種 類と特徴を説明できる。 (2) シックルスケーラー の操作方法を説明できる。	教科書1. の P 186-195を精読す る (2.5 時間)	認知 (想起)

歯科予防処置実習Ⅰ

開講時期： 1 年次前期
 授業時間数： 20 コマ；40 時間 1 単位
 受験資格要件： 4/5（16 コマ）以上の出席
 科目番号： DH011223
 評価責任者： 川尻 望
 授業担当者： 泉喜和子、後藤加寿子、黒木まどか、
 井上庸子、石井綾子、南レイラ、
 森沙耶香、川尻 望、高木未沙稀、
 常清美佑

1. 一般目標

本授業は将来、歯科衛生士として多様な対象者を支援するために必要な齲蝕予防法や歯周病予防法に関する情報や知識を、理論に基づき論理的分析・考察する能力を修得する。また、歯および口腔の疾患を予防し健康な状態を維持・増進するための問題発見・解決能力を修得し、歯科予防処置技術を以って解決するスキルを身につける。

2. 教育方法

講義・演習・実習・小グループ学習
 歯科医療機関において歯科医師あるいは歯科衛生士として診療に携わった実務経験を活かした実践的教育を行う。

3. 教育教材

教科書、プリント、配布資料、PC+プロジェクター、DVD、各種実習器材

4. 学修方法

授業は定刻に始まるので、遅刻は欠席になる。授業は予習していることを前提に開始する。レポート課題は締切期日を守ること。本授業を理解する上で、歯科診療補助論Ⅰ・実習Ⅰ、歯科保健指導論Ⅰ・実習Ⅰ、歯科予防処置論Ⅰ・実習Ⅱの理解に不可欠である。

[単位修得に必要な授業外学修時間：25 時間]

5. 評価方法

[形成的評価] ミニテスト、レポートなど
 [フィードバック] 不十分な部分についてコメントを付して返却し、場合によっては再提出を求める。
 [総括的評価] 記述試験（70%）・客観試験（ミニテスト）（10%）・課題レポート（10%）授業参加状況（予習・復習の実施状況等）（10%）
 [フィードバック] 採点后、試験成績を通知する。

6. 教科書・テキスト

1. 「歯科衛生シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論」第2版 医歯薬出版 2024 年
2. 「新フッ化物ではじめる虫歯予防」医歯薬出版 2019 年

7. 参考書

1. 「歯科衛生シリーズ 歯科診療補助論」医歯薬出版 2025 年
2. 「口腔衛生学-口腔保健統計を含む-第4版」学建書院 2020 年

回	授業日	授業担当者	ユニット番号 ユニット項目 [授業方法]	学修目標（GIO）	行動目標（SBOs）	予習・復習項目 と必要時間	教育 目標 領域
1 2	A 班 5/9 (金) 1.2 限 B 班 5/14 (水) 1.2 限	川尻 黒木 南 高木	ユニット1 歯科用器具の取り扱い [実習]	1) 歯科用器材・器具の取り扱いを理解する。	(1)適切な歯科用器材（ミラー・探針・ピンセット）の操作を実施できる。 (2) 歯科用器材（ミラー・探針・ピンセット）の管理を実施できる。	教科書 1. の「歯面の付着物・沈着物 P139-144」を精読し、受講後まとめる。 (2.5 時間)	認知 (想起) 情意 (受入) 精神運動 (模倣)

回	授業日	授業 担当者	ユニット番号 ユニット項目 [授業方法]	学修目標 (GIO)	行動目標 (SBOs)	予習・復習項目 と必要時間	教育 目標 領域
3	5/15 (木) 2 限	川尻 黒木 石井 森 高木 常清	ユニット2 手用スケーラーの基本 操作1 (机上訓練) シックルタイプスケー ラー・ミラー・探針 の操作 [実習]	1) 手用スケー ラーの種類と操作 法を理解する。 1) 手用スケー ラーの種類と操作 法を理解する。	(1)シックルスケーラーを適切に 操作できる。 (1)シックルスケーラーを適切に 操作できる。 (マネキン模型上)	教科書1.の 「手用スケー ラーの種類、把持 法、操作の基本 P186-201を精 読し、受講後、 部位別設定をま とめる。 (17 時間)	認知 (想起) 情意 (受入) 精神運動 (模倣)
4 5	5/16 (金) 1.2 限	川尻 井上 南 森 高木 常清	手用スケーラーの基本 操作2 (マネキン実習) シックルタイプスケー ラー・ミラー・探針 の操作 前歯部 [実習]				認知 (想起) 情意 (受入) 精神運動 (模倣)
6 7	5/22 (木) 1.2 限	川尻 黒木 石井 森 高木 常清	手用スケーラーの基本 操作3.4 (マネキン実習) シックルタイプスケー ラー・ミラー・探針 の操作 上顎臼歯部 [実習]				認知 (想起) 情意 (受入) 精神運動 (模倣)
8 9	5/28 (水) 1.2 限	川尻 黒木 井上 森 高木 常清	手用スケーラーの基本 操作5 (マネキン実習) シックルタイプスケー ラー・ミラー・探針 の操作 下顎臼歯部 [実習]				認知 (想起) 情意 (受入) 精神運動 (模倣)
10 11	6/6 (金) 1.2 限	川尻 黒木 南 森 高木 常清	手用スケーラーの基本 操作6.7 (マネキン実習) シックルタイプスケー ラー・ミラー・探針 の操作 上顎全顎 [実習]				認知 (想起) 情意 (受入) 精神運動 (模倣)
12 13	6/13 (金) 1.2 限	川尻 井上 南 森 高木 常清	手用スケーラーの基本 操作8 (マネキン実習) シックルタイプスケー ラー・ミラー・探針 の操作 下顎全顎1 [実習]				認知 (想起) 情意 (受入) 精神運動 (模倣)
19 20	A 班 6/27 (金) 1.2 限 B 班 6/27 (金) 3.4 限	川尻 南 森 高木 常清	手用スケーラーの基本 操作9.10 (マネキン実習) シックルタイプスケー ラー・ミラー・探針 の操作 実技試験 [実習]		実技試験後授業アンケート		認知 (想起) 情意 (受入) 精神運動 (模倣)
14 15	6/18 (水) 1.2 限	黒木 泉 石井 常清	ユニット3 口腔内における臨床 検査1 [講義・演習・グル ープ討議]	1) 口腔内の臨床 検査について理解 する。	(1)う蝕活動性試験の意義と目的 について説明できる。 (2)う蝕活動性試験の種類と特徴 について説明できる。 (3)う蝕活動性試験の術式を説明 できる。 (4)う蝕活動性試験を適切に実施 できる。 (5)カリオグラムを作成できる。	う蝕活動性試験 の目的、種類と 特徴および術式 を記載する。 (6 時間)	認知 (想起) 情意 (受入) 精神運動 (模倣)
16 17	6/19 (木) 1.2 限	黒木 後藤 石井 常清	口腔内における臨床 検査2 [講義・演習・グル ープ討議]				
18	6/23 (月) 4 限	黒木 常清	口腔内における臨床 検査3 (カリオグラム・ペリ オスクリーン) [講義・演習・グル ープ討議]				

歯科予防処置実習Ⅱ

開講時期： 1 年次後期
授業時間数： 20 コマ；40 時間 1 単位
受験資格要件： 4/5（16 コマ）以上の出席
科目番号： DH011224
評価責任者： 井上庸子
授業担当者： 馬場篤子、後藤加寿子、泉喜和子
黒木まどか、井上庸子、南レイラ
川尻 望、森沙耶香、常清 美佑
高木未沙稀

1. 一般目標

将来、歯科衛生士として多様な対象者を支援するために必要な齲蝕予防法や歯周病予防法に関する情報や知識を理論に基づき論理的分析・考察する能力を修得する。また、歯および口腔の疾患を予防して健康な状態を維持・増進するために問題発見・解決能力を修得し、歯科予防処置技術を以って解決するスキルを身につける。

2. 教育方法

講義・演習グループワーク

大学病院、歯科医院において、歯科衛生士および歯科医師として患者の口腔保健管理に携わった実務経験を生かした実践的教育を行う。

3. 教育教材

教科書、プリント、DVD、PC+プロジェクター 各種実習器材

4. 学修方法

授実習には、指定教科書と配布プリント等を必ず持参すること。下記予習項目に記載された教科書の該当箇所を読むなど、事前学修（予習）を怠らないこと。実習中は、重要点など記録すること。実習後は、アクティブラーニングとして事後学習（復習）を行い、技術を修得すること。レポート課題は、締め切り期日を守ること。授業は定刻に始まるので遅刻は欠席になる。本授業を理解する上で、口腔解剖学、口腔生理学、歯科予防処置論Ⅰ・実習Ⅰ、保健指導論Ⅰ・実習Ⅰの知識が必要であり、本授業は歯周病治療学、歯科予防処置論Ⅱ・実習Ⅲ・実習Ⅳ、歯科保健指導論Ⅱ・実習Ⅱ・実習Ⅲの理解に不可欠である。

[単位修得に必要な授業外学修時間：13.5 時間]

5. 評価方法

[形成的評価] ミニテスト、レポート

[フィードバック] レポートは、不十分な部分についてコメントを付して返却し、場合によっては再提出を求める。ミニテストは次の回の講義時に答案を返却し、模範解答を示す。

[総括的評価] 記述試験（80%）・実技試験（10%：ユニット1）、授業参加状況（発問・質疑・グループワークでの発言や協力等授業への貢献度）（10%）

[フィードバック] 以上を総合的に評価し、定期試験終了後に通知する。

6. 教科書・テキスト

1. 『歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論』第2版 医歯薬出版 2024 年
2. 『新フッ化物ではじめる虫歯予防』医歯薬出版 2019 年
3. 『口腔衛生学-口腔保健統計を含む-第4版』学建書院 2022 年

7. 参考書

1. 『最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論』第2版 医歯薬出版 2025 年
2. だれでもバッチリ撮れる！口腔内写真撮影 歯科衛生士臨床のための Quint study club クインテッセンス出版株式会社 2008 年

回	授業日	授業 担当者	ユニット番号 ユニット項目 [授業方法]	学修目標 (GIO)	行動目標 (SBOs)	予習・復習項目 と必要時間	教育 目標 領域
1	9/18 (木) 3 限	黒木 南 川尻 森 常清 高木	ユニット1 手用スケーラー の基本操作1 (マネキン実習) キュレットスケーラー [講義]	1) キュレットスケーラー スケーラーの 種類と操作法を理 解する。	(1) キュレットスケーラー の種類と特徴を説 明できる。 (2) キュレットスケーラー の操作方法を説明 できる。	教科書 1 の「手用スケー ラー」P. 186-190、 「キュレット スケー ラー」P. 192-195、 「部位別操作」P. 196- 201、「ミラーテクニ ック」P. 220-222、を 精読する。 (0. 5時間)	認知 (想起) 情意 (受入)
2	9/18 (木) 4 限	黒木 泉 南 川尻 常清 高木	ユニット1 手用スケーラー の基本操作2 (マネキン実習) キュレットスケーラー 下顎前歯部 [実習]	1) キュレットスケーラー スケーラーの 種類と操作法を理 解する。	(1) キュレットスケーラー の種類と特徴を説 明できる。 (2) キュレットスケーラー の操作方法を説明 できる。	教科書 1 の「キュレ ット スケーラー」 P. 192-195、「部位別 操作」P. 196、「ミラ ーテクニック」P. 220- 222をまとめる。 (1時間)	認知 (想起) 情意 (受入) 精神運動 (模倣)
3	9/19 (金) 3 限	黒木 泉 南 川尻 常清 高木	ユニット1 手用スケーラー の基本操作3 (マネキン実習) キュレットスケーラー 上顎前歯部 [実習]				認知 (想起) 情意 (受入) 精神運動 (模倣)
4	9/19 (金) 4 限	黒木 泉 南 川尻 常清 高木	ユニット1 手用スケーラー の基本操作4 (マネキン実習) キュレットスケーラー 左下臼歯部 [実習]				認知 (想起) 情意 (受入) 精神運動 (模倣)
5	9/25 (木) 3 限	黒木 井上 南 川尻 常清 高木	ユニット1 手用スケーラー の基本操作5 (マネキン実習) キュレットスケーラー 右下臼歯部 [実習]				認知 (想起) 情意 (受入) 精神運動 (模倣)
6	9/30 (火) 3 限	黒木 井上 南 川尻 常清 高木	ユニット1 手用スケーラー の基本操作6 (マネキン実習) キュレットスケーラー 左上臼歯部 [実習]				認知 (想起) 情意 (受入) 精神運動 (模倣)
7	9/30 (火) 4 限	黒木 井上 南 川尻 常清 高木	ユニット1 手用スケーラー の基本操作7 (マネキン実習) キュレットスケーラー 右上臼歯部 [実習]				認知 (想起) 情意 (受入) 精神運動 (模倣)
8	10/3 (金) 3 限	黒木 泉 南 川尻 常清 高木	ユニット1 手用スケーラー の基本操作 8 (マネキン実習) キュレットスケーラー 全顎1 [実習]				認知 (想起) 情意 (受入) 精神運動 (模倣)
9	10/3 (金) 4 限	黒木 泉 井上 南 川尻 常清 高木	ユニット1 手用スケーラー の基本操作9 (マネキン実習) キュレットスケーラー 全顎2 [実習]				認知 (想起) 情意 (受入) 精神運動 (模倣)

回	授業日	授業 担当者	ユニット番号 ユニット項目 [授業方法]	学修目標 (GIO)	行動目標 (SBOs)	予習・復習項目 と必要時間	教育 目標 領域
10	10/28 (火)	黒木 川尻 常清 高木	実技試験				
11	10/30 (木) 3・4限						
12	10/17(金)	井上 後藤 黒木 南 川尻 森 常清 高木	ユニット2 口腔内カメラ [実習]	1) 口腔内規格写真用 カメラの取り扱い を理解する。 2) 顔面・口腔内規格 写真について理解 する。	(1) 顔面・口腔内写真の 撮影と管理を実施で きる。 (2) 顔面・口腔内規格写 真について説明でき る。	教科書1 のP.168- 170、参考書1のP.92- 95 参考書3 のP.16-35を 精読する。 受講後、撮影した写真 を並べ資料としてまと める。 (1時間)	認知 (想起) 情意 (受入) 精神運動 (模倣)
13	10/21(火)						
	10/22(水) 10/23(木) 3・4限						
14	10/24(金)	井上 泉 後藤 黒木 石井 南 川尻 森 高木					認知 (解釈) 情意 (受入) 精神運動 (模倣)
15	10/28(火)						
	10/30(木) 10/31(金) 3・4限						
16	11/25 (火) 3限	馬場 高木	ユニット3 フッ化物応用1 フッ化物洗口 [実習]	1) フッ化物洗口につ いて理解する。	(1) フッ化物によるう蝕 予防効法を説明でき る。 (2) フッ化物洗口につ いて目的、方法を説明 できる。 (3) フッ化物洗口を実施 できる。	フッ化物洗口法の目 的、方法を記載するこ と 教科書2 P.13-28 教科書1 P.241-247 (1時間)	認知 (解釈) 情意 (受入) 精神運動 (模倣)
17	11/25 (火) 4限	馬場 高木	ユニット4 フッ化物応用2 フッ化物歯面塗 布 [講義]	1) フッ化物歯面塗布 について理解す る。	(1) フッ化物によるう蝕 予防効法を列記でき る。 (2) フッ化物歯面塗布に ついて目的、方法を 列記できる。	教科書1 の P.233-241、P.253-258 を精読する (0.5時間)	認知 (解釈) 精神運動 (模倣)
18	12/5 (金) 2・3・4限	馬場 川尻 森 高木 常清	ユニット4 フッ化物応用2 フッ化物歯面塗 布 [実習]		(1) フッ化物によるう蝕 予防効法を説明でき る。		
19					(2) フッ化物歯面塗布に ついて目的、方法を 説明できる。		
20					(3) フッ化物歯面塗布を 実施できる。 授業評価アンケート実施		

歯科保健指導実習Ⅰ

開講時期： 1 年次前期
授業時間数： 15 コマ；30 時間 1 単位
受験資格要件： 4/5（12 コマ）以上の出席
科目番号： DH011235
評価責任者： 南レイラ
授業担当者： 井上 庸子、石井 綾子、川尻 望
森 沙耶香、高木未沙稀、常清 美佑
南 レイラ

1. 一般目標

将来、歯科衛生士として個人を対象に、根拠や理論に基づいた口腔保健管理を行うために必要な情報や知識を収集し、論理的に分析、考察するために必要な科学的思考力を修得する。

2. 教育方法

講義・演習・相互演習・グループワーク・発表等のアクティブラーニングを行う。
病院歯科開業医等において、歯科衛生士として行った歯科保健指導の実務経験を生かした実践的教育を行う。

3. 教育教材

教科書、プリント、配布資料、PC+プロジェクター

4. 学修方法

授業は定刻に始まるので、遅刻は欠席となる。授業には、指定教科書と配布プリント等を必ず持参すること。授業を受講するに当たり、下記予習項目に記載の学修を行うこと。また、授業後は、配布プリント等で講義内容の確認をその日のうちに行うこと。事前・事後学修（予習・復習）を怠らず、また、授業中は真摯に臨み、理解できないことはその場で質問を行い解決すること。グループワークや発表等のアクティブラーニングについては、グループで協力して資料を作成し、発表に備えること。レポート課題を提示された場合には、期日までに仕上げる。

本授業を理解する上で、口腔衛生学、口腔微生物学、口腔組織学等の知識が必要であり、本授業は主要 3 科目の理解に不可欠である。
[単位修得に必要な授業外学修時間：15 時間]

5. 評価方法

[形成的評価] ミニテスト、レポート

[フィードバック] 不十分な箇所にはコメントを加え、再提出を求める場合もある。基本的にミニテストは、前回学修した内容の復習として授業開始直後に、また、学修した内容の確認として授業終了時に実施する。内容の振り返りは、その時間、または、次の回の講義時に行う。

[総括的評価] 定期試験：記述試験（70%）、ミニテスト・レポート（10%）、観察記録・授業態度（発問・質疑・グループワークでの発言や協力等）（20%）

[フィードバック] 試験結果（成績）は試験終了後に通知する。

6. 教科書・テキスト

1. 歯科衛生シリーズ 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」第 2 版 医歯薬出版 2024 年

7. 参考書

1. 歯科衛生シリーズ 「歯科診療補助論」第 2 版 医歯薬出版 2025 年

2. 「歯科衛生士テキスト 口腔衛生学-口腔保健統計を含む- 第 4 版」学建書院、2018 年

3. 歯科衛生シリーズ 「歯科材料」 医歯薬出版、2023 年

4. 「歯科衛生士国試対策集 2025 年対応」 歯科衛生士国試対策研究会編、クインテッセンス出版、2024 年

5. 「歯科衛生学辞典」第 2 版 永末書店、2024

回	授業日	授業 担当者	ユニット番号 ユニット項目 〔授業方法〕	学修目標 (G10)	行動目標 (SB0s)	予習・復習項目 と必要時間	教育 目標 領域
1	4/11 (金) 1 限	南	ユニット 1 定義と法的な位 置づけ 〔講義〕	1) 歯科保健指導の 定義と歯科衛生士の 役割について理解す る。	(1) 歯科保健指導の内容につ いて述べるができる。 (2) 生活行動と保健行動の違い について説明できる。 (3) 歯科保健指導で果たす歯科 衛生士の役割を説明できる。 (4) 個人・集団に対する歯科保 健指導技術について説明でき る。	教科書 1. P2-8 を精読する。 (1 時間)	認知 (想起) 態度 (受入)
2	4/17 (木) 2 限	南	ユニット 2 歯科保健指導 実施のための 基礎知識 1 行動変容 〔講義〕	1) 行動変容のステ ップを理解する。	(1) 行動変容に関連する理論に ついて説明できる。 ・健康信念モデル ・社会的認知理論 ・変化のステージモデル	教科書 1. P88-98 を精読する。 教科書 2. P10-22 を精読する。 (1 時間)	認知 (想起) 態度 (受入)
3 4	4/23 (水) 1・2 限	南	ユニット 4 各種口腔清掃 用具の基礎知 識 1 〔講義・演習〕	1) 手用歯ブラシお よび歯磨剤について 理解する。	(1) 歯ブラシの種類と特徴につ いて説明できる。 ・手用歯ブラシ ・電動歯ブラシ、音波ブラ シ、超音波ブラシ (2) 歯磨剤について説明でき る。 ・フッ化物配合歯磨剤 (3) 洗口剤の基本的使用法並び に効果的使用法について説明 できる。	教科書 1. P268- 278、243-249を精 読する (2 時間)	認知 (想起) 情意 (受入)
5	4/28 (月) 2 限	南	ユニット 4 各種口腔清掃 用具の基礎知 識 3 〔講義・演習〕	1) 補助的清掃用具 について理解する。	(1) 歯ブラシの種類と特徴、適応 について説明できる。 ・デンタルフロス ・歯間ブラシ ・タフトブラシ	教科書 1. P278-281 を精読する (1 時間)	認知 (想起) 情意 (受入)
6 7	4/30 (水) 1・2 限	南	ユニット 5 各種口腔清掃 用具の操作法 1 〔演習・AL〕	1) 各種ブラッシング 法の特徴を理解す る。 2) 補助的清掃用具 の操作法を理解す る。	(1) 各種ブラッシング法の特徴に ついて説明できる。 ・毛先を使用する方法 ・脇腹を使用する方法 (2) 各種補助的清掃用具を操作 できる。 ・デンタルフロス ・歯間ブラシ ・タフトブラシ	教科書 1. P270-278 を精読する。 参考書 2. P39-42を 精読する。 (2 時間)	認知 (想起) 情意 (受入)
8 9	6/12 (木) 1・2 限	南 井上 石井 高木 常清	ユニット 6 歯科衛生計画 の手法 1 口腔清掃法の 指導の要点 〔演習・AL〕	1) 各種ブラッシン グ法ならびに補助的 清掃用具の操作法を 伝える技術を理解す る。	(1) 各種ブラッシング法なら びに補助的清掃用具の操作法 について指導案を用いてプレ ゼンができる。 ・毛先を使用する方法 ・脇腹を使用する方法 ・各種補助的清掃用具	ユニット 5 の内容 をまとめる (2 時間)	態度 (反応) 情意 (受入)
10 11	6/25 (水) 1.2 限	南 石井 川尻 高木	ユニット 6 歯科衛生計画 の手法 2 口腔清掃法の 指導の要点 〔演習〕	1) 各種ブラッシン グ法ならびに補助的 清掃用具の操作法と 操作上の注意点を理 解する。	(1) 各種ブラッシング法なら びに補助的清掃用具の操作す ることができる。 ・毛先を使用する方法 ・脇腹を使用する方法 ・各種補助的清掃用具 (2) 各種ブラッシング法なら びに補助的清掃用具の操作上 の注意点を説明することがで きる。	ユニット 5 の内容 をまとめる。 ユニット 6 の指導 案の内容をまと める。 (2 時間)	認知 (想起) 精神運動 (模倣) 情意 (内面化)
12 13	6/26 (木) 1.2 限	南 石井 川尻 森 高木 常清	ユニット 6 歯科衛生計画 の手法 口腔清掃法の 実施 〔実習〕	1) 各種ブラッシン グ法ならびに補助的 清掃用具の操作法と 操作上の注意点を理 解する。	(1) 各種ブラッシング法なら びに補助的清掃用具の操作す ることができる。 ・毛先を使用する方法 ・脇腹を使用する方法 ・各種補助的清掃用具 (2) 各種ブラッシング法なら びに補助的清掃用具の操作上 の注意点を説明することがで きる。	ユニット 5 の内容 をまとめる。 ユニット 6 の指導 案の内容をまと める。 (2 時間)	認知 (解釈) 精神運動 (コントロール) 情意 (受入)

回	授業日	授業 担当者	ユニット番号 ユニット項目 [授業方法]	学修目標 (GIO)	行動目標 (SB0s)	予習・復習項目 と必要時間	教育 目標 領域
14	7/8 (火) 3 限	南	ユニット 2 歯科保健指導 実施のための 基礎知識 2 食生活指導 [講義]	1) 食生活指導の基 礎を理解する。 ・食生活および食習 慣の把握 ・咀嚼と食品	(1) 近年の食生活の特徴と問題 点を述べることができる。 ・肥満者の増加 (BMI による 評価) ・適切な脂肪、塩分摂取量 ・野菜・食物繊維、カルシウ ムの不足 (2) 栄養素の働きを説明できる。	教科書1. P44-67 を精読する。 教科書2. P4-10 を精読する。 (1 時間)	認知 (想起) 情意 (受入)
15	7/10 (木) 4 限	南	ユニット 2 歯科保健指導 実施のための 基礎知識 3 食生活指導 [講義]	1) 食品とう蝕の関 係性を理解する。	(1) 砂糖とう蝕の関連性を説明で きる。 ・Keyes の3つの輪、Newbrun の4つの輪 (2) 咀嚼の仕組みと効用を説明 できる。 (3) 代用甘味料について分類でき る。 (4) う蝕予防のための食品摂取 法について提案できる。	教科書 1. P67-84 を精読する。 教科書2. P26を精 読する。 参考書2. P44-47、 P52-53を精読する (1 時間)	認知 (想起) 情意 (受入)

歯科保健指導実習Ⅱ

開講時期： 1 年次後期
 授業時間数： 15 コマ：30 時間 1 単位
 受験資格要件： 4/5 (12 コマ) 以上の出席
 科目番号： DH011236
 評価責任者： 石井 綾子
 担当教員： 石井 綾子、南 レイラ

1. 一般目標

将来、歯科衛生士として対象者が抱える問題を発見・解決するための根拠や理論に基づいた口腔保健管理の手法を活用し、対象者に合わせた口腔の健康管理が実践できる能力を修得する。なお初年時教育として、レポートの書き方、実習での心構えなどの学修を行う。

2. 教育方法

講義・演習・実習・グループワーク・アクティブラーニング、発表を行う。
 歯科医療機関において歯科衛生士として診療に携わった実務経験を生かした実践教育を行う。

3. 教育教材

教科書、プリント、DVD、PC、プロジェクター

4. 学修方法

授業には、指定教科書と配布プリント等を必ず持参すること。下記予習項目に記載された教科書の該当箇所を読むなど、事前学修（予習）を怠らないこと。授業中はノートを取る。授業後は、教科書や配布プリント等で講義内容の確認をその日のうちに行うこと。レポート課題は、締め切り期日を守ること。授業は定刻に開始するので遅刻は欠席になる。本授業を理解するうえで、歯科予防処置論、口腔衛生学、解剖学、保存修復学の理解が必要である。

【単位修得に必要な授業外学修時間：15時間】

5. 評価

[形成的評価] レポート 保健指導用媒体資料
 [フィードバック] 不十分な部分についてコメントを行う。必要に応じて再提出を求める。
 [総括的評価] 記述試験 (60%) レポート・授業態度・実習中の質問に対する発言や参加 (40%)
 [フィードバック] 以上を総合的に評価し、定期試験終了後に通知する。
 尚、詳細は各ユニットの初日に説明する。

6. 教科書・テキスト

1. 歯科衛生学シリーズ 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」第2版 医歯薬出版 2024年

7. 参考書

1. 歯科衛生学シリーズ 「歯科診療補助」第2版 医歯薬出版 2025年
 2. 歯科衛生学シリーズ 歯科材料学 医歯薬出版 2023年
 3. 「歯科衛生士国試対策集 2026年対応」 歯科衛生士国試対策研究会編、クインテッセンス出版 2025

回	授業日	授業 担当者	ユニット番号 ユニット項目 [授業方法]	学修目標 (G10)	行動目標 (SB0s)	予習・復習項目 と必要時間	教育 目標 領域
1 2	9/26 (金) 3.4 限目	石井	オリエンテーショ ン ユニット1-1 歯科衛生過程の中 の歯科衛生アセス メントの手法 講義・演習	1) 歯科衛生アセス メントのための情 報収集と情報処理 を理解する。	(1) 情報収集の目的や得られる 情報を説明できる。 ・ 情報収集の目的と項目 ・ 情報収集のポイント (2) 医療面接の目的を説明でき る。 ・ 問診と医療面接の違い ・ 医療面接の目的 ・ 治療への動機づけ	教科書 1. P77- 82を精読し、情報 収集の項目、共感 的態度、傾聴につ いて調べる。 (2時間)	認知 (想起) 精神運動 (模倣)

回	授業日	授業 担当者	ユニット番号 ユニット項目 [授業方法]	学修目標 (G10)	行動目標 (SBOs)	予習・復習項目 と必要時間	教育 目標 領域
3 4	10/9 (木) 3.4 限目	石井	ユニット2-1 歯科衛生過程の中 の歯科衛生診断の 手法 講義・演習	1) う蝕と歯周病の リスクを理解す る。 2) リスクを基にし た指導の立案法を 理解する。	(1) う蝕と歯周病のリスクに応 じた指導が立案できる。 指導案の作成 ・う蝕の成り立ちと予防法 ・歯周病の成り立ちと予防法	教科書1. P25- 41-89を精読し、 う蝕と歯周病につ いてまとめる。 (1時間)	認知 (早期) 精神運動 (模倣)
5 6	11/9 (木) 3.4 限目	石井	ユニット3-1 歯科衛生アセスメ ントの手法 口腔内の評価法 1.2 講義・演習	1) 口腔内の汚れと 歯肉の炎症の評 価法を理解する。 2) ブラークコント ロールの手法を 理 解する。	(1) ブラークの付着状態につい ての各種評価法を説明できる。 ・OHI、OHI-S・PCR (2) 歯肉の炎症の評価法を説明で きる。・PMA 口腔清掃状態の指標を説明で きる。 (PCR、OHI、OHI-S) (3) 汚れの染色について説明で きる。 (4) う蝕経験に関する指標につい て説明できる。 (5) 自分の口腔内を観察でき る。 (6) 染色剤の取り扱いを実施で きる。 (7) 自分の口腔清掃状況を評価 できる。 (8) 自分の口腔清掃状況を客観 評価できる。	教科書1. P101- 107をまとめる ユニット3-1の評 価法を理解する。 (3時間)	認知 (解釈) 精神運動 (模倣)
7 8	11/11 (火) 3.4 限目	石井 南	ユニット3-2 歯科衛生診断の手法 口腔衛生に関わる 指導 講義・演習	1) ブラークの付着 状況に合わせたブ ラッシング法を理 解する。 2) 各種歯ブラシ・ 補助的清掃用具を 使用したブラッシ ングを実践する。	(1) 口腔内を観察できる。 (2) 染色剤の取り扱いを実施で きる。 (3) 口腔内状況に合わせたブラ ッシングを実践できる。	各種ブラッシング 法を理解する。 (2時間)	認知 (解釈) 精神運動 (模倣)
9 10 11	11/19 (火) 2.3.4 限 目	石井	ユニット4 歯科衛生診断およ び介入の手法 3人1組による相互 実習	1) 対象者の口腔内 を理解する。 2) 口腔保健管理に おけるセルフケア とプロフェッショ ナルケアを理解す る。	(1) 患者の口腔内を観察でき る。 (2) 患者の口腔清掃状況を把握 できる。 (口腔内写真含む) (3) 患者のブラッシング法を観 察できる。 (4) 患者の口腔清掃状況を評価 できる。	これまでに学んだ 内容をまとめる。 (3時間)	情意 精神運動 (コント ロール)
12 13	11/28 (金) 3 限目 12/12 (金) 3 限目	石井	ユニット5 歯科衛生アセスメ ントの手法 口腔からの情報分 析 講義・演習	1) データの評価方 法を理解する。 2) 口腔保健管理の ための記録の作成 法を理解する。	(1) 口腔内観察・口腔清掃状況 などの情報から患者にあった口 腔衛生指導案を作成できる。	評価に必要なデー タを揃える。 (2時間)	精神運動 (コント ロール)
14 15	1/16 (金) 3.4 限目	石井	ユニット6 歯科衛生介入 実習	1) 口腔内の変化を 理解する。	(1) 前回収集したデータと比較 して、変化を述べることができ る。 (2) 口腔衛生指導案を元に、口 腔衛生指導を行うことができ る。	再評価の結果をま とめる。 (2時間)	精神運動 (コント ロール)

歯科診療補助論（講義）Ⅰ

開講時期： 1 年次前期
 授業時間数： 10 コマ；20 時間 1 単位
 受験資格要件： 2/3（7 コマ）以上の出席
 科目番号： DH011241
 評価責任者： 森 沙耶香
 授業担当者： 泉 喜和子、後藤加寿子、井上 庸子、
 石井 綾子、南 レイラ、川尻 望、
 高木未沙稀、常清 美佑、森 沙耶香

1. 一般目標

将来、多様な対象者を支援し、高度な歯科医療に対応するために、専門職として歯科診療の補助に関する必要な知識・技術を修得する態度、および論理的思考の基礎を修得する。

2. 教育方法

講義・演習・グループワーク

歯科医療機関において歯科医師あるいは歯科衛生士として診療に携わった実務経験を生かした実践教育を行う。

3. 教育教材

教科書、プリント、PC+プロジェクター

4. 学修方法

授業は定刻に始まるので、遅刻は欠席となる。授業には、指定教科書と配布プリント等を必ず持参すること。下記予習項目に記載された教科書の該当箇所を読むなど、事前学修（予習）を怠らないこと。授業中はノートを取る。授業後は、教科書や配布プリント等で講義内容の確認をその日のうちに行うこと。レポート課題は、締め切り期日を守る。

本授業を理解する上で、歯周保存修復・歯内治療学、歯科補綴学等の知識が必要であり、本授業は歯科予防処置実習、歯科診療補助実習、歯科保健指導実習の理解に不可欠である。

[単位修得に必要な授業外学修時間：25 時間]

5. 評価方法

〔形成的評価〕確認テスト、レポートなど

〔フィードバック〕不十分な部分についてコメントを付して返却し、場合によっては再提出を求める。確認テストは模範解答を示す。

〔総括的評価〕記述試験（80%）・客観試験（確認テスト）・課題レポート・観察記録・授業参加状況（発問・質疑・グループワークでの発言や協力等）（20%）

〔フィードバック〕試験結果（成績）は試験終了後に通知する。尚、詳細は講義の中で説明する。

6. 教科書・テキスト

1. 「歯科衛生学シリーズ歯科診療補助論 第2版」 医歯薬出版 2025 年

7. 参考書

1. 「歯科衛生学シリーズ歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」 医歯薬出版 2024 年

2. 「歯科衛生学シリーズ歯科衛生学総論」 医歯薬出版 2023 年

3. 「歯科衛生士国試対策集 2025 年対応」 歯科衛生士国試対策研究会編 クインテッセンス出版 2024 年

4. 「歯科衛生学シリーズ 歯科器機」 医歯薬出版 2023 年

5. 「歯科衛生学シリーズ 歯科材料学」 医歯薬出版 2023 年

回	授業日	授業 担当者	ユニット番号 ユニット項目 [授業方法]	学修目標（GIO）	行動目標（SBOs）	予習・復習項目 と必要時間	教育 目標 領域
1	4/9 (水) 2 限	南	ユニット1 診療補助総論 定義と法的な位置 づけ [講義]	1) 歯科診療補助の 概念と歯科衛生士法に おける法的位置づけに ついて理解する。	(1) 歯科診療補助の業務内容と法的 解釈を説明できる。 (2) 診療の補助で行う医療職種とそ の業務について説明できる。 (3) 保険医療制度での補助行為に関 する業務概要について説明でき る。	教科書1のP2-6 を精読する (2.5 時間)	認知 (想起)

回	授業日	授業 担当者	ユニット番号 ユニット項目 [授業方法]	学修目標 (GIO)	行動目標 (SBOs)	予習・復習項目 と必要時間	教育 目標 領域
2	4/16 (水) 1限	井上	ユニット 2 医療安全と感染予 防 1 感染予防対 策 [講義]	1) 医療安全と感染 予防対策について理 解する。	(1) 医療安全の概念とその対策を説 明できる。 (2) インシデント・アクシデント報 告の目的を具体的に述べることが できる。 (3) 歯科医療における感染症の概念 とその対策を説明できる。 (4) スタンダードプレコーションを 具体的に説明できる。	教科書 1 の P7- 12、P 18-28 を精読する (2.5 時間)	認知 (想起)
3	4/16 (水) 2限	井上	ユニット 3 医療安全と感染予 防 2 医療廃棄物 の取り扱い [講義・グルー プワーク]	2) 医療廃棄物の取り 扱いを理解する。	(1) 医療廃棄物の分類と分別を説明 できる。	教科書 1 の P44- 49 を精読する (2.5 時間)	認知 (解釈)
4	4/24 (木) 1 限	森	ユニット 4 医療安全と感染予 防 3 滅菌・消毒 [講義]	1) 滅菌と消毒を理 解する。	(1) 滅菌と消毒の定義が説明でき る。 (2) 滅菌、消毒、洗浄の方法につ いて説明できる。	教科書 1 の P32- 43 を精読する (3 時間)	認知 (想起)
5	4/24 (木) 2 限	森	ユニット 5 医療安全と感染予 防 4 薬品・歯科 材料の管理 [講義]	1) 歯科薬品や材料 の管理を理解する。	(1) 歯科薬品や材料の適切な管理を 説明できる。	教科書 1 の P 96- 98 を精読する (3 時間)	認知 (解釈)
6	5/13 (火) 3 限	高木	ユニット 3 診療室で扱う歯科 材料 7 (各種合着材・接 着剤) [講義]	1) 各種合着材や接着 剤の特徴、種類、用 途、操作法を理解す る。	(1) 合着材や接着剤の特徴、種類、 用途、管理を説明できる。 (2) 合着材や接着剤の練和を実施で きる。 (3) 仮着材の特徴、種類、用途を説 明できる。 (4) 仮着材の練和を実施できる。	教科書 1 の P 222-233 を精読 する。 参考書 7 の P79 ～81.85～89 を 精読する (2.5 時間)	認知 (解釈)
7	5/21 (水) 1限	森 泉 後藤 石井 常清	ユニット 7 診療室で扱う歯科 材料 (印象材) [講義]	1) 印象材の特徴、 種類、用途を理解す る。	(1) 印象材の特徴、種類、用途を説 明できる。	教科書 1 の P 192-202 を精読 する 参考書 4 の P43-48 を精読する (3 時間)	認知 (想起) 精神運動 (模倣)
8	A 班 7/10 (木) 1 限 B 班 7/11 (金) 1 限	高木 井上 南 川尻 森	ユニット 6 衛生材料の取り扱 い (綿栓作成) [講義・演習]	1) 根管処置用器材 の取り扱いを理解す る。 2) 衛生材料の取り扱 いを理解する。	(1) 歯科衛生材料について概説でき る。 (2) 根管処置用器材の取り扱いにつ いて説明できる。 ブローチ綿栓を作製できる。	参考書 4 の P92- 102 を精読する (3 時間)	認知 (解釈) 精神運動 (模倣)
9 10	7/17 (木) 1.2 限	南 森 井上 川尻 高木 常清	ユニット 1 医療面接 1 患者誘導から医療 面接まで [講義]	1) 歯科診療室にお ける患者対応を理解 する。	(1) 歯科診療室における患者対応を 実施できる。 (2) 医療面接の目的を説明できる。 (3) 医療面接を実施できる。	教科書 1 の P57- 62 を精読する。 参考書 1 の P 121-127 を精読 する。 (3 時間)	認知 (解釈) 精神運動 (模倣)

歯科材料学

開講時期： 1年次前期
 授業時間数： 15コマ；30時間1単位
 受験資格要件： 2/3（10コマ）以上の出席
 科目番号： DH011243
 評価責任者： 古野 みはる
 授業担当者： 川口 稔

1. 一般目標

本授業では臨床で使用するさまざまな歯科材料について、その所要性質や物理・化学的性質を学ぶ。これらの基礎知識を修得することによって、臨床の場における適切な歯科材料の取り扱い方法を論理的に分析・考察する科学的思考力を修得する。そして習得内容に立脚した専門的知識を発展させ多職種との協働・連携が可能な歯科衛生士のリーダーを目指す。

2. 教育方法

講義を行う。可能な限り実際の材料や器具を用いて示説を行う。また必要に応じてアクティブラーニング・小グループ学習・討議などを行う。

3. 教育教材

教科書、配布プリント、PC+プロジェクター

4. 学修方法

毎回視覚素材を含むプリントを配布するので、各自で授業内容を記録したノートと相互活用すること。本授業では多くの種類の材料に関して解説するため、必ず前回の授業内容を復習の上、次回の授業に臨むこと。さらに授業終了時に次回の授業内容の概要を説明するので、次回の授業では、指示された内容に関する予習をしていることを前提に開始する。本授業は歯科診療補助実習の理解に不可欠である。
 [単位修得に必要な授業外学修時間：60時間]

5. 評価方法

[形成的評価] ミニテスト

[フィードバック] ミニテストの結果に基づき、理解が不十分な部分についてコメントを付して返却する。

[総括的評価] 記述試験（80%）・客観試験（ミニテスト）（10%）・授業参加状況（予習・復習の実施状況等）（10%）

[フィードバック] 試験結果のフィードバックは採点后に解答例を開示し、今後の関連科目の学習に必要な注意点などを掲示する。

6. 教科書・テキスト

1. 「歯科衛生学シリーズ 歯科材料」医歯薬出版 2023 年

7. 参考書

1. 「イラストと写真でわかる歯科材料の基礎」第5版 永末書店 2025 年

回	授業日	授業担当者	ユニット番号 ユニット項目 [授業方法]	学修目標（GIO）	行動目標（SBOs）	予習・復習項目 と必要時間	教育 目標 領域
1	4/11 (金) 3 限	川口	ユニット1 歯科材料の 種類 [講義]	1) 金属、無機、有機材料 の違いを理解する。	(1) 金属材料の特徴を説明 できる。 (2) 無機材料の特徴を説明 できる。 (3) 有機材料の特徴を説明 できる。	それぞれの材料の特徴を比較 してまとめること（4時間）	認知 (想起)
2	4/18 (金) 3 限	川口	ユニット2 歯科材料の 基本性質 (1) [講義]	1) 材料の力学的性質を理解 する。 2) 材料の物理的性質を理解 する。	(1) 材料の機械的性質を説 明できる。 (2) 材料の比重や熱的性質 特徴を説明できる。	材料の機械的性質と熱的性質 の特徴を表す用語についてま とめること（2時間） 化学的性質について（2時間）	認知 (想起)
3	4/25 (金) 3 限	川口	ユニット3 歯科材料の 基本性質 (2) [講義]	1) 材料の化学的性質を理解 する。 2) 材料の生物学的性質を理 解する。	(1) 材料の硬化反応や腐食 を説明できる。 (2) 口腔内での安全性を説明 できる。	材料の化学的性質と生物学的 性質の特徴を表す用語につい てまとめること（2時間） 印象材について（2時間）	認知 (想起)

回	授業日	授業 担当者	ユニット番号 ユニット項目 [授業方法]	学修目標 (GIO)	行動目標 (SBOs)	予習・復習項目 と必要時間	教育 目標 領域
4	5/2 (金) 3 限	川口	ユニット4 印象材 (1) [講義] [実習]	1) 印象材の種類を理解する。 2) ハイドロコロイド印象材の特徴を理解する。 印象採得についてグループで討議して適切な操作を理解する。	(1) アルジネート印象材の特徴を説明できる。 (2) 寒天印象材の特徴を説明できる。 (3) 寒天印象採得の操作を説明できる。	ハイドロコロイド印象材の特徴を表す用語についてまとめること (2時間) ゴム質印象材について (2時間)	認知 (想起)
5	5/9 (金) 3 限	川口	ユニット5 印象材 (2) [講義]	1) 合成ゴム質印象材の特徴を理解する。	(1) シリコンゴム印象材の特徴を説明できる。 (2) 連合印象を説明できる。	シリコンゴム印象材の特徴を表す用語についてまとめること (2時間) ゴム質印象材について (2時間)	認知 (想起)
6	5/16 (金) 3 限	川口	ユニット6 印象材 (3) [講義]	1) その他の印象材の特徴を理解する。	(1) ポリエーテルゴム印象材の特徴を説明できる。 (2) 非弾性印象材を説明できる。	非弾性印象材の種類と特徴をまとめること (2時間) 石こうについて (2時間)	認知 (想起)
7	5/23 (金) 3 限	川口	ユニット7 模型材 [講義]	1) 模型材の種類と特徴を理解する。	(1) 石こうの種類と特徴を説明できる。 (2) レジン系模型材の特徴を説明できる。	石こうの種類と特徴をまとめること (2時間) 合着材について (2時間)	認知 (想起)
8	5/30 (金) 3 限	川口	ユニット8 合着材と接 着材 (1) [講義] [ミ ニテスト]	1) 歯科用セメントの種類を理解する。 2) 歯科用セメントの特徴を理解する。	(1) 歯科用セメントの種類を説明できる。 (2) 歯科用セメントの所用性質を説明できる。	セメントの種類をまとめること (2時間) 合着材について (2時間)	認知 (想起)
9	6/6 (金) 3 限	川口	ユニット9 合着と接着 材 (2) [講義]	1) セメントの特徴を理解する。	(1) リン酸亜鉛セメントを説明できる。 (2) ポリカルボキシレートセメントを説明できる。 (3) グラスアイオノマーセメントの特徴を説明できる。	個別のセメントの種類をまとめること (2時間) 接着材料について (2時間)	認知 (想起)
10	6/13 (金) 3 限	川口	ユニット10 合着と接着 材 (2) [講義]	1) 接着の概念を理解する。 2) 接着性レジンセメントの特徴を理解する。	(1) 歯科での接着の重要性を説明できる。 (2) 接着性レジンセメントの特徴を説明できる。	レジンセメントの特徴をまとめること (2時間) 修復材料について (2時間)	認知 (想起)
11	6/20 (金) 3 限	川口	ユニット11 成形修復材 (1) [講義]	1) 成形修復の概念を理解する。 2) 成形修復材の種類を理解する。	(1) 成形修復材の所用性質を説明できる。 (2) 成形修復材の種類を説明できる。	コンポジットレジンの特徴をまとめること (2時間) 重合方法について (2時間)	認知 (想起)
12	7/4 (金) 3 限	川口	ユニット12 成形修復材 (2) [講義]	1) コンポジットレジンの特徴を理解する。	(1) コンポジットレジンの特徴を説明できる。 (2) 硬化方法と接着技法を説明できる。	コンポジットレジンの特徴をまとめること (2時間) グラスアイオノマーセメントについて (2時間)	認知 (想起)
13	7/11 (金) 3 限	川口	ユニット13 成形修復材 (3) [講義]	1) 充填用グラスアイオノマーセメントの特徴を理解する。	(1) グラスアイオノマーセメントの特徴を説明できる。 (2) 硬化方法と接着技法を説明できる。	グラスアイオノマーセメントの種類をまとめること (2時間) 仮封材について (2時間)	認知 (想起)
14	7/18 (金) 3 限	川口	ユニット14 仮封材 [講義]	1) 仮封材の特徴を理解する。	(1) 仮封材の種類と所用性質を説明できる。 (2) 仮封材の操作方法を説明できる。	仮封材の種類をまとめること (2時間) 技工材料について (2時間)	認知 (想起)
15	7/25 (金) 3 限	川口	ユニット15 技工用材料 [講義]	1) 間接法による修復物作製方法を理解する。 2) CAD/CAMを理解する。 3) 技工用材料の種類を理解する。	(1) 間接法について説明できる。 (2) CAD/CAMによる修復物作製方法を説明できる。 (3) ワックスや合金について説明できる。	間接法で用いられる材料の種類をまとめること (4時間)	認知 (想起)

歯科診療補助実習 I

開講時期： 1 年次前期
 授業時間数： 20 コマ；40 時間 1 単位
 受験資格要件： 4/5（20 コマ）以上の出席
 科目番号： DH011244
 評価責任者： 森 沙耶香
 授業担当者： 泉 喜和子、後藤加寿子、黒木まどか、
 井上 庸子、石井 綾子、南 レイラ、
 川尻 望、高木未沙稀、常清 美佑、
 森 沙耶香

1. 一般目標

将来、歯科衛生士として科学的根拠に基づいた歯科診療の補助を実施するために、必要な知識・技術を修得する態度、および論理的思考の基礎を修得する。なお初年次教育として、レポートの書き方、実習での心構えなどの学修を行う。

2. 教育方法

講義・実習・グループワークを行う。
 歯科医療機関において歯科医師あるいは歯科衛生士として診療に携わった実務経験を生かした実践的教育を行う。

3. 教育教材

教科書、プリント、PC+プロジェクター 各種実習器材

4. 学修方法

実習には、指定教科書と配布プリント等を必ず持参すること。下記予習項目に記載された教科書の該当箇所を読むなど、事前学修（予習）を行っていることを前提とする。実習中は、重要点など記録すること。実習後は、アクティブラーニングとして事後学習（復習）を行い、技術を修得すること。レポート課題は、締め切り期日を守ること。授業は定刻で開始する遅刻は欠席となる。本授業を理解する上で、歯科材料学の知識が必要である。
 [単位修得に必要な授業外学修時間：25 時間]

5. 評価方法

[形成的評価] 確認テスト、レポート
 [フィードバック] 不十分な部分についてコメントを行う。場合によっては再提出を求める。
 [総括的評価] 記述試験（70%） 課題レポート（20%） 授業参加状況・授業態度（10%）
 試験結果（成績）は、試験終了後に掲示する。
 [フィードバック] 以上を総合的に評価し、定期試験終了後に通知する。
 尚、詳細は講義の初日に説明する。

6. 教科書・テキスト

1. 「歯科衛生学シリーズ歯科診療補助論 第2版」 医歯薬出版 2025 年

7. 参考書

1. 「歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」 医歯薬出版 2024 年
 2. 「歯科衛生士のための歯科臨床概論」第2版 松井恭平 森崎市治郎 他 医歯薬出版 2024 年
 3. 「歯科衛生士国試対策集 2025 年対応」 歯科衛生士国試対策研究会編 クインテッセ出版 2024 年
 4. 「歯科衛生学シリーズ 保存修復学・歯内療法学」医歯薬出版 2023 年
 5. 「歯科衛生学シリーズ 歯科材料学」医歯薬出版 2023 年

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標(GIO)	行動目標(SBOs)	予習・復習項目と必 要時間	教育 目標 領域
1 2	A班 5/2 (金) 1.2限 B班 5/8 (木) 1.2 限	高木 井上 南 川尻 常清	ユニット 2 マネキンの取り扱い [実習]	1) マネキンの取り扱いおよび歯牙模型の取り扱いを理解する。	(1)適切にマネキン操作ができる。 (2)適切に歯牙模型の使用、管理ができる。	教科書 1. の「口腔の構成要素 P16-22」、 「基本設定 P185-188」を精読する。 (2時間)	認知 (想起) 情意 (受入) 精神運動 (模倣)

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標 (GIO)	行動目標 (SBOs)	予習・復習項目と必 要時間	教育 目標 領域
3 4	A班 5/14 (水) 1. 2限 B班 5/9 (金) 1. 2限	泉 森 井上 後藤 常清	ユニット 3 歯科診療における 基礎知識1 手指消毒、鉗子・ 撮子の取扱 [実習]	1) 手指の消毒を理解 する。 2) 滅菌・消毒器材の取 り扱いを理解する。	(1) 各種消毒・滅菌方法につ いて列記できる。 (2) 手指消毒やグローブの装 着・脱着が実施できる。 (3) 歯科用器材に応じた滅菌・ 消毒・洗浄を実施できる	教科書 1. のP28-43 を精読する (3時間)	認知 (想起) 精神運動 (模倣) 認知 (想起) 精神運動 (模倣)
5	5/21 (水) 2限	森 泉 後藤 石井 常清	ユニット1 診療室で扱う歯科 材料1 (印象材) ペースト練和 [実習]	1) 印象材の特徴、種 類、用途を理解す る。	(1) 印象材の特徴、種類、用途 を列記できる。 (2) 各種印象材の練和と管理を 実施できる。 (3) 印象採得とその対応を実施 できる。	ペースト練和法を復 習する。 (2時間)	認知 (想起) 精神運動 (模倣)
6 7	A班 5/23 (金) 1. 2 限 B 班 5/30 (金) 1. 2 限	森 後藤 黒木 石井 常清	ユニット1 診療室で扱う歯科 材料2 (印象材) ペースト練和 [実習]	1) 印象材の特徴、種 類、用途を理解す る。	(1) 印象材の特徴、種類、用途 を列記できる。 (2) 各種印象材の練和と管理を 実施できる。 (3) 印象採得とその対応を実施 できる。	ペースト練和法を復 習する。 (2. 5時間)	認知 (想起) 精神運動 (模倣)
8 9	A班 5/30 (金) 1. 2限 B班 5/23 (金) 1. 2限	高木 南 川尻 泉 井上	ユニット3 診療室で扱う歯科 材料8 (リン酸亜鉛セメ ント) [実習]	1) 各種合着材や接着剤 の特徴、種類、用 途、操作法を理解す る。	(1) 合着材や接着剤の特徴、種 類、用途、管理を説明でき る。 (2) 合着材や接着剤の練和を実 施できる。 (3) 仮着材の特徴、種類、用途 を説明できる。 (4) 仮着材の練和を実施でき る。	第7回目の講義プリ ントを精読する。 講義中に確認試験を 行う。 (2時間)	認知 (解釈) 精神運動 (コント ロール)
10 11	A班 6/5 (木) 1. 2 限 B 班 6/4 (水) 1. 2限	森 後藤 井上 石井 常清	診療室で扱う歯科 材料3 (印象材) 粉末練和 [実習]	1) 印象材の特徴、種 類、用途を理解す る。	(1) 各種印象材の練和と管理を 実施できる。 (2) 印象採得とその対応を実施 できる。	粉末練和の印象材の 復習を行う。 (2. 5時間)	認知 (想起) 精神運動 (模倣)
12 13	A班 6/11 (水) 1. 2 限 B 班 6/20 (金) 1. 2限	森 後藤 石井 常清	診療室で扱う歯科 材料4 (印象材) 上顎トレー盛り [実習]	1) 印象材の特徴、種 類、用途を理解す る。	(1) 各種印象材の練和と管理を 実施できる。 (2) 印象採得とその対応を実施 できる。	上顎トレー盛りの復 習を行う。 (2. 5時間)	認知 (想起) 精神運動 (模倣)
14 15	A班 6/20 (金) 1. 2 限 B 班 6/11 (水) 1. 2 限	高木 南 川尻 泉 井上	ユニット 4 診療室で扱う歯 科材料 6 (カルボキシルセメント) [実習]	1) 各種合着材や接着剤 の特徴、種類、用 途、操作法を理解す る。	(1) 合着材や接着剤の特徴、種 類、用途、管理を説明でき る。 (2) 合着材や接着剤の練和を実 施できる。 (3) 仮着材の特徴、種類、用途 を説明できる。 (4) 仮着材の練和を実施でき る。	講義プリントを精読 する。 (2時間)	認知 (解釈) 精神運動 (コント ロール)
16 17	A班 7/2 (水) 1. 2 限 B 班 7/4 (金) 1. 2限	森 後藤 石井 常清	診療室で扱う歯 科材料 5 (印象材) 下顎トレー盛り [実習]	1) 根管処置用器材の 取り扱いを理解す る。 2) 衛生材料の取り扱 いを理解する。	(1) 歯科衛生材料について説明 できる。 (2) 根管処置用器材の取り扱い を説明できる。 (3) ブローチ綿栓を作製でき る。	上顎トレー盛りの復 習・下顎トレー盛り の復習を行う。 (2. 5時間)	認知 (想起) 精神運動 (模倣)

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標 (GIO)	行動目標 (SBOs)	予習・復習項目と必 要時間	教育 目標 領域
18 19	A班 7/4 (金) 1.2限 B班 7/2 (水) 1.2限	高木 南 川尻 泉	ユニット 4 診療室で扱う歯 科材料 7 (酸化亜鉛エポキシ セメント) [実習]	1) 各種合着材や接着 剤の特徴、種類、 用途、操作法を理 解する。	(1) 合着材や接着剤の特徴、種 類、用途、管理を説明でき る。 (2) 合着材や接着剤の練和を実 施できる。 (3) 仮着材の特徴、種類、用途 を説明できる。 (4) 仮着材の練和を実施でき る。	講義プリントを精読 する。 (2時間)	認知 (解釈) 精神運動 (コントロール)
20	A班 7/10 (木) 2限 B班 7/11 (金) 2限	高木 井上 南 川尻 森	ユニット 2 衛生材料の取り扱い (綿栓作成) [講義・演習]	1) 根管処置用器材の 取り扱いを理解す る。 2) 衛生材料の取り扱 いを理解する。	(1) 歯科衛生材料について説明 できる。 (2) 根管処置用器材の取り扱い を説明できる。 (3) ブローチ綿栓を作製でき る。	参考書5のP 82-93を 精読する。 (2時間)	認知 (想起) 精神運動 (模倣)

歯科診療補助実習Ⅱ

開講時期： 1 年次後期
 授業時間数： 20 コマ；40 時間 1 単位
 受験資格要件： 4/5（16 コマ）以上の出席
 科目番号： DH011245
 評価責任者： 森 沙耶香
 授業担当者： 泉 喜和子、黒木まどか、井上 庸子、
 石井 綾子、南 レイラ、川尻 望、
 高木未沙稀、常清 美佑、北村 強志、
 森 沙耶香

1. 一般目標

将来、歯科衛生士として科学的根拠に基づいた歯科診療の補助を実施するために、必要な知識・技術を修得する態度、および論理的思考の基礎を修得する。

2. 教育方法

講義・実習・グループワークを行う。

大学病院等において、歯科医師、歯科衛生士として治療に携わった実務経験を生かした実践的教育を行う。

3. 教育教材

教科書、プリント、配布資料、PC+プロジェクター、各種実習器材

4. 学修方法

実習には、指定教科書と配布プリント等を必ず持参すること。下記予習項目に記載された教科書の該当箇所を読むなど、事前学修（予習）を怠らないこと。実習中は、重要点など記録すること。実習後は、アクティブラーニングとして事後学習（復習）を行い、技術を修得すること。レポート課題は、締め切り期日を守ること。実習は定刻に始まるので、遅刻は欠席になる。本授業を理解するうえで、歯科材料学、歯科補綴学、保存修復学の理解が必要となる。
 [単位修得に必要な授業外学修時間：5 時間]

5. 評価方法

[形成的評価] 確認テスト、レポート

[フィードバック] 不十分な部分についてコメントを付して返却し、場合によっては再提出を求める。

[総括的評価] 記述試験（70%）、実技試験（20%）、小テスト・レポート・授業態度（発問・質疑・グループワークでの発言や協力等）（10%）

[フィードバック] 試験結果のフィードバックは採点后、通知する。

6. 教科書・テキスト

1. 「歯科衛生学シリーズ歯科診療補助論 第2版」 医歯薬出版 2025 年

2. 『口腔衛生学-口腔保健統計を含む-第4版』学建書院 2022 年

7. 参考書

1. 「歯科衛生学シリーズ歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」 医歯薬出版 2024 年

2. 「歯科衛生学シリーズ歯科衛生学総論」 医歯薬出版、2023 年

3. 「歯科衛生士のための歯科臨床概論」第2版 松井恭平 森崎市治郎 他 医歯薬出版 2024 年

4. 「歯科衛生士国試対策集 2026 年対応」 歯科衛生士国試対策研究会編 クインテッセンス出版、2025 年

5. 「歯科衛生学シリーズ 保存修復学・歯内療法学」医歯薬出版、2023 年

6. 「歯科衛生学シリーズ歯科材料学」 医歯薬出版、2023 年

回	授業日	授業 担当者	ユニット番号 ユニット項目 [授業方法]	学修目標（GIO）	行動目標（SBOs）	予習・復習項目 と必要時間	教育 目標 領域
1	9/25 (木) 4 限	森	ユニット 2 歯科診療における基礎 知識 1 診療設備 [講義]	1) 歯科診療室の環境、設備について理解する。	(1) 歯科診療室の環境・設備について説明できる。 (2) 歯科用チェアユニットの各部の名称と使用の注意点について示すことができる。	教科書 1 の P50-56 を精読する (0.5 時間)	認知 (解釈) 精神運動 (模倣)

回	授業日	授業 担当者	ユニット番号 ユニット項目 [授業方法]	学修目標 (GIO)	行動目標 (SB0s)	予習・復習項目 と必要時間	教育 目標 領域
2 3	10/2 (木) 3.4 限	森 井上 南 川尻 高木	ユニット2 歯科診療における基礎 知識 1 (共同動作①) 術者・患者・補助者の ポジショニング (ユニット操作) [演習]	1) 歯科診療室の環 境、設備について理 解する。	(1) 歯科診療室の環境・設備に ついて説明できる。 (2) 歯科用チェアユニットの操 作を実施できる。	教科書 1 のP50-56 を精読する (0.5 時間)	認知 (想起) 精神運動 (模倣)
4	10/7 (火) 3 限	森 泉 井上 川尻 常清 高木	ユニット3 歯科診療における基礎 知識 2 (バキュームテ クニック) [講義]	1) 歯科診療におけ る共同動作を理解す る。(バキューム操 作・フォーハンデッ ドデンティストリー ー)	(1) バキュームの基本動作を説 明できる。 (2) フォーハンデッドデンティ ストリーについて説明でき る。	教科書 1 のP67-69. P 71-77を精読する (0.5 時間)	認知 (想起)
5 6	10/10 (金) 3.4 限	森 井上 南 川尻 常清 高木	ユニット3 歯科診療における基礎 知識2 (共同動作②) 切削時のバキュームテ クニック 3人1組1人目 [実習]	1) 歯科診療におけ る共同動作を理解す る。(バキューム操 作・フォーハンデッ ドデンティストリー ー)	(1) 切削時におけるバキューム の動作を実施できる。 (2) フォーハンデッドデンティ ストリーの共同動作を実施 できる。	教科書1. のP67-69. P 71-77を精読する (0.5 時間)	認知 (解釈) 精神運動 (模倣)
7 8	10/14 (火) 3.4 限	森 井上 南 川尻 常清 高木	ユニット3 歯科診療における基礎 知識4 (共同動作②) 切削時のバキュームテ クニック 3人1組2人目 [実習]				
9 10	10/16 (木) 3.4 限	森 井上 南 川尻 常清 高木	ユニット3 歯科診療における基礎 知識4 (共同動作②) 切削時のバキュームテ クニック 3人1組3人目 [実習]				
11 12	A-1 班 10/22 (水) 3.4 限 A-2 班 10/23 (木) 3.4 限 B-1 班 10/17 (金) 3.4 限 B-2 班 10/21 (火) 3.4 限	森 石井 泉 常清 南 高木	ユニット4 診療室で扱う歯科材料9 (印象材) (マネキン印象採得) [実習]	1) 印象材の特徴、 種類、用途、操作法 を理解する。	(1) 印象材の特徴、種類、用途 を説明できる。 (2) 各種印象材の練和と管理を 実施できる。 (3) 印象採得とその対応を実施 できる。	教科書 1 の P192- 202 を精読する。 (0.5 時間)	認知 (解釈) 精神運動 (コントロ ール)
13 14	11/7 (金) 3.4 限	高木 南 北村	ユニット 5 診療室で扱う歯科材料 10 (接着剤) [実習] サンメディカル	1) 各種合着材や接 着剤の特徴、種類、 用途、操作法を理解 する	(1) 合着材や接着剤の特徴、種 類、用途、管理を説明でき る。 (2) 合着材や接着剤の練和を実 施できる。 (3) 仮着材の特徴、種類、用途 を説明できる。	教科書 1 の P222- 233 を精読する (0.5 時間)	認知 (解釈) 精神運動 (模倣)
15	12/11 (木) 3 限	森	ユニット 4 診療室で扱う歯科材料 7 (仮封材) [講義]	1) 仮封材の特徴、 種類、用途を理解す る。	(1) 仮封材の特徴、種類、用 途、管理を説明できる。 (2) 仮封材の目的を説明でき る。	教科書 1 の P240- 250 を精読する 参考書 4 の P108- 119 を精読する (0.5 時間)	認知 (解釈)

回	授業日	授業 担当者	ユニット番号 ユニット項目 [授業方法]	学修目標 (GIO)	行動目標 (SB0s)	予習・復習項目 と必要時間	教育 目標 領域
16	12/11 (木) 4 限	石井	ユニット1 口臭測定 [講義・実習]	1) 口臭測定の意義について理解する。	(1) 口臭の検査法 (官能試験、口臭測定器) について列挙できる。 (2) 官能試験の方法を説明できる。 (3) 口臭測定器 (オーラルクロマ) の測定方法を説明できる。	口臭検査法および官能試験、オーラルクロマの測定方法を記載すること教科書2のP. 90-92 (0.5 時間)	認知 (解釈) 情意 (受入) 精神運動 (模倣)
17 18	12/16 (火) 3.4 限	森 泉 黒木 井上 常清 高木	ユニット6 診療室で扱う歯科材料 7 (仮封材) [実習]	1) 仮封材の特徴、種類、用途を理解する。	(1) 仮封材の特徴、種類、用途、管理を説明できる。 (2) 各種仮封材の操作を実施できる。	教科書1のP240-250を精読する 第18回の講義プリントを精読する (0.5時間)	認知 (解釈) 精神運動 (模倣)
19 20	1/9 (金) 3.4 限	森 井上 石井 南 高木 常清	ユニット4 診療室で扱う歯科材料 9 【実技試験】	1) 印象材の特徴、種類、用途、操作法を理解する。	(1) 印象材の特徴、種類、用途を説明できる。 (2) 各種印象材の練和と管理を実施できる。 (3) 印象採得とその対応を実施できる。 【授業アンケート】	教科書1のP192-202を精読する。 (0.5 時間)	認知 (解釈) 情意 (反応) 精神運動 (コントロール)

物理学

開講時期： 1年次前期
 授業時間数： 9コマ；18時間 1単位
 受験資格要件： 2/3（6コマ）以上の出席
 科目番号： DH012305
 評価責任者： 古野 みはる
 授業担当者： 川口 稔

1. 一般目標

日常臨床のさまざまな場面で物理現象が利用されている。本授業では高等学校で物理学を履修していなくても理解できるように、身近な物理現象を通じて基本的な物理学の考え方を理解する。これらの基礎知識を体系的に理解することで、豊かな教養と人間性を体得するとともに主体的な問題解決能力を身につける。そして歯科医療に関わる専門的な知識や技術を学ぶ上で必要となる物理的知識を論理的に分析・考察する科学的思考力を修得する。

2. 教育方法

講義を行う。また必要に応じてアクティブラーニング・小グループ学習・討議などを行う。

3. 教育教材

配布プリント

4. 学修方法

毎回講義内容に基づいた練習問題プリントを配布するので、予習と復習に活用すること。本授業では基本的事項を中心として解説するため、必ず前回の授業内容を復習の上、次回の授業に臨むこと。さらに授業終了時に次回の授業内容の概要を説明するので、次回の授業では、指示された内容に関して予習していることを前提に開始する。本授業は歯科材料学講義の理解に寄与するところが大きい。 [単位修得に必要な授業外学修時間：29 時間]

5. 評価方法

[総括的評価] 記述試験（90%）・授業参加状況（予習・復習の実施状況等）（10%）
 [フィードバック] 試験結果のフィードバックは採点后に解答例を通知し、今後の関連科目の学習に必要な注意点などを掲示する。

6. 教科書・テキスト

なし。講義実施時に応じた練習問題と資料プリントを配布する。

7. 参考書

なし。

回	授業日	授業担当者	ユニット番号 ユニット項目 [授業方法]	学修目標（GIO）	行動目標（SB0s）	予習・復習項目 と必要時間	教育 目標 領域
1	4/11 (金) 4 限	川口	ユニット1 歯科臨床での物理現象 [講義]	1) 物理現象の応用例を理解する。 2) 物理量を表す単位を理解する。	(1) 物理量とは何かを説明できる。 (2) 物理量の単位を説明できる。	基本単位と組み立て単位を比較してまとめること (4 時間)	認知 (想起)
2	4/18 (金) 4限	川口	ユニット2 力学（1） [講義]	1) 物体の運動を理解する。 2) 速さと速度の違いを理解する。	(1) 速さと速度の違いを説明できる。 (2) 等速直線運動を説明できる。	物体の等速運動を表す用語についてまとめること (2時間) 加速度について（1時間）	認知 (想起)
3	4/25 (金) 4限	川口	ユニット3 力学（2） [講義]	1) 加速度を理解する。 2) 等加速度直線運動を理解する。	(1) 加速度の意味を説明できる。 (2) 等加速度直線運動を説明できる。	加速度運動を表す用語についてまとめること（2時間） 力のつり合いについて（1時間）	認知 (想起)
4	5/2 (金) 4限	川口	ユニット4 力学（3） [講義]	1) 物体に作用する力を理解する。 2) 人体に作用する力のつり合いを理解する。	(1) 力の単位を説明できる。 (2) 人体の作用する力のつり合いを説明できる。	力のつり合いについてまとめること（2時間） 運動方程式について（1時間）	認知 (想起)
5	5/9 (金) 4限	川口	ユニット5 力学（4） [講義]	1) 力学的エネルギーを理解する。 2) 力学的エネルギー保存則を理解する。	(1) 力学的エネルギーの種類を説明できる。 (2) エネルギー保存則の実例を説明できる。	力学的エネルギーについてまとめること（2時間） 圧力について（1時間）	認知 (想起)

回	授業日	授業 担当者	ユニット番号 ユニット項目 [授業方法]	学修目標 (GIO)	行動目標 (SBOs)	予習・復習項目 と必要時間	教育 目標 領域
6	5/16 (金) 4限	川口	ユニット6 圧力 [講義]	1) 圧力の単位を理解する。 2) 気圧と血圧を説明する。 3) 応力とひずみの関係を説明する。	1) 単位の国際表記を説明できる。 2) 空気の力を説明できる。 3) 物質 (材料) の変形について説明できる。	圧力の表し方について (2時間) オームの法則について (1時間)	認知 (想起)
7	5/23 (金) 4限	川口	ユニット7 電磁気 (1) [講義]	1) 電気量を理解する。 2) オームの法則を説明する。	(1) 電荷とは何かを説明できる。 (2) オームの法則を説明できる。	オームの法則をまとめること (2時間) クーロンの法則について (1時間)	認知 (想起)
8	5/30 (金) 4限	川口	ユニット8 電磁気 (2)	1) クーロンの法則を理解する。 2) 電磁誘導の特徴を理解する。	(1) クーロンの法則を説明できる。 (2) 電磁誘導の応用例を説明できる。	クーロンの法則をまとめること (2時間) 放射線について (1時間)	認知 (想起)
9	6/6 (金) 4限	川口	ユニット9 核物理学 [講義]	1) 放射線の種類を理解する。 2) 半減期を理解する。 3) 被曝の単位を理解する。	(1) 放射線の種類を説明できる。 (2) 半減期とは何かを説明できる。 (3) 放射線被曝の単位を説明できる。	放射線の種類と影響をまとめること (4時間)	認知 (想起)

化学

開講時期： 1 年次前期
 授業時間数： 9 コマ；18 時間 1 単位
 受験資格要件： 2/3（6 コマ）以上の出席
 科目番号： DH012306
 評価責任者： 古野 みはる
 授業担当者： 谷口 卓

1. 一般目標

歯科衛生士になるために学ぶ生化学や生理学などの専門基礎科目の理解に必要な化学的基礎知識を修得する。
 高校で習った化学からの橋渡しを考慮しながら、化学についての基本的な項目を学ぶとともに論理的な分析や考察ができる能力を身につける。

2. 教育方法

講義を行う。また、与えた課題について小グループ学習を行うことで理解を深める。

3. 教育教材

講義ごとにプリントを配布する。

4. 学修方法

高校で化学を履修していない学生は、高校教科書相当の書籍で関連部分を予習しておく。高校で化学を履修した学生は、講義までに授業内容を教科書で確認しておく。講義には必ず出席し、授業中は配布プリントに書き込みを行うこと。講義後は配布されたプリントを見直し、復習しておく。本授業は後期の口腔生化学や口腔生理学の理解に不可欠である。

[単位修得に必要な授業外学修時間：27 時間]

5. 評価方法

[形成的評価] 定期試験（記述試験）（95%）および、授業参加状況（予習・復習の実施状況等）（5%）

[フィードバック] 採点后、試験成績を通知する。

6. 教科書・テキスト

特に指定しない。授業中にプリントを配布する。

7. 参考書

特に指定しない。

回	授業日	授業担当者	ユニット番号 ユニット項目 [授業方法]	学修目標（GIO）	行動目標（SB0s）	予習・復習項目 と必要時間	教育 目標 領域
1	4/11 (金) 4 限	谷口	ユニット1 物質の成り立ち [講義]	1) 物質の化学的な 成り立ちについて 理解する。 2) 原子の構造につ いて理解する。	(1) 混合物と純物質、単体と化合物 を区別することができる。 (2) 原子核や電子について説明でき る。 (3) 原子の電子配置について説明 できる。	高校教科書の見直し (1.5 時間) 講義の配布資料の見 直し (1.5 時間)	認知 (想起)
2	4/18 (金) 4 限	谷口	ユニット2 元素の周期性 [講義]	1) 周期表の特徴を 理解する。 2) 周期表における 元素の分類を理 解する。	(1) 元素の周期律について説明で きる。 (2) 典型・遷移元素、金属元・非金 属元素の違いについて説明で きる。	前回の講義の配布資 料の見直し (1.5 時間) 講義の配布資料の見 直し (1.5 時間)	認知 (想起)

回	授業日	授業 担当者	ユニット番号 ユニット項目 [授業方法]	学修目標 (GIO)	行動目標 (SB0s)	予習・復習項目 と必要時間	教育 目標 領域
3	4/25 (金) 4 限	谷口	ユニット3 化学結合Ⅰ [講義]	1) イオンとイオン結合について理解する。 2) 金属結合について理解する。	(1) イオンの化学的性質を説明できる。 (2) イオン結合がどのように形成されるかを説明できる。 (3) 金属結合がどのように形成されるかを説明できる。	前回の講義の配布資料の見直し (1.5 時間) 講義の配布資料の見直し (1.5 時間)	認知 (想起)
4	5/2 (金) 4 限	谷口	ユニット4 化学結合Ⅱ [講義]	1) 共有結合について理解する。 2) 分子間で形成される結合について理解する。	(1) 共有結合がどのように形成されるかを説明できる。 (2) 水素結合やファンデルワールス力がどのように形成されるかを説明できる。 (3) 分子間力の特徴について説明できる。	前回の講義の配布資料の見直し (1.5 時間) 講義の配布資料の見直し (1.5 時間)	認知 (想起)
5	5/9 (金) 4 限	谷口	ユニット5 溶液と濃度 [講義]	1) 溶液の濃度を示す様々な単位について理解する。	(1) 溶液、溶質、溶媒について説明できる。 (2) 溶質と溶媒の量から溶液の濃度を計算できる。 (3) 溶液の濃度を様々な単位を用いて示すことができる。	前回の講義の配布資料の見直し (1.5 時間) 講義の配布資料の見直し (1.5 時間)	認知 (想起)
6	5/16 (金) 4 限	谷口	ユニット6 溶液の性質 [講義]	1) 気体と液体の関係について理解する。 2) 浸透圧やコロイドについて理解する。	(1) 液体に溶解する気体の質量が圧力と温度によって変化することを説明できる。 (2) 溶液の濃度と浸透圧の関係について説明できる。 (3) コロイドの化学的性質について説明できる。	前回の講義の配布資料の見直し (1.5 時間) 講義の配布資料の見直し (1.5 時間)	認知 (想起)
7	5/23 (金) 4 限	谷口	ユニット7 酸と塩基 [講義、 小グループ学習]	1) 酸と塩基の定義について理解する。 2) pH の意味と計算方法について理解する。 3) 緩衝液の性質について理解する。	(1) 酸・塩基の化学的性質について説明できる。 (2) 水素イオン濃度と pH との関係について説明できる。 (3) 緩衝作用について説明できる。	前回の講義の配布資料の見直し (1.5 時間) 講義の配布資料の見直し (1.5 時間)	認知 (想起)
8	5/30 (金) 4 限	谷口	ユニット8 有機化合物Ⅰ [講義]	1) 有機化合物の構造について理解する。 2) 有機化合物の性質について理解する。	(1) 構造式から有機化合物の命名ができる。 (2) 代表的な有機化合物の名称と化学的性質について説明できる。 (3) 高分子化合物の合成反応について説明できる。	前回の講義の配布資料の見直し (1.5 時間) 講義の配布資料の見直し (1.5 時間)	認知 (想起)
9	6/6 (金) 4 限	谷口	ユニット9 有機化合物Ⅱ [講義]	1) 生体高分子の構造について理解する。 2) 生体高分子の性質について理解する。	(1) アミノ酸・タンパク質の構造や化学的性質について説明できる。 (2) 脂質の構造や化学的性質について説明できる。 (3) 糖質の構造や化学的性質について説明できる。	前回の講義の配布資料の見直し (1.5 時間) 講義の配布資料の見直し (1.5 時間)	認知 (想起)

介護研修

開講時期： 1～3 年次 通信＋集中講義
 授業時間数： 131.5 時間 4 単位 94 コマ
 (集中講義 60 コマ 13 日間、施設見学 1 日間)
 受験資格要件： 131.5 時間の履修
 科目番号： DH043401
 評価責任者： 古野みはる
 授業担当者： 秋竹 純、齊田直樹、中園栄里
 吉田一生、古野みはる、田口智章

1. 一般目標

将来、歯科衛生士として必要な高齢者や障害者を支援するための基礎的知識や技術（身体介護・生活援助・多様な対象者とのコミュニケーション技術）を理解することで、対象者の QOL の向上支援を行う視点を身に付ける。また、地域包括ケアシステムの中で社会や他者のために責任ある行動がとれ、多職種と連携・協働し、根拠や理論に基づいた口腔介護（口腔衛生管理および口腔機能管理）の提供ができる能力を修得することを到達目標とする。

2. 教育方法

受講生は24名限定とする。それを超える場合は教科担当者による選抜を行う。通信による部分は科目ごとに課題が提示され、添削が行われる。対面授業では、講義・演習を一体的に行う。（福岡県の「介護職員初任者研修」事業の指定を受けた内容に基づいて実施する）アクティブラーニング・小グループ学習・体験実習
 高齢者施設で社会福祉士・介護福祉士として支援に携わった実務経験を生かした実践的教育を行う。

3. 教育教材

教科書、プリント、PC＋プロジェクター、介護実習に使用する備品

4. 学修方法

介護職員初任者研修修了のためには、通信学習40.5時間、対面授業91時間の出席が必要である。人数は24人以内に限定する。通信学習については、科目ごとに指定された課題を期限内に提出すること。対面授業については、集中講義となるため、欠席しないこと。本授業は、高齢者・障害者歯科学と密接な関係があり、臨床・臨地実習での患者や利用者理解に不可欠である。
 【単位修得に必要な授業外学修（予習・復習）時間：42時間】

5. 評価

〔総括的评价〕修了試験(70%)、課題提出状況(10%) 授業参加状況(予習・復習の実施状況等)(20%)
 〔フィードバック〕課題レポートは内容に不足があった場合、個別指導の上再提出を求められる場合がある。
 試験結果(成績)は、試験終了後に掲示する。

6. 教科書・テキスト

- 「介護職員初任者研修テキスト1～介護のしごとの基礎」第4版 中央法規出版、2023 年
- 「介護職員初任者研修テキスト2～自立に向けた介護の実践」第3版 中央法規出版、2023 年

7. 参考書

特になし

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標(GIO)	行動目標(SBOs)	予習・復習 項目と 必要時間	教育目 標領域
1 2 3 4		古野	ユニット1 職務の理解 (通信0時間、対面 6時間) 講義・演習	1) 多様なサービスについて 列挙できる。(3時間)	(1)介護保険サービスによる居宅サ ービスの種類とサービスの提供される 場を説明できる。 (2)介護保険による施設サービスの種 類とサービス提供される場を説明で きる。 (3)介護保険外サービスの種類とサ ービス提供される意義や目的を説明で きる。	予習：居宅・施設サ ービスの種類を調べて ノートにまとめる (1時間) 復習：施設生活の1 日(代表例)の流れを ノートにまとめる。 (1時間)	認知 (想起)
				2) 介護職の仕事内容や働く 現場について理解する。 (3時間)	(1)各種サービスの内容や利用者像な どを通じて介護職の仕事内容や働く 現場を説明できる。 (2)ケアマネジメントと、介護サー ビス提供に至るまでの流れを説明で きる。 (3)チームアプローチの必要性と、具 体的な連携方法を説明できる。	予習：介護に携わる チームメンバーを調 べノートにまとめ る。(1.5時間) 復習：介護サービ ス提供までの流れにつ いてノートにまとめ る。(1時間)	

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標 (GIO)	行動目標 (SB0s)	予習・復習 項目と 必要時間	教育目 標領域
5		古野	ユニット2 介護における尊 厳の保持・自立支 援 (通信7.5時間、 対面1.5時間)	1) 人権と尊厳を支える介護 について理解する。(6時間)	(1) 介護の目標や展開について、尊厳 の保持、QOL、ノーマライゼーショ ン、自立支援の考え方を取り入れて 説明できる。 (1) 虐待の定義、身体拘束及びサー ビス利用者の尊厳、プライバシーを傷 つける介護についての基本的なポ イントを列挙できる。	予習：人権と尊厳を 守る上で重要なこと をノートにまとめる。 (1時間) 復習：虐待の種類と 定義についてノー トにまとめる。 (1時間)	認知 (想起)
6 7		古野	ユニット3 介護の基本 (通信3 時間、対面3時間)	1) 介護職の役割、専門性と 他職種との連携について理 解する。(2時間)	(1) 介護の目指す基本的なものは何か を概説でき、家族による介護と専門 職による介護の違い、介護の専門性 について説明できる。 (2) 介護職に共通の基本的な役割とサ ービスごとの特性、医療・看護との 連携の必要性について説明できる。	予習：医療・看護・ 福祉との連携の必要 性をノートにまとめる。 (1.5時間) 復習：介護事故の事 例をノートにまとめる。 (1.5時間)	認知 (想起)
				2) 介護職の職業倫理 につ いて理解する。(2時間)	(1) 介護に関わる際の職業倫理の重要 性を理解し、利用者や家族と関わる 際の留意点についてポイントを列挙 できる。		
				3) 介護における安全の確保 とリスクマネジメントにつ いて理解する。(2時間)	(1) 生活支援の場では出会う典型的な事 故や感染、介護における主要なリス クを列挙できる。 (2) 介護職起りやすい健康障害や受 けやすいストレス、またそれらに対 する健康管理、ストレスマネジメント のあり方、留意点等を列挙でき る。		
8		古野	ユニット4 介護福祉サービ スの理解と医療との 連携 (通信7.5時間、対 面1.5時間)	1) 介護保険制度について理 解する。(3時間)	(1) 生活全体の中で介護保険制度の位 置付けを理解し、各サービスや地域支 援の役割について列挙できる。	予習：介護保険制度 の目的を調べノート にまとめる。 (2時間) 復習：障害者総合支 援法の目的と対象者 を調べノートにまと める。 (2時間)	認知 (想起) 精 神 運 動 (模倣) 情意 (受入・ 反応)
				2) 障害者総合支援制度及び その他の制度について理解 する(3時間)	(1) 高齢障害者の生活を支えるための 基本的な考え方を理解し、代表的な障 害福祉サービス、権利擁護や成年後見 制度の目的、内容について列挙でき る。		
				3) 医療との連携とリハビリ テーションについて理解す る。(2時間)	(1) 医行為の考え方、一定の要件の下 に介護福祉士等が行う医行為などに ついて列挙できる。		
9 10		古野	ユニット5 介護におけるコ ミュニケーション技 術 (通信3時間、対面3 時間)	1) 介護におけるコミュニ ケーションについて理解する。 (3時間)	(1) コミュニケーションの意義、目的、 役割を説明できる。 (2) 利用者の状況、状態に応じたコ ミュニケーション技術を説明できる。	予習：言語的・非言語 的コミュニケーション の種類を調べ ノートにまとめる。 (1時間) 復習：報告・連絡・相 談の留意点をノー トにまとめる。 (1.5時間)	認知 (想起) 情意 (受入・ 反応)
				2) 介護におけるチームコ ミュニケーションにつ いて理解する。(3時間)	(1) 記録における情報の共有化の意義 を説明できる。 (2) チームにおける報告・連絡・相談 の必要性を説明できる。		
11 12		田口	ユニット6 老化の理解 (通信3時間、対面3 時間)	1) 老化に伴うこととから だの変化と日常について理 解する。(3時間)	(1) 老年期の発達と老化に伴う心身 の変化の特徴を列挙できる。 (2) 老化に伴う日常生活への影響につ いて説明できる。	予習：代表的な老化 学説をノートにまと める(1.5時間)	認知 (想起)
				2) 高齢者と健康について理 解する。(3時間)	(1) 高齢者の症状、疾患の特徴を列挙 できる。 (2) 高齢者に多い病気と日常生活上の 留意点を説明できる。	予習：生活習慣病の 原因を調べノートに まとめる。(1.5時間)	
13 14		吉田	ユニット7 認知症の理解 (通信3時間、対面3 時間)	1) 認知症を取り巻く状況 (環境)を理解する。 2) 医学的側面から見た認知 症の基礎と健康管理を理解 する。(2時間)	(1) 認知症ケアの概念を説明できる。 (2) 認知症の原因疾患とその形態を列 挙できる。	予習：「新オレンジブ ラン」を調べてノー トにまとめる。 (2時間) 復習：認知症と間違 いやすい疾患をノー トにまとめる。 (2時間)	認知 (想起) 情意 (受入・ 反応)
				3) 認知症に伴うこととから だの変化と日常生活を理 解する。(2時間)	(1) 認知症の人の生活障害、心理・行 動障害の特徴を列挙できる。		
				4) 家族への支援について理 解する。	(1) 家族へのレスパイトケアの種類や 方法について説明できる。		

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標 (GIO)	行動目標 (SB0s)	予習・復習 項目と 必要時間	教育目 標領域
15		古野	ユニット8 障がい理解 (通信1.5時間, 対 面1.5時間)	1) 障害の基礎的な理解をする。 2) 障害の医学的な側面、生活 障害、心理・行動の特徴、か かわり支援の等の基本的な 理解をする。(2時間) 3) 家族の心理、かわり支援 について理解する。(1時間)	(1) 障害の概念とICFについて説明で きる。 (2) 障害種別ごとの特性を理解で きる。 (1) 家族の理解と障害受容支援の必要 性について説明できる。	[医学モデル] と [生活モデル] の違 いについてノートに まとめる(1.5時間) レスパイトサービスの 種類について調べ ノートにまとめる。 (1.5時間)	認知 (想起)
16		古野	ユニット9 人権学習(通信0, 対 面1.5時間)	1) 高齢者問題をはじめとする 人権問題を理解する。(1.5 時間)	(1) 高齢者や障害者が守られるべき人 権について説明できる。	人権意識を持つため に大切なことをノー トにまとめる。(1時 間)	認知 (想起)
17 18		吉田 秋竹	ユニット10 こころとからだの しくみと生活支援 技術 (通信12時間, 対面 63時間)	1) 介護の基本的な考え方を 理解する。(3時間) 2) 介護に関するこころのしく みの基礎的理解をする。 (3時間) 3) 介護に関するからだのしく みの基礎的理解をする。 (3時間) 介護学内実習オリエンテー ション(1時間)	(1) 要介護高齢者の生活状況について 概説できる。 (2) 要介護高齢者の身体状況に合わせ た介護、環境整備のポイントについ て列挙できる。 (3) 人の記憶の構造や意欲等を支援と 結びつけて概説できる。	予習：介護施設の1日 の流れを調べノート にまとめる(1時間) 復習：環境整備が要 介護高齢者に及ぼす 影響についてノート にまとめる。(1時間)	認知 (想起) 情意 (受入・ 反応)
19 ～ 53		中園		1) 生活と家事を理解する。 (5時間)	(1) 家事援助の機能と基本原則につい て列挙できる。 (2) 家事援助とは何か具体的に説明で きる。	予習：自身が住む家 で快適と感じる場所 をノートにまとめる。 (2時間) 復習：福祉用具の活 用事例をノートにま とめる。(2時間)	認知 (想起) 精 神 運 動 (模倣) 情意 (受入・ 反応)
		齊田		2) 快適な居住環境整備と介 護を理解する。(5時間)	(1) 快適な居住環境のポイントを列挙 できる。 (2) 高齢者・障害者特有の居住環境と 福祉用具の活用方法が説明できる。		
		秋竹 齊田		1) 整容に関連したこころと からだのしくみと自立に向 けた介護を理解する。 (5時間)	(1) 装うことや整容の意義について解 説できる。 (2) 指導を受けながら根拠に基づいて 部分的な介護を行うことができる。	予習：整容とは何か 調べノートにまとめる。 (1時間) 復習：演習内容のま とめと振り返りのレポ ートを作成 (1時間)	
		秋竹 齊田		1) 移動・移乗に関連したこころ とからだのしくみと自立に向 けた介護を理解する。(5 時間)	(1) 体位変換と移動・移乗の意味と関 連する用具・機器やさまざまな車い す、杖などの基本的使用方法を概説で きる。 (2) 体位変換と移動・移乗に関す からだのしくみが理解され、指導に基づ いて介助を行うことができる。	予習：移動手段の種 類を調べノートにま とめる。 (2時間) 復習：演習内容のま とめと振り返りのレポ ートを作成 (1時間)	
		秋竹 齊田		食事に関連したこころとからだ のしくみと自立に向けた 介護を理解する。(7時間)	(1) 食事の意味と食事を取り巻く環境 整備の方法が列挙でき、食事に関する からだのしくみが理解され、指導に基づ いて介助を行うことができる。 (2) 口腔ケアの重要性について列挙で き、具体的な介助を行うことができる。 (3) 喀痰吸引が必要な高齢者の食事助 を行う際に必要な注意点が列挙でき る。	予習：食事の目的を 調べノートにまとめる。 (1時間) 復習：演習内容のま とめと振り返りのレポ ートを作成 (1時間)	
		秋竹 齊田		入浴、清潔保持に関連したこころ とからだのしくみと自立 に向けた介護を理解する。 (5時間)	(1) 入浴や清潔の意味と入浴を取り巻 く環境整備や入浴に関連した用具を 列挙できる。 (2) 入浴に関わるからだのしくみが理 解でき、指導に基づいて介助を行うこ とができる。	予習：清潔の目的を 調べノートにまとめる。 (1時間) 復習：演習内容のま とめと振り返りのレポ ートを作成 (1時間)	
		秋竹 齊田		排泄に関連したこころとからだ のしくみと自立に向け た介護を理解する。(5時間)	(1) 排泄の意味と排泄を取り巻く環境 整備や関連した用具を列挙でき、排泄 に関するからだのしくみが理解され、 指導に基づいて介助を行うことができ る。	予習：排泄介助時の 注意点を調べノート にまとめる。 (1時間) 復習：演習内容のま とめと振り返りのレポ ートを作成 (1時間)	

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標 (GIO)	行動目標 (SB0s)	予習・復習 項目と 必要時間	教育目 標領域
		秋竹 齊田		睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護を理解する。(5時間)	(1)睡眠の意味と睡眠を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙でき、睡眠に関するからだのしくみが理解され、指導に基づいて介助を行うことができる。	予習：睡眠の重要性を調べノートにまとめる。 (1時間) 復習：演習内容のまとめと振り返りのレポートを作成 (1時間)	
		秋竹 齊田		死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護に向けた介護を理解する。(5時間)	(1)ターミナルケアの考え方、対応の仕方、留意点、本人・家族への説明と了解、介護職や他の職種との連携（ボランティアを含む）について列挙できる。	予習：ターミナルケアで大切なことを調べてノートにまとめる。 (2時間) 復習：授業で視聴するVTRの感想をレポートにまとめる。 (2時間)	
		秋竹		介護実習オリエンテーション	介護施設見学		
54		秋竹		1) 介護過程の基礎的理解ができる。(3時間)	1) 支援を行う際の思考過程を具体的に説明できる。	予習：ニーズとデマンドの違いをノートにまとめる。 (2時間) 復習：授業中に指示された事例をノートにまとめる。 (2時間)	認知 (想起) (1) 情意 (受入・反応)
55				2) アセスメントの重要性について理解できる。(3時間)	1) アセスメントとは何か説明できる。		
56 57				3) 介護過程の基本を踏まえ、課題解決に向けたアセスメントを展開できる。 (4時間)	1) 事例問題からアセスメントを行い、具体的な課題を抽出できる。		
58 59 60		秋竹	ユニット11 振り返り（通信0時間、対面4時間）	1) 研修全般の総括及び学びを振り返る。 (4時間)	1) 要介護高齢者への支援に必要な基本知識が概説できる。	予習：提示された課題を熟読する。 (2時間) 復習：初任者研修全般の振り返りをレポートにまとめる。 (2時間)	認知 (想起)
		古野 秋竹	修了テスト				

福岡医療短期大学

〒814-0193 福岡市早良区田村二丁目15番1号

電 話 092 (801) 0439

F A X 092 (801) 4473